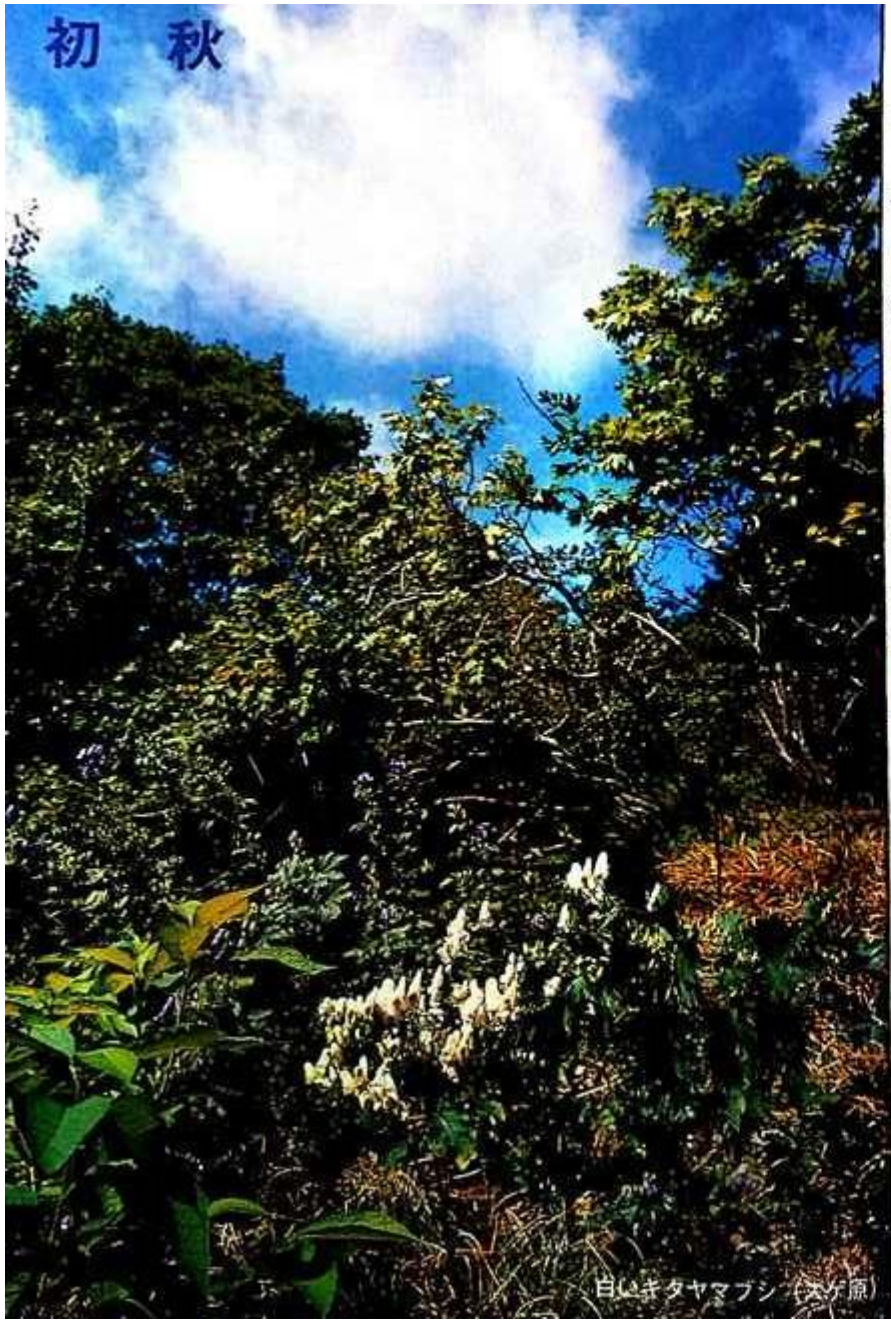


世界の山旅 秘境の旅

「一人ではいけない…でも行きたい。」
それにお応えするのが実体験に基づいたアルパインツアーの旅づくりです。

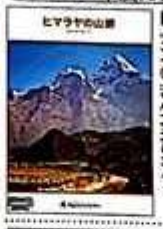
ヒマラヤ・トレッキングの集い

■日時：9月1日(水)14：00～16：00
■会場：大阪科学技術センター（OSTEC）B102
（地下鉄本町駅より徒歩5分、四ツ橋線3番ゲート・うつぼ公園北側）
■予約：☎06-6444-3033

日本初のピオレドール賞の受賞者、谷口・平出コンビによるガウリシャンカール東壁挑戦の記録映像「Challenge is my life」を上映

ヒマラヤの山旅

2010年度カタログ発表



■10月よりトレッキングシーズン到来。大人気の定番企画から、まだトレッカーの少ない秘境まで、全27コースの豊富なラインナップを満載しています。

世界遺産サガルマータ国立公園をゆったりと歩く

エベレスト・ゆったりトレッキングと絶景の展望ロッジ滞在 13日間

出発日：10/14、10/22、11/5、11/18、12/9他
旅行代金：¥356,000～¥366,000（大阪発着）

憧れの巨峰をハイキングと展望フライトで満喫

ヒマラヤ山脈8,000m峰 9座展望とハイキング 10日間

出発日：10/29、11/12、12/24、12/27他
旅行代金：¥398,000～¥462,000（大阪発着）

ニュージーランドの山旅

ニュージーランド航空・日本就航30周年記念
特別企画 人気の2コース発表

■手つかずの大自然が魅力のニュージーランド。定番コースに加え、ニュージーランド航空・日本就航30周年を記念した、リーズナブルな特別企画も発表しました！

特別企画 リーズナブルな旅行代金でNZ定番の人気コースを楽しめるチャンス

ミルフォード・トラックとマウントクック 10日間

出発日：11/3
旅行代金：¥486,000（東京発着）

特別企画 原生林・滝・山上湖・大パノラマと変化に富んだ山歩きが魅力

ルートバーン・トラックとマウントクック 8日間

出発日：11/5
旅行代金：¥438,000（東京発着または大阪発着）

アルパインツアーのホームページをご覧ください。　http://www.alpine-tour.com

紅葉期のような風景、連なる大岩峰、秋の東部アルプスを満喫

秋のドロミテとオーストリア・ハイキング 9日間

発着 大阪、名古屋、東京
出発日：10/1、10/8
旅行代金：¥408,000

秋のベストシーズンにロッキーのハイライト盛沢山のハイキング三昧！

秋のカナディアン・ロッキー満喫ハイキング 8日間

発着 東京 ※大阪/東京間国内線割引制度あり
出発日：9/15、9/22、9/29、10/4
旅行代金：¥362,000

中国・雲南省の3つの世界遺産認定と3つの名峰観望、完全ロッジトレッキング

梅里雪山トレッキングと玉龍雪山、シャングリラ、麗江探訪 12日間

発着 大阪、福岡、名古屋、東京
出発日：10/10、10/17
旅行代金：¥342,000

掲載のツアー以外にも多くの企画がございます。まずはカタログをご請求ください。

観光庁長官登録旅行業第490号／(社)日本旅行業協会正会員　ボンド保証会員
アルパインツアーサービス株式会社
〒550-0003 大阪市西区京町堀1-4-3 TCF肥後橋ビル2F
東　京／☎03(3503)1911　大　阪／☎06(6444)3033
名古屋／☎052(581)3211　福　岡／☎092(715)1557
札　幌／☎011(711)7106　仙　台／☎022(265)4611(転送)
(㈱)りんゆう観光)　広　島／☎082(542)1660(転送)
e-mail:osaka@alpine-tour.com

今すぐご請求ください！　黄葉・紅葉の9月～10月

世界の山旅 ～秋のキャンペーン～

（ご紹介地域）ヨーロッパ・アルプス、北欧、カナダ・ロッキー、ユーコン、カナダ東部、アラスカ、米本土、中国、台湾、韓国、西オーストラリア ほか
空が澄みわたり、森や大地が黄金色に染まる秋。そんな秋が満喫できる魅力的な世界の山旅を、全28コースご紹介しています。

近江の山

花暦 ―初秋―

山本武人

初秋の比良山に咲く花

数年前、比良山系で初めて見た白いキタヤマブシ（トリカブトの一種）に感激した。同山中にはキタヤマブシは多い。特にスゲ原は登山道に列をなす。その一角に白い花はあった。

私は白いキタヤマブシの咲くところはここだけしか知らない。「朽木いきものふれあいの里」の青木繁さんは野坂山系にも見られると話す。

キタヤマブシ以外にもタマガワホトトギス・ヤマジノホトトギス・リンドウ・オタカラコウなど、比良の秋は多くの花が咲く。

紫色のリンドウは秋のシンボル

ヤマジノホトトギス（奥の深谷）

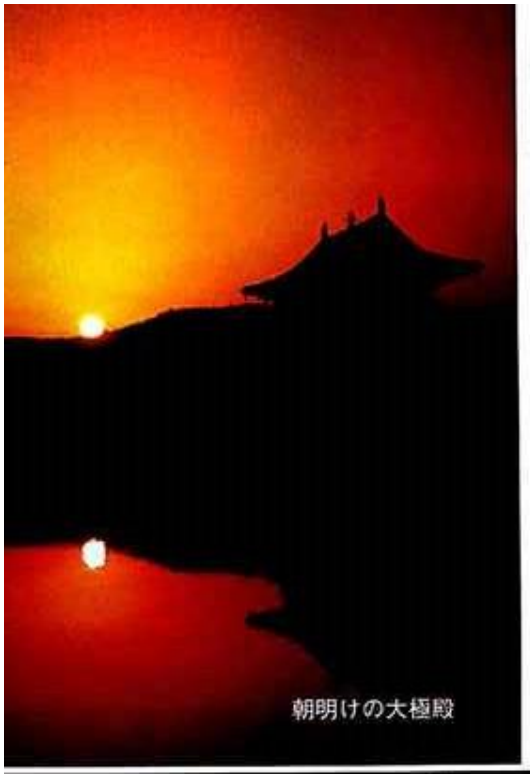
登山道に連なるキタヤマブシ（スゲ原）

タマガワホトトギス（広谷）

Photo essay

菊花開

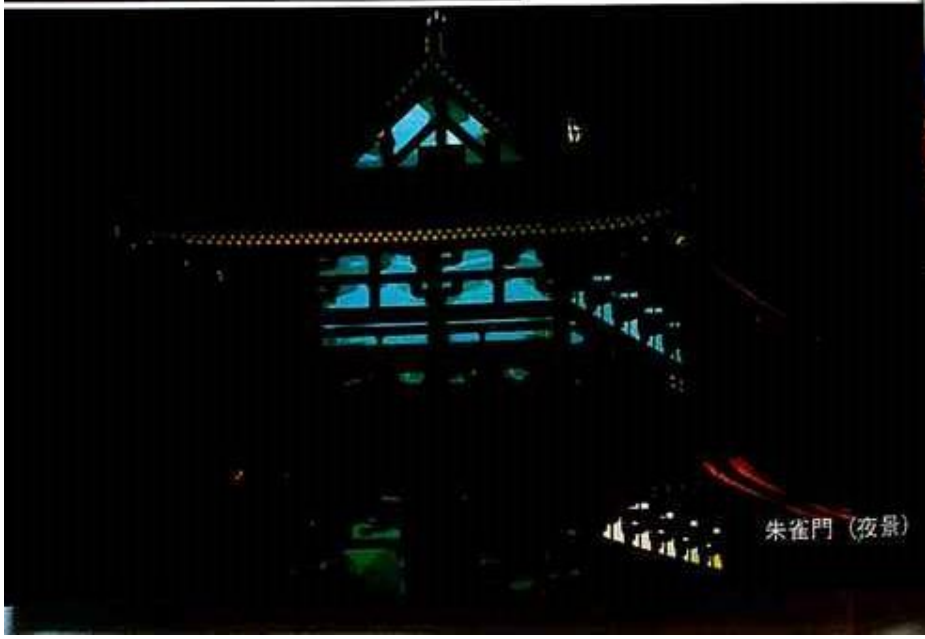
題字　中田蘭石
撮影　由井　収
文　松永恵一



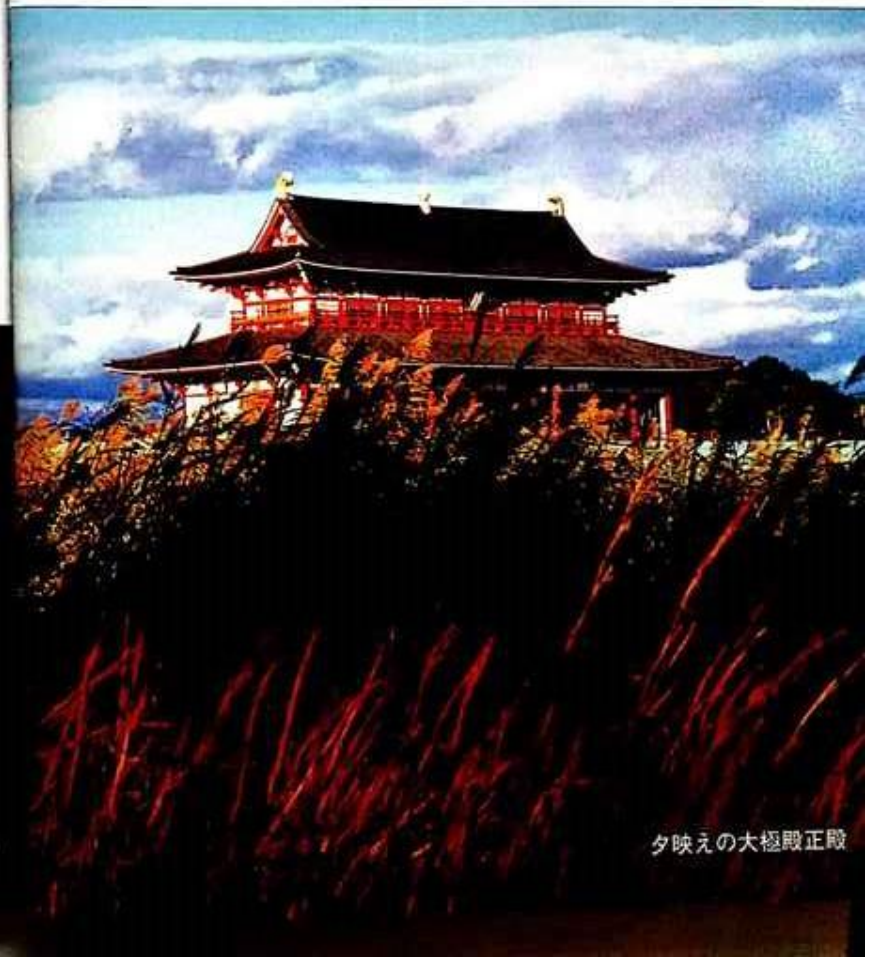
朝明けの大極殿

菊花開（きくのはなひらく）

菊は日本の秋を象徴する花
菊人形、菊花壇、大輪の「大菊」
色鮮やかに再現された大河ドラマ
背筋を伸ばして凛と咲いている
後鳥羽院は菊の花を好み印とした
「菊紋」は天皇家の家紋になった
綺麗な夕焼けが広がっている
朱雀門の北に堂々と聳える大極殿
高い基壇、丹塗りの柱、瓦葺
殿内には高御座が据えられ
即位の大礼や元日朝賀の国家儀式
外国使節歓迎儀式がおこなわれた
朱雀門はライトアップが行われる
闇夜に幻想的に浮かび上がる



朱雀門（夜景）



夕映えの大極殿正殿

季節の実景

大台ケ原

撮影　武市通治

初秋

朽ちゆく

風倒木

山腹夕照

山並遥か

三兄弟

北穂高岳山頂より朝の常念岳（北アルプス）　今村克美

秋・北山の峠（持越峠）　山中　茂

朝日に映える明神岳（北アルプス）　高岡富美子

秋の山道（白山・別当出合付近）　[illegible]

新ハイキング
関西の山
9・10月 2010（初秋）
No.114

西穂岳
（西村文男）

●表紙 「徳本峠より霞の穂高連峰を仰ぐ」（北アルプス） 松田敏男
●口絵 近江の山「花暦」…… 山本武人
Photo essay「菊花開」…… 松永恵一
季節の実景「大台ケ原」…… 武市通治
山中 茂・一芝義雄・今村克美・高岡富美子
「秋色に移ろう季節」…… 奥田英一郎

特集 初秋に歩く山 3コース…… 編集室 12
①大日三山…… 14
②雨飾山…… 16
③火打山から妙高山…… 18

紀行
福岡野に続く道…… 滝老原睦治 20
笈ケ岳…… 山田 明男 25
古城山と男鹿三山…… 木村 太郎 28
小金沢連嶺から南大菩薩…… 田中 明 36

連載紀行
標高による山の紹介 △△14℃の山…… 松田 敏男 34
三角点を訪ねて 地蔵杉へ…… 磯部 純 41
韓国登山シリーズ「冠岳山」…… 吉見 英樹 52
文学歴史ハイク「適塾と除痘館記念資料室を訪ねて」…… 松永 恵一 56

研究
旅振り通信の新研究「江戸ルートについて」…… 柴田 昭彦 46

レポート
山の地名を歩く「羽賀場山」…… 西尾 寿一 60
無限江山「秋は高みからやってくる2」…… 槿上 俊雄 63

コースガイド
①山背古道…… 長宗 清司 66
②芦川谷南尾根…… 磯部 純 68
③旅振り山（中山峠）…… 柴田 昭彦 72
④花摘ノ峰・天梯ノ峰・神蔵山…… 松尾 一郎 76

せせらぎ…… 80
サービスチェーン…… 83
山行計画・報告…… 87
会員募集・新入会員紹介
訂正とお詫び…… 111
原稿募集・編集後記
広告案内…… 112

巻頭言

「新ハイキング」の活動拠点は東京と関西。それぞれが地域に密着した山の情報を提供し、それらの山に登ることを目標にしている。

大手の山の雑誌は北アルプスなど超有名な山岳が中心。それと比較して新ハイの情報や例会は、自ら岳人と名乗る人には物足りないし、初心者にはやや難しい。「ハイキング」という名称自体がいい加減なものでどっちつかずのイメージ、登山とピクニックの中間に位置し、日帰りで目いっぱい歩ける地元の山を対象にしている。

いまや新ハイ会員の多くは60歳以上の中高年だ。若くてバリバリの現役で健脚の人とは違う。1000m程度の山を中心に、昔の経験を生かしながらみんなで協力し、森のなかをゆっくりと歩くのである。下山後、ときには温泉で汗を流し、山麓の地元料理に舌鼓をうつ。これでよいのだ。無理せず元気に歩けるのであれば……。

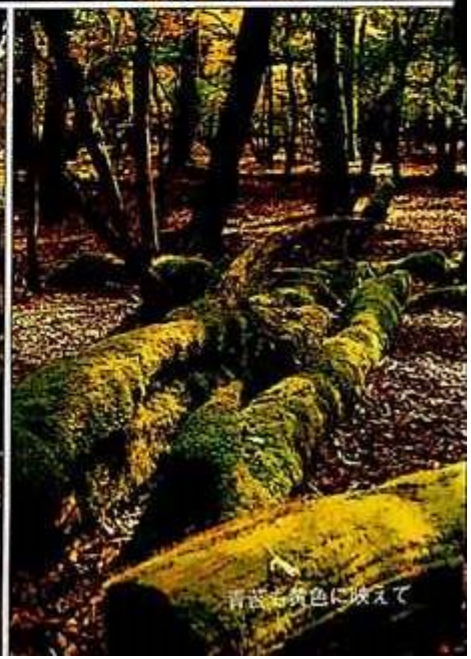
新ハイキング関西（代表）村田哲夜

秋色に移ろう季節 —10月の西大台—

奥田 英一郎

あるがままの色彩

七ツ池付近の自然林


青苔も黄色に映えて

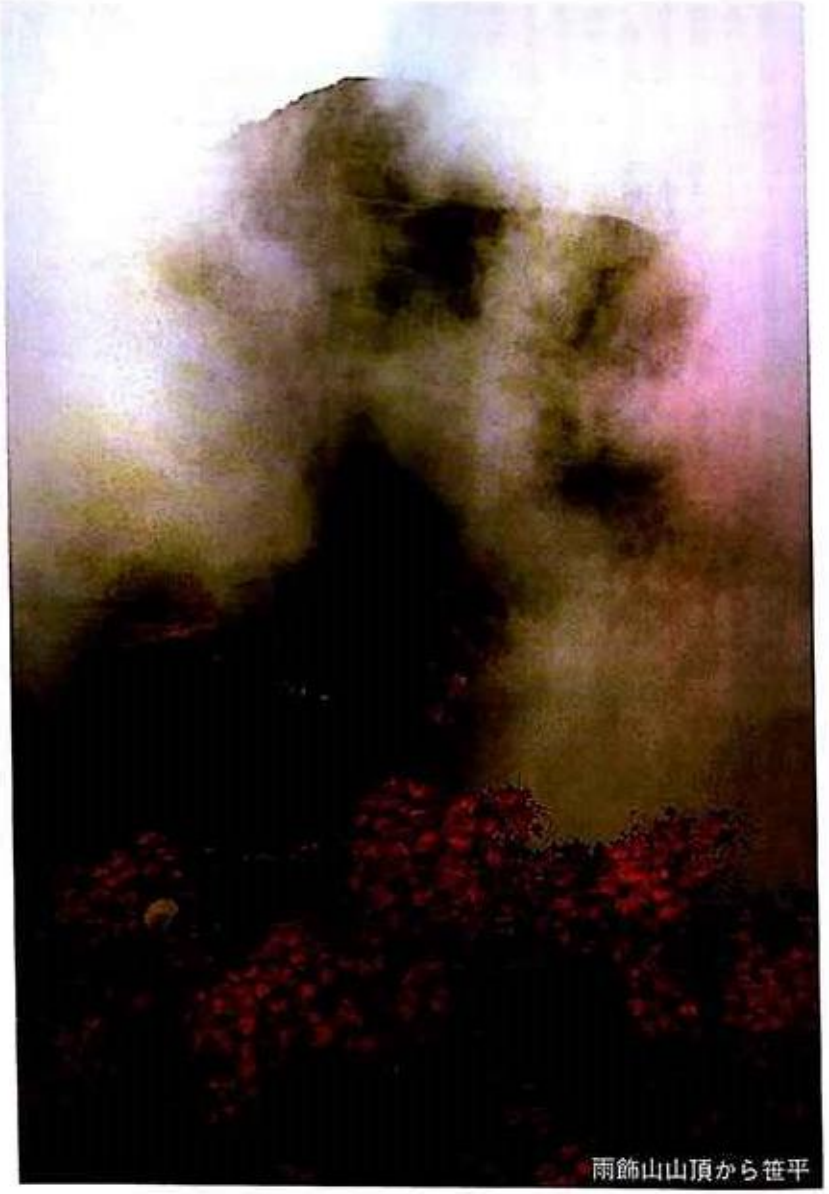
特集

初秋に歩く山　3コース

— 編集室—

① 大日三山（北アルプス）
② 雨飾山（上信越）
③ 火打山から妙高山（上越）

荒菅沢



雨飾山山頂から笹平

特集①　北アルプス

立山連峰の紅葉の垂直分布が楽しめる

大日三山

中級コース（★★★　）

体力のある人は称名滝から登ると感動もひとしおだが、一般的には登りの少ない室堂からがお勧めだ。ここに着いたらまずは名水「玉殿の湧水」を味わい、水筒に入れておこう。

村田代表の食事療法の根幹をなすのも天然水であり、健やかな身体を育む貴重な山の恵みといえるだろう。ともあれ、周辺の山小屋で1泊し、大日三山の山旅は雷鳥沢からスタートということになる。

雷鳥沢の橋を渡って新室堂乗越まではわずかな登りで、草紅葉を愛でながら体を慣らしてゆく。振り返る立山三山は思いのほか高くそびえ、山崎カールや地獄谷の噴煙がこの山を特徴づけ、紅葉もひときわ味わい深い。

稜線に出れば奥大日も肩を怒らせた姿で出迎えてくれ、登高欲をかき立てられる。前山に登ると間近にそびえるが、三角点のある山頂は左奥であり、捲きながら高度を上げてゆく。東側の最高点との吊尾根へ出て、尾根伝いに進むとわずかに急峻な西大谷側に突き出た山頂へ着く。鋭い三角形で天を突き上げているような剱岳の雄姿は見飽きることはない。

大日平

次の中大日との間の登山道は変化に富み、ハシゴを下り、岩棚の道を登ったりで気が抜けない。落石に注意して慎重に進もう。巨岩の自然庭園である七福園でゆっくり休んだ後は、わずかな登りで中大日を越え、ハイマツの広い尾根をくだると、大日小屋前広場に下り着く。

奥大日岳

ここも剱の好展望台であり、朝夕の景色を堪能できることからここに泊まるのがよい。宿泊の手続きを済ませ荷物を置いて、大日岳を往復しよう。三山の中でもっとも展望が広い山頂であり、手軽に登ることができるので富山湾から日本海に沈む夕陽にあわせて登るのもよい。

大日小屋から大日平までは急斜面のくだりで、ナナカマドの多い美しい紅葉越しに弥陀ヶ原や近くに鍬崎山、遠くに薬師岳を望みながら進むと傾斜がゆるくなり、木道を歩くようになると大日平だ。

大日平山荘で休憩し、高原風景を堪能した後は牛ノ首となり、細い尾根のハシゴが連続する急な称名坂（最近、7月の豪雨で崩壊、現在通行禁止）となる。

やがてブナ林に入り、ぐんぐんくだると称名滝への道に出る。ここから滝まで20分であり、紅葉に彩られた立山連峰の水を集める日本最大の滝は、山旅のフィナーレにふさわしい。（檀上）

＊このコースは、9月17日からの新ハイ例会の一部として実施する。

《コースタイム》
室堂バスターミナル（50分）雷鳥沢（2時間30分）奥大日岳（1時間30分）中大日岳（30分）大日小屋（大日岳往復30分）大日小屋（1時間50分）大日平（2時間20分）称名滝バス停

〈地形図〉
2万5千＝立山・剱岳

特集②　上信越

姫川右岸の広大なブナ林にそびえる名峰

雨飾山

健脚コース（★★★★　）

日本百名山で採り上げられてから多くの岳人に登られている山である。そびえ立つ山容は変化に富み、登りがいがあり、麓の秘湯とあわせてブナ林紅葉の山旅が楽しめる。体力があれば新潟側から登り、長野側にくだるコースがお勧めだ。

登山口は梶山新湯「雨飾山荘」、ここに泊まって露天「都忘れの湯」に浸かり英気を養い、早朝に出発したい。

宿からは隣接する海谷山塊の駒ケ岳、鬼ケ面山、鋸岳の岩峰群が圧巻。

いきなりの急坂が続き、尾根に出ると難所のぞき、さらに断続的に急坂が続く。ハシゴを登り、ブナ林の紅葉に励まされながら高度を稼ぐ。道は北面を捲くようになり、中ノ池へ着く。

また急坂となり、一気に急斜面を登る。背の高いネマガリタケが一面に現れ、登り切ると笹平だ。

草原がゆるやかに起伏し、正面に岩山の雨飾山が姿を見せる。山頂直下はかなりの急傾斜だが、岩の窪みにうまく道が付けられていて快適だ。

山頂はかわいい双耳峰で、北峰は立派な石仏が並び、南峰は三角点があってこちらが最高点。展望は北峰がよく、日本海から白馬連峰までの大パノラマに目は釘づけとなる。振り返って火打山、焼山、金山、天狗原山の稜線も見事だ。急峻な山だけにその高度感は標高以上のものがある。糸魚川静岡構造線フォッサマグナの一端にあたり、この活動のなかでアルプスが出来、日本列島形成に大きな役割を担ったことから、眼下の糸魚川は世界ジオパークに登録されている。

笹平へ戻り、先の分岐を通り過ぎると荒菅沢へくだる道となる。こちらも急な尾根のくだりでハシゴもあり、慎重に進みたい。尾根から斜面に道が移ると沢音が近づき荒菅沢へ下り立つ。

岩峰がそそり立つ豪快な沢の秋の紅葉はため息が出るほどすばらしい。道は左岸から右岸に移り、わずかに登り返してブナ原生林に入る。巨樹が林立し、ここの紅葉も迫力満点だ。

捲きながら高度を下げてゆき、最後は支尾根をくだると荒菅沢下流の大海川に出て、木道を進むと雨飾高原キャンプ場に出る。

日数に余裕があれば小谷温泉でもう1泊し、湯峠から大渚山を目指そう。往復約2時間で、ここからのブナ原生林にそびえ立つ雨飾山は絶景。さらに紅葉の名所鎌池に立ち寄り、登った山の見おさめをするのも山旅にふさわしい。

（檀上）

《コースタイム》

雨飾山荘（3時間30分）笹平（20分）雨飾山（15分）笹平（1時間）荒菅沢（1時間30分）雨飾高原キャンプ場

〈地形図〉2万5千＝雨飾山

大渚山から雨飾山

雨飾山山頂

特集③　上越

温泉と紅葉、百名山ふたつを楽しむ

火打山から妙高山

中級コース（★★★）

高嶺の紅葉は10月初旬、温泉に泊まってふたつの百名山を目指す絶好のコースを紹介する。

山中に山小屋が二軒あり、高層湿原に宿泊しての山歩きが楽しめる。「高谷池ヒュッテ」から見上げる火打山は迫力があり、草紅葉の湿原の上にそびえている。一方、「黒沢池ヒュッテ」は火打山と妙高山の中間にあって、ふたつの百名山を同時に楽しみたいという人には最適な位置にある。

関西からは遠く、前日に山麓の赤倉温泉か池ノ平に入り、温泉に1泊して翌朝から登ることになる。

登山口の笹ヶ峰へは、JR妙高高原駅からバスで50分、旅館手配のタクシーなら30分で着く。笹ヶ峰は、高原の牧場地で、国民宿舎・キャンプ場もある登山基地だ。

登山1日目は、火打山を目指す。黒沢出合までは坦々とした登りで、樹林帯のなかに木道が整備されている。1時間弱で黒沢に到着する。橋を対岸に渡ると急な登りが待っているので、河原で休憩していこう。

黒沢からしばらく行くと、道は急になってくる。ジグザグに切られていて「十二曲り」と呼ばれる所だ。それにしてもかなりな急登だ。時間には十分余裕があるので、ゆっくりと一歩一歩登っていこう。

尾根にのればやや楽になる。富士見平が近づくといっそう楽になり、あたりの光景を見る余裕がでてくる。富士見平は分岐になっていて左の高谷池から火打山方面へ。まっすぐは黒沢池から妙高山に行ってしまう。

道は右側の黒沢岳を捲くように付けられていて登りのきつさはあまり感じない。やがて湿原帯に入り、高谷池ヒュッテに到着する。

小屋にザックを預け、火打山へは空身で往復する。天狗の庭を過ぎ、だらだと尾根道を行けば、火打山の山頂だ。

さすが百名山、広大な山岳展望と眼下には草紅葉の湿原が展開するだろう。高谷池ヒュッテから往復3時間みておけばよい。

少人数であればここで宿泊するとよい。ヒュッテ前のベンチでゆっくりくつろげ、暮れゆく火打山の光景が楽しめるであろう。

登山2日目は、高谷池から茶臼山の尾根にのり、1時間で黒沢池にくだる。黒沢池ヒュッテ前からいったん大倉乗越に登るが、これからの下り道はきつい。ロープに助けられながらくだる所も多く、コースタイムは30分とあるが、グループだと30分以上はかかるだろう。

燕（つばめ）新道出合からは、妙高山への急登が始まる。1時間以上をかけてゆっくりと登らなくてはならない。山頂部に着き右へ廻り込んで行くと、やっと妙高山の山頂に到着する。

ここも百名山、大パノラマを楽しむことができ、昨日登った火打山の後方には北アルプスが広がっている。

天狗の庭から火打山

下山は妙高大神社から尾根をくだり、鎖場を通過して天狗平に下り、燕登山道と分かれて大谷ヒュッテ（避難小屋）にくだる。ここに林道が上がっているが、林道の途中から赤倉登山道に入り、樹林帯の道を赤倉温泉にくだる。

鎖場は、最近整備されて安全になった。往路を笹ヶ峰にくだってもよいが、時間的にずいぶん短縮できる。（村田）

＊このコースは、10月9日から3日間の新ハイ例会で実施する。

《コースタイム》

＜1日目＞JR妙高高原駅（バス50分）笹ヶ峰（50分）黒沢出合（1時間20分）富士見平（40分）高谷池ヒュッテ（1時間30分）火打山（1時間）高谷池ヒュッテ

＜2日目＞高谷池ヒュッテ（1時間）黒沢池ヒュッテ（10分）大倉乗越（30分）燕新道出合（1時間10分）妙高山（30分）鎖場（35分）天狗平（15分）大谷ヒュッテ（1時間30分）赤倉温泉

＜地図＞昭文社＝「妙高・戸隠・雨飾」

紀行

藤原岳治田鉱山古道探索

福岡野の続く道

海老原睦治

鈴鹿

治田鉱山は、藤原岳周辺の南河内山（松谷、三鉱谷、添水）・君ケ畑山（蛇谷）・多志田山・野尻山の治田四ヶ山といわれる銀・銅山の総称になっている。

治田四ヶ山は、江戸時代以降は幕府や藩の管理下に置かれた。最後の山師五代アイが治田鉱山を撤退するまでの300年間、採掘場は移り変わってきたが、最終的に精錬した所は福岡野になる。

福岡野は現在の上平溜という溜池あたりになる。精錬の際に出るカラミの大山が所どころにあり、石金山と呼ばれていたようだ。ただ、昭和16年に四日市の石原産業に搬出され、現在は何も残っていない。福岡野は「もののけ姫」のタタラ場のイメージが思い浮かぶ。

桃ノ木尾を上る牛道

精錬所のある福岡野まで鉱石やインゴット（金属を精製して塊としたもの）を運んだ牛道が続いているようだ。牛道は、県境尾根の孫太夫山（835㍍）のあたりから蛇谷側を通り、多志田山（965㍍）には登らずに三鉱谷側をトラバースして孫太尾根にのり、草木（834㍍）を経て追分に達している。

以前の孫太尾根はやぶに包まれ、牛道ははっきりとわかっていなかった。現在の鈴鹿は、ササが60年周期で枯れる地根茎の時期にあたるようで、ササ枯れが目立つ。そのぶん、やぶが激しく苦労した山域も現在は手こずらずに歩けるようになっている。

孫太尾根の追分から草木まで牛道はしっかり残っている。牛道は、草木や多志田山では頂上部分を捲き、高低差を極力少なくしている。また、尾根をたどらざるをえない急な斜面においては、つづら折れに道を付けるなど、重い鉱石を牛が運ぶための工夫がなされている。草木を過ぎて多志田山の捲き道に入ると、これまでと違って途端に怪しくなり、バリエーションルートのようになってくる。急斜面のトラバースルートなので牛道は崩れ、登山道としてようやく残っている状態だ。この道も県境尾根に入ると蛇谷側にしっかりとした溝状の牛道が再び現れてくる。

今回は、未調査になっている①福岡野から追分までの牛道、②南河内山から牛道に続く人足道の探索を行うことにした。

福岡野の上平溜という溜池の横に駐車して桃ノ木尾を目指す。西尾氏の『鈴鹿の山と谷2』にある「追分から桃ノ木谷へ運んだとされるのは桃ノ木尾を経由したことが地名からも推察される」という文が気になって、このルートを選んだ。駐車地から林道を少し登って行くと、林業関係と思われる小屋が見えてくる。ここから林道の下を流れる沢まで下り、尾根に取り付く。

尾根に取り付いたらそこに溝道があった。溝道はシダでおおわれているものの桃ノ木尾を登っている。植林地のなかを捲いたり、急な斜面ではつづら折れの道をつくりながら溝道を着実に登っていく。今の林業関係者にとって溝道は邪魔なようで、伐採した木や枝の捨て場のようになっている。歩き始

めて40分で林道にぶつかる。林道に寸断された溝道を探し、再び尾根へ。しばらく行くと、岩がつづら折れ状に並んでいる。近づくと、溝道いっぱいに岩が詰っている。そこを登ると再び林道に出た。林道（435㍍）が大きな岩の間を通っている。林道を通すために大岩を削り、岩を林道から落とした時に溝道に岩が堆積したようだ。この林道から再び尾根道に入る。ここからは、赤テープが突然現れ、踏跡もしっかりしてくる。

この地点から登る人が多いようだ。ただ、これまでのような溝道は減っていく。しばらく行くと多志田谷から登ってくる尾根に合流する。ここには、桃ノ木尾への分岐の目印となるモミノキの大木が植林のなかに残されている。気持ちのよい尾根道を行くと孫太尾根の追分に着いた。ここから草木まで1時間。

牛道は、福岡野から追分まで林道に分断されながらもしっかり残っていた。この道をどれだけの人や牛が歩いたものかと、思いをめぐらせた。

（平成21年11月15日歩く）

《コースタイム》

福岡野（40分）林道（45分）追分（1時間）草木

県境沿いの鉱山から牛道を使い、遠く離れた福岡野まで鉱石を運ぶ必要があったのか。当時の鉱山は現地精錬が普通で、治田鉱山の場合もいくつかの精錬所跡が山中に見られる。精錬には大量の薪・木炭が必要で、「治田の場合は銅鉱石三千八百貫で六十八・七貫の荒銅を得るために、木炭千二百貫、焼木二千百貫を要している」（『伊勢治田銀銅山の今昔』）という。

鉱山が繁昌すれば、山が丸ごと伐採されてしまい、薪・木炭はすぐに底をついてしまう。元禄時代には「特に南河内山における採鉱が繁昌し、その製錬のため江州（滋賀県）の木立や根までも掘りつくしてしまったので三日三夜で道をつけ福岡野まで鉱石を運び出し、伊（伊勢）尾（尾張）熊野から木炭を買い上げて灰吹きをはじめた」（『北勢町史』）という。

これらの古文書から考えると、①県境稜線から孫太尾根の牛道を使い福岡野に行くことができる、②現地での薪・木炭の入手が難しい、これらの理由から福岡野で精錬せざるをえなかったのではないだろうか。初期の蛇谷だけではなく、多志田山や南河内山で採掘された鉱石も人足により牛道のある尾根まで担ぎ上げ、福岡野まで運ばれたようである。

各鉱山から牛道に通じる人足道が通っていた。南河内山の場合は、添水（添水銀山道）・桧谷（桧谷道）・三鉱谷（与平治谷道、大谷道）があり、君ヶ畑山は（蛇谷道）、多志田山は（多志田道）になる。これらの道は江戸時代の『南河内山図』（1774年）に載っている。

元禄時代に南河内山から三日三夜で道を付け福岡野まで鉱石を運び出したとされる道を探すことにした。元禄時代に南河内山で繁栄していたのは桧谷であり、三鉱谷の稼業は元禄時代から

約80年後であることを考えると、三日三夜で付けた道は桧谷から七曲がりを経て高コバに上がる道と考えてよさそうである。そして、三鉱谷で稼業が始まってから両かれたのが南河内山図になる。今回は、桧谷の人足道を追って歩くことにした。

青川ゲートに駐車して歩き出す。2008年9月2日の豪雨で土砂に埋まった青川に下りると水量が多い。週末の雨の影響で、いつもは楽な渡渉もきょうばかりは場所を選んで渡らざるをえない。ヤスミを過ぎて隧道が見えてきた。隧道から水が大量に流れ二段滝が出来ている。

日ノ丘を越えて桧谷に入る。青川の遠足尾根側の谷が土石流でやられているのとは対照的に孫太尾根側の三鉱谷や桧谷は昔のたたずまいを残している。9月に入山した時は、古道をたどろうと斜面の獣道を歩いてけっこう時間がかかったので、きょうはできるだけ谷中を歩くようにする。

ナガオトシの二条5㍍の滝を左岸から越え谷を進むと、仙右衛門鋪のある六ショウ滝と鉱山跡の石垣が見えてくる。この滝の横に石積みで護られた平地があり、仙右衛門鋪の坑口や床吹跡などが残されている。ただ、石積みと平地の一部は9・2豪雨で流され、今はもうない。左岸の坑口の手前から登る。仙右衛門鋪をのぞくと水を湛えている。坑口の目印の杉の木は弱っているものの残っていた。石積みの上にはカラミが残っており床吹跡とわかる。

さて、ここからは滝が連なるので基本的に右岸の斜面をトラバースすることになる。時折、古道らしきものも見えるが、歩かれなくなって長い時間が経っており、道が落ちている所も多くあり当てにならない。古道なのか獣道なのかもわからない状態だ。おまけに落ち葉の季節で足元を確かめながら歩く。しかも雨の後とあって落ち葉の下は滑りやすいし、へたをすると岩もズボッと抜けてしまう。ほどよい緊張感のなか、山神谷の出合に到着。ここで左岸に渡り、高コバに登っていく。

登り始めた所で坑口を発見、中は埋没している。少し登ると台地に出た。鉱山関連の施設が昔はあったのだろう。ただ台地といっても平地ではなく、ゆるやかな広い斜面といった感じで、以前の平地が少しずつ自然に還り始めている。

ここから七曲がりといわれる古道が

六ショウ滝と鉱山跡

人足道の杉

続く。この道はわかりやすいように目印となる大木がほどよく残されており、添水銀山道と同じ先人の知恵が垣間見える。登り切って高コバに着く。獣道を選びながらトラバースして行くと、添水鉱山から下ってきている小谷に着くが、目印となる杉の大木が見えない。もう一度高コバに戻り、中尾の手前まで登る。ここで猟師に出会う。「きょうは桧谷に7人の猟師が入っている」と言う。このあたりから再度、獣道を使ってトラバースして行く。すると道沿いに大きなミズナラを発見。しばらくすると小谷、そのど真ん中で杉の大木が天を突いていた。こりゃ大きいな、胴回りよりも木の高さに驚いた。山が丸ごと伐採されてしまい古木の少ないこのあたりの山域では目立つ大きさだ。人足道の目印として残されたものだと考えられる。杉の横には窯跡、水場もあり、広々した明るい場所だ。鉱石を運んだ人足もきっとここで休んだのだろう。

峠に続く掘割にそって登るとゆるやかな広い斜面の平地に到着。獣道を登っていくと吹床跡の石垣があった。よくもまあこんな高い所で吹いたものだ。地元に伝わる労作歌を思い出した。

「ここは釜屋　いもじゃさんか　一夜泊まりで　タタラふむぇー　高い山から　お寺を見れば　今は踊りの　花盛り」

少し登ると県境尾根に出た。尾根の反対側には牛道が続いている。

今回着いたのは孫太夫山の治田峠側の峠で、前回添水銀山道を歩いて着いたのは孫太夫山の藤原岳側の峠だった。この両方の峠が蛇谷道として使われていたようだ。

桧谷から高コバへの道は七曲がりが示すように当時はつづら折れの歩きやすい道だったのだろう。目印の大木を残すなど先人の知恵が感じられる。高コバからのトラバース道は獣道と化しているが、高低差を感じさせない歩きやすい道だった。そして杉の大木からのゆるやかな登りも当時はつづら折れになっていたのだろう。

こうして実際歩いてみて、先人の知恵にふれたように思う。今回たどった道を使って人足が鉱石を担ぎ上げたと考えてよさそうである。

県境尾根からは、古道の目印の杉の大木がよく見える。これだけ目立てば目印としてはこの木一本で足りたのかもしれない。（平成21年11月26日歩く）

《コースタイム》
青川駐車場（2時間）仙石衛門鋪（45分）七曲がり（1時間30分）人足道の杉（25分）県境尾根（20分）治田峠
＜地形図＞2万5千＝竜ヶ岳

紀行

往復12時間かかる 笊ヶ岳

山田明男

南アルプス南部

200名山の中で特にきつい山が本州に5山あるといわれていて、佐武流山・毛勝山・笈ヶ岳・鋸岳、そして笊ヶ岳の名が挙がっている。北海道ではカムイエクウチカウシ山が挙がっている。

最も時間がかかる山としては同じ200名山の赤牛岳が挙げられており、30時間はかかるものの特にきつくはないが、2泊では無理で、普通には3泊で登られているようだ。

2009年のシルバーウィークに、千枚岳・荒川三山・赤石岳を計画したが、実際に計画すると、3日間では行けないとわかり、3日で行ける笊ヶ岳に登ることにした。なかなか行けないきつい山なので、参加する人は少ないと思ったが、10人になった。

笊ヶ岳山頂

集合したのは地下鉄上社駅に9時であった。東名高速の渋滞で岡崎付近で40～50分のロスを見込めば、国道を走っても同じ時間に三ケ日インターに到着できそうだ。渋滞が始まる手前で高速から国道に降り、大井川の上流を目指した。

静岡インターから畑薙ダムまで約3時間かかる。静岡まで行ったら15時のバスに間に合わない。電話で聞くと「16時までは待つ」と言うが、間に合うように金谷付近から北上した。大井川の上流へは狭い道路でくねくねとしており、速度は出せない。

15時少し前に畑薙ダムのゲート駐車場に着いた。多くの人で車を駐める場所がなく、少し下方の路肩に停めた。

バスを待つ人も大勢いて、マイクロバス三台とワゴン一台が満員であった。高速道の渋滞で15時に間に合わないツアー客は1時間遅れで到着し、別便となったようだ。

畑薙ダムから椹島まではバスで1時間、ロッジで宿泊の手続きをしてすぐに食事になった。朝は4時に出ても往復12時間かかる。ロッジの人から「夕方の16時、遅れても17時には戻って欲しい」と言われた。

翌朝3時半に起き、出発は3時55分。滝見橋登山口までは前日に確認していて問題なく歩けた。9月も後半を過ぎて明るくなるのは5時半なので、1時間30分はライトを使った。尾根はけっこう急な登りだったが、ライトを使っているのでさほど急な道とは思わなかった。

朝方は皆元気でずいぶん早く歩けた。休憩は標高差200㍍登ることに入れる。別に急いでいたわけではないが、コースタイムよりかなり早く歩けた。

途中の尾根上の草地の広場にただ一つある標識杭には「ここより下り120分、上り270分」と書かれている。実際に我々はここまで上り120分で、その上は3時間50分（230分）で歩いている（もう一つの標識杭は山頂にあった）。

トラバース道は荒れたガレ地でも歩くのかと思っていたが、尾根の斜面をトラバース気味にアップダウンするだけであった。トラバース途中に沢が六本程あり、四本で水が流れていたが水量は多くなかった。7月に歩いた知人からは、「沢にはずいぶん水が多かった」と聞いていた。水が足らなくなれば帰路に汲むつもりでいた。

上倉沢源流手前で単独の男性に出会った。朝方の1時半に出て馬場から来たようで、これからくだって赤石小屋までまた登るそうだ。まさに超人だ。

きょう、椹島からは我々10人と単独の男性・テント泊の人が3人、馬場から来た人がさらに2人、二軒小屋から2人と出会ったが、後で数人が馬場方面から来たようだ。

上倉沢を越えた所にテントがあり、前日9時半に入って11時から登ってきたそうだ。テントのあった場所からは2時間かからずに、山頂に着けた。

快晴で見晴らしは360度、東は雲海で小笊の上に少し霞んだ富士山がきれいに見られた。西に千枚岳・荒川三山・赤石岳・聖岳から、遠くは光岳までの縦走路を見ることができた。北には仙丈ヶ岳・北岳・間ノ岳・鳳凰三山・塩見岳と南アルプスの全景が見られた。

ゆっくりと風景を楽しみ、食事をしてから写真を撮り、他の人とも話をして30分後に下り始めた。10人の仲間のひとりが上倉沢で引き返していたから、9人でくだる。

上倉沢源流の大ガレ

帰路、疲れているからゆっくり歩き、休憩時間を多くとった。上りとほぼ同じ時間でトラバース地点にくだり、水も予備に汲んだ。尾根からの下り道がずいぶん長く感じられた。

朝の登りでは暗いのでルートの判別が難しかったが、帰りでも難しい所があった。暗いとマーキングが見えないが、帰りは明るいからマーキングの多いのがよくわかった。

登山口へは15時半に着いた。上りと下りがほぼ同じ時間かかったことになる。ロッジに戻って手続き、トータルで11時間50分かかっていた。

途中でひとり引き返した人もロッジに戻っていてひと安心。風呂は大混雑で湯船に浸かるだけ、テント泊で登った人と湯船で話ができた。食事は連泊と1泊では内容が少し違い、20人位が連泊で席が別々だった。

昨夜はほぼ満員だったが、今夜は空きがある感じがした。当初申し込んだ時は満員で「テントで」と言われていたが、7月のトムラウシの遭難事故のせいだろう、団体客がキャンセルしたのであろう。

3日目は朝食後バスで下山。男性が女性よりも多く見られ、きつい登りが影響しているのであろう。南アルプスでも北の方は女性が多い。

帰路、「恋金の吊橋」を渡ってみたが、しっかりしていてさほど怖いものではなかった。200㍍程の吊橋で、これまで渡った吊橋では最も長かった。

帰りの高速道路はさほど渋滞なく走れ、14時すぎには家に帰れた。

（平成21年9月20日～22日歩く）

《コースタイム》

椹島ロッジ（15分）滝見橋登山口（20分）鉄塔（1時間35分）草地の杭（2時間）上倉沢（1時間15分）転付峠分岐（30分）笊ヶ岳（25分）転付峠分岐（50分）上倉沢（1時間50分）草地の杭（2時間5分）滝見橋登山口（15分）ロッジ（休憩含む）

＜地形図＞2万5千＝赤石岳・新倉

紀行

秋田駆け足遊覧記（下）

古城山と男鹿三山

東北

木村太郎

秋田の山めぐり3日目は北秋田市の森吉山へ登り、4日目は男鹿半島の本山を歩く計画にしていた。

森吉山を選んだのは、一等三角点の山で、秋田駒ケ岳と共に、山と渓谷社『決定版・花の百名山』の登山ガイドに採りあげられていたからである。

昨夕から降り出した雨は、夜半を過ぎて雷鳴を交えて激しくなり、朝がおとずれても雨音が続いていた。

ホテルの窓から外の雨を眺め、3日目に予定した山行を取りやめることにする。

古城山

3日目＝角館から男鹿半島へ

数年前にテントを車に積んで中国地方の山（船通山・道後山・蒜嶽山）をめぐった時、蒜嶽山の岩場から落ちて背骨を骨折し、以来山に入ることに臆病になっている。ましてや雨天時は山へ行く気持ちが萎えてしまう。怪我するまでは怖いものしらずで、遠くの山旅の場合はせっかくの機会を逃せば目的の山に登れないものと考え、多少の雨が降ろうとも平気で合羽を着て歩き通してきた。

当初森吉山の登山を終えた場合、秋田内陸縦貫鉄道で、鷹巣駅に出て、奥羽本線に乗り継いで秋田駅前のホテルに宿泊をするつもりでいた。山行を取りやめたため翌日の行程を考え、きょう中に男鹿半島に入りたいと思い、ケータイで男鹿のホテルに予約した。

早朝の鉄道で移動する手はずだったが、山行を取りやめたので時間が空いてしまった。ゆっくり朝食をとり、9時すぎにホテルを出る。祭りの後片づけをする雨の降る町通りを歩き、仙北市（旧角館町）出身の佐藤義亮が礎を築いた文芸出版社の新潮社記念文学館がある田町上丁に足を運ぶ。現在の新潮社記念文学館館長の高井有一には、角館を舞台にした小説『北の河』の著作がある。

文学館に隣接した農村モデル角館町立図書館に移動し、地誌や民話などの郷土史料を書架に探す。図書館の机で向い合った地元の男性に、桧木内川堤で見えた古城山へ登る道があるかと尋ねた。山上のそばまで車道が通り、公園入口から「上り20分・下り10分」程の散歩気分で歩けると、その人は親切に答えてくれた。

角館城址の山上から城下町の町並を眺めることも、旅のよい思い出になろうと考え、雨のなかを古城山に向かう。昨日歩いた古城橋から国道を右へ、田沢湖方面に5分の距離で古城山公園の入口がある。稲荷神社の赤い鳥居を横に見て、雨に濡れた舗装路を進んで「史跡古城山城跡」の道標に出合う。

車止めの鎖がある道路の右手に「古城山登山道」と書かれている木標が立ち、細い道が付けられているが、雨傘を差しては歩けそうにないので車止めをすり抜ける。車道はすぐに砂利道に変わり、軟のでこぼこを避けて行く。自然林の「いこいの森」と名が付いた道に、角館の象徴サクラの古木が並んでいる。

古城山（166㍍）の山頂は広々とした草地になっていて、真ん中に祈念塔と角館城址の来歴を記した石碑が立つ。雑草に隠されている東寄りの地点に、雨に濡れた四等三角点の頭を見つけた。山頂の南側が切り開かれ、城下の展望を楽しめる場所がある。

西を桧木内川、東を花場山・田町山・七面山に挟まれた角館の由来を形どった角張る館町が見下ろせる。角館城は戦国期に戸沢氏により築城されたが、芦名氏の時代に桧木内川や玉川の氾濫から守るため、城下町を田沢湖側から角館の勝楽村に遷したという。

明暦三年、角館に預りの身となって居住した公卿高倉家の佐竹義隣（佐竹北家）は、生地を懐かしんで京都のシダレザクラの彦芽を城下に移植した。春には角館の武家屋敷通りに、その数400本という都生まれのサクラが咲き誇る。昭和8年皇太子（今上天皇）の誕生を祝賀して桧木内川堤に植えられたシダレザクラ並木と共に、角館の花はみちのくの小京都を夢幻の世界に

染めあげる。

その昔、古城山の古木のサクラが咲いた時にも、角館城本丸に人々が集まり、花の宴が開かれてサクラを愛でたのだろうか。元和期の一国一城令で角館城は破却されて今、古城山公園として整う山上は、桜祭りの頃に行楽地として賑わうのであろう。

角館から新幹線「こまち」に乗り、秋田駅で車体に「なまはげ」の絵を描く男鹿線に乗り継いで男鹿駅に出る。ホテルの車から見る半島南に面した船川港の台島・椿・双六の各漁港の道筋に、例の「菅江真澄の道」の木標が立つ。遊覧記「男鹿の秋風」の中で、真澄が寒風山を訪ねた後、船川の浦から門前へ歩いた道である。

本山門前を過ぎて「日本の夕日百選」男鹿市の西海岸沿いを走る。男鹿潮風街道の愛称をもつ道路は、加茂青砂に入り、桜島の高台にあるリゾートホテルきららかに着く。ホテル名の「きららか」は、宮沢賢治作の「きみにならびて野に立てば、風きららかに吹きき

たり」の詩句より引用している。

夕食までの時間を男鹿国定公園桜島園地の野営場を散歩し、赤みがかる色の桜島岩島群と、日本海の青く果てしない風景を眺める。雨上がりとはいえ雲が多く、大空と日本海が夕日の色に縁け合って染まる評判の光景は望めそうにない。山手の方に目をやれば雨後の緑あざやかに、男鹿三山の山並があすの天気の回復を約束してくれていた。

4日目＝男鹿三山縦走

前日予約のタクシーに乗り込み7時すぎにホテルを出て、男鹿三山の登山口真山神社へ向かう。大桟橋道路を戸賀湾方向へ走り、途中で八望台に寄り展望を楽しみ、羽立駅と入道崎を結ぶ「なまはげライン」に廻る。

昔は桜島の加茂青砂は絶海の秘境で、菅江真澄は半島北端の水島を訪ねた後、戸賀湾で道が途絶えたため、塩戸の浦から丸木舟に乗り、海から加茂青砂の集落に向かったと、遊覧記「男鹿の島風」に書いている。海に潜りアワビを

八望台

捕る漁師の姿を見て、興味を覚えた真澄はその様子を和歌に詠んだ。

海士もさぞびわの島かげすずしくて
寄る波の緒に舟つなぐらし

加茂青砂から再び丸木舟に乗り、門前の浦へ真澄は旅を進めている。道が開かれる以前の旅の様子を知りえる記述といえよう。地元の話では、ある時

期まで加茂青砂から本山へ登る道があったという。その道は廃道となり、住人は現在、道が出来た門前から「お山かけ」を続けている。時々の必要で生まれた道は、その使命を終えれば廃れていく。

桜島や八望台の名は景観に感心した故高松宮様の命名である。蓼沼の平のひらから一ノ目や二ノ目潟、戸賀の根太島、塩戸の宮島を眺望し、真澄は時が移るのを忘れて休んだと紀行文に書いている。八望台頂上には展望台があり、見渡せば、北方は海岸線に連なる青森県境の山々、南方は奥羽山系の山並を遠望することができる。眼下には一ノ目と二ノ目潟の火山性マール湖の形状が俯瞰できる。

八望台の眺めを早々に切り上げて「菅江真澄の道」の木標を後に、真山神社に着いたのが8時を過ぎた頃で、まだ男鹿真山伝承館やなまはげ館も開いていない。観光客もおらず話し声も聞こえない、漠の武帝赤神ゆかりの真山神社の前からひとり山に入る。

真山登山道入口の道標を見て、神事「なまはげ柴灯まつり」で世に知られる真山神社の石段を上がれば、薬師堂がある。村の女達と堂の板敷を踏みならし、唄い踊り念仏を唱えて夜籠りしたと、真澄が遊覧記「男鹿の春風」に書いているお堂である。

男鹿半島の西海岸寄りに盛り上がり、真澄が「赤神ノ岳」と呼んだ本山を中心に、男鹿三山は北に真山と南に毛無山を連ねている。真澄の時代すでに熊野詣を見習った修験者がここを道場としており、紀行文は、大峰道と刻まれている石地蔵の立つ姿を伝えている。

赤神信仰の修験道は今に伝わり、地元の人々に「お山かけ」と称して歩かれている。薬師堂の横手に登山道がのび、よく踏まれた道を進めば、木立のなかに真山神社五社堂を見る。江戸時代後期の建物を飾る木鼻などの彫刻に特色があり、時代を超えて人々の信仰を受けとめてきたお社である。

五社堂からしばらくは木道を敷いた湿地帯が続き、天然杉と雑木林の尾根

を登ると真山いこいの森に入る。ブナ林の道を通り八王子跡に出て、森林地帯の平坦地を過ぎ、ロープが張られた階段を上がった先で、真山神社奥宮をまつる真山（567㍍）に立つ。

奥宮神殿は、雪から守るために二階建のやぐらに鎮座していた。寒風山と北浦から浜間口にかけての日本海が一望でき、山の右後ろに八郎潟が見えている。真澄は寒風山を眺め近江の伊吹山に形が似ていると述べ、寒風山を歩いた時には美濃の赤坂山に登ったようだと「男鹿の秋風」に書いている。

民俗学を創始した柳田國男に先駆者として評価される真澄だが、その業績と共に各地を踏破した健脚ぶりに驚かされる。また植物に関する知識も豊富で、真山への途中の八王子峰の真向かいは坂東長根の名があるが、その尾根に、他の山で見かけない濃い紫のツツジ（ムラサキヤシオ）が咲くと説明している。

ホテルの人からきのう聞いた話では、春にカタクリやイカリソウなどが咲く男鹿の山は花の山脈だと言う。サクラは残雪のようアカヤシオは紅雲のように見えると、真澄は花の盛りを表現していたが、山が花色になる季節に市民ハイキングが行われるという。

私が歩いた今の季節は、アキノキリンソウやヤマジノホトトギスなどが咲いていた。真山から下りる針葉樹の道では、蟹の甲羅と蝙蝠の羽をひろげた姿に葉形が似るカニコウモリの白い花をデジカメに記録する。

本山鞍部フタツアイ（キントリ坂）の四差路に道標が立ち、右にやぶが茂る加茂青砂へくだる道を見る。直線で本山へ登る道は踏跡が薄れている。縦走路は左の道で薄暗い谷間を覗き、山腹を捲いて行く。明るく開けたササが茂る尾根道に出て、年配の夫婦連れが山道にしゃがんでキノコ採りをしていた。小振りのナラタケが生えていたが、男鹿地方では「ボリボリ」の名で呼んでいるという。

尾根を登りつめ、自衛隊道路への分岐点に本山を示した木標が立つ。本山山頂に自衛隊のレーダー基地がつくられているので、この縦走路の通過点を仮の山頂にしているのだろうか。私は本山分岐から砂利を敷いた広い自衛隊道路に出て、本山山頂を目指した。

大海原を見下ろす道沿いに薄桃色のカワラナデシコが群生しており、大和撫子ならぬ男鹿撫子も可愛い。基地の金網に行き止まる斜面一帯に、鐘の形をした青い花が群れている。遠くから見てキキョウ科のツリガネニンジンと思えたが、背丈が低い花で高山型のハクサンシャジンのようだ。

赤神神社奥宮がある本山（715・2㍍）に金網沿いを行くが、目当ての一等三角点は基地内である。本山分岐に引き返し、毛無山へ向かう。山道が途切れて車道出合に「菅江真澄の道」の木標が立ち、桜と赤神ノ岳（本山）を詠んだ真澄の和歌を記している。

峰の雲ふもとの雲とさくら花
なかめにあかし赤神の山

車道途中に分岐があり「新奥の細道」案内板から東北自然歩道へ入る。後で気づいたが歩きやすい車道を行き過ぎて、毛無山（677㍍）を通過した所から縦走路に入ったようである。登山道のロープを張りめぐらしている木柱に、高山植物保護の看板と歩いてきた方向に毛無山を指す道標があった。

本山頂上付近

引き返す時間を惜しんで進む登山道の途中に切り開きがあり、桜島と加茂青砂の海岸線を一望する。保護ロープがなくなりブナ林に入り、美しいブナの森に一期一会のあいさつを送る。前後を見渡し左右両側を眺め、両手をひろげて大きく深呼吸する。

赤神神社の五社堂に下り立てば、ここにも「菅江真澄の道」の木標が立っている。漢の武帝に従属した鬼が一夜のうちに築き上げた九九九段の自然石の階段へ道が続く。瑪瑙石を盗掘した許されない行為で、掘り返された石段はガタガタしていて歩きにくい。

真澄が「男鹿の秋風」に述べた寺社の多くは現存しないが、水占いをした姿見の井戸と、登山口に長楽寺が残されている。真澄が門前の浦で伝え聞いたところでは、赤神ノ岳は景行天皇の御代に、近江の竹生島と同じように湧き出たお山だったという。

松谷みよ子採録の民話によれば、村人の知恵で娘を人身御供に取られないために、鶏の泣き真似で朝がきたと思い込ませ、千段の石段を鬼に完成させなかったという。外洋に開かれていた男鹿半島の伝説は、男鹿の山は海から誕生し、鬼の姿をした渡来者を身近に感じる説話で成立しているようだ。

平凡社刊の東洋文庫『菅江真澄遊覧記』の紀行文で、真澄が男鹿半島を四度巡る季節に旅していると知る。それだけ真澄は男鹿の風土と人々を愛していたのだろう。男鹿三山の短い旅をした私もいつか、駆け足でない男鹿半島の旅をしてみたいと思う。

男鹿南線の門前バス停に13時前に下山したので、男鹿駅行13時5分発のバスに間に合う。次の14時半のバスでも、夕方に飛ぶ大阪行ＪＡＬ便に搭乗することできる。安心して乗り込んだ路線バスの窓から、男鹿港の風景に別れを告げた。（平成21年9月10日～11日歩く）

《コースタイム》
真山神社登山口（15分）真山神社五社堂（55分）真山（50分）本山車道分岐（20分）本山（30分）毛無山通過地車道分岐（1時間30分）赤神神社五社堂（15分）長楽寺（10分）門前バス停

〈地形図〉2万5千＝北浦・船川

標高による山の紹介シリーズ54

松田敏男

新ハイ関西114号

標高△△14mの山

大谷山（814メートル 湖西）
栗沢ノ頭（2714メートル 南アルプス）
山伏（2014メートル 安倍山系）

大谷山

マキノの西にそびえる大谷山は800㍍余の標高ながら、冬は山頂付近が真っ白になって、高山的な感じの美しい山だ。ササ原の稜線で真っ白になるわけだが、無雪期でもテントを張れば、広々とした天空の下で夜を過ごせると思った。満月の夜にそれを体感しようと単独で出かけた。

JRマキノ駅から石庭までバスに乗り、誰もいない登山道を登る。自然林が残るいい道だ。標高点749㍍の尾根を乗越して百瀬川源流のイモジャ谷側にくだると、ブナの美林が広がっていた。

2時間程の所で、こんなに美しい場所を発見できてとてもうれしくなった。ほの暗くて静謐な源頭からひと登りすれば、青天井のササの海に出た。

夜は耳元で虫の音が絶え間なく聴こえ、ときおり鹿が虚空に鳴き声を響かせた。湖西線の電車の音が、その窓明りの動きを乗せて人の生活のかすかな匂いを草むらの山頂に運び上げた。

月が出た。満月の月が出た。琵琶湖の湖面にも明るい月が出た。そのふたつの月がゆっくりゆっくり離れていく。止むことのない虫の音を聴きながら、いつしか眠っていた。

翌朝はうっすらと霧が立ち込め、高山的な雰囲気で清々しかった。眼前の大きな水甕の琵琶湖が作用しているのだろう。足元から周りに広がって霧のなかに没しているササ海は露でキラキラ光っていた。

下山は寒風からマキノスキー場へ一般道を下り、バスに乗った。

（平成17年9月17日～18日歩く）

《コースタイム》

石庭（4時間）大谷山（2時間30分）北牧野

＜地形図＞2万5千＝海津

栗沢ノ頭

栗沢ノ頭は南アルプスの中では比較的簡単に登れて、豪快な眺めが満喫できる山だ。何といっても間近に見る甲斐駒ヶ岳の姿は圧倒的な迫力だ。

食事のおいしいことでつとに有名な

仙水峠より甲斐駒ヶ岳

仙水小屋に泊まって朝早く栗沢ノ頭への登りに取り付けば、斜光の甲斐駒ヶ岳、特に摩利支天の岩肌は鮮やかにくっきりと浮き上がり、その乾いた感触までもが伝わってくる。

仙水峠からの北斜面は樹林帯から早く抜け出るので、思う存分に眺めを満喫しながらの登りとなる。

氷雪を岩肌に撫り込ませたような冬の姿は悪魔的な凄みを帯びていっそう魅力的だ。

山頂に立てば、北岳や仙丈ヶ岳など、南アルプス北部の山々に囲まれた特上展望の頂であることを実感するだろう。

（平成14年6月15日～16日歩く）

《コースタイム》

北沢峠（3時間30分）仙水小屋を経て栗沢ノ頭（2時間30分）北沢峠

＜地図＞昭文社＝「甲斐駒・北岳」

山伏

ガイドに「山頂から南アルプスや富士山が美しく眺められる」とあるので、天候が安定している残雪期にひとりで行ってみた。静岡からバスに乗ること約2時間、新田バス停で下車する。

茶畑の送風機がカラカラ鳴る下をゆるやかに登り、登山道に入った。その年の花粉症はひどかったので、山頂直下の小屋までが遠くてどうしたものかと思案しながら進んだのだが、結局進むことができず、林業の作業小屋に泊めてもらうことにした。

新雪が積り、花粉症も癒えて、積雪量がどんどん多くなっていく道を、ひとり静かに進んだ。

右山頂、左山伏小屋の分岐に出た。小屋への道からは大無間山がくっきりと見え、山頂からの展望の期待が高まったが、南アルプスの主峰部分のみ雲が切れることはなかった。ぜひ再訪したい山のひとつである。

（平成7年3月27日～28日歩く）

《コースタイム》

新田（5時間）山伏（3時間30分）新田

＜地形図＞2万5千＝梅ヶ島

紀行

花巡り山行

小金沢連嶺から南大菩薩

甲州

田中明

大菩薩嶺といえば岳人達にはありきたりの山であり、日本百名山、小説『大菩薩峠』で名が知られているとはいえ、登山としては羨望の的にはならないであろう。

だがしかし、小金沢連嶺となると関西人ならたちまちマイナーとなる。数年前のエアリアマップでは大きく小金沢連嶺と表記されていたようだが、手元のマップを広げてみると、ゴシック体の大きな大菩薩嶺の南に小金沢山と小さい文字があるだけだ。

小金沢連嶺とは、北は大菩薩嶺から南は中央沿線の滝子山まで連なる長大な山並である。私は近年なぜか大菩薩嶺より、この小金沢連嶺が気になっているのだ。

小金沢山

大菩薩嶺には4年前の8月末、新ハイのY氏と夏の残花を楽しみながら、裂石から丸川峠そして大菩薩嶺を踏み、介山荘に1泊して石丸峠からロッジ長兵衛を経て裂石へと周遊したことがある。それを機にその後も遥ったコースで樹林帯に包まれた頂上（2057m）を訪ねており、なかでも12月に見た雷岩からの秀麗富士の姿は忘れられない。

最近、観光気分の人が目につくようになっていたところ、介山荘の主人から聞いた小金沢連嶺に心が動かされた。さっそく、新ハイ仲間にテント泊での縦走に誘うと、「よし」と集まってくれた。

ガイドブックによると、石丸峠から湯ノ沢峠までを小金沢連嶺、そしてその峠から南下して滝子山に至る尾根をまとめて南大菩薩と呼んでいるようだ。この晩夏の縦走を綴ってみよう。

JR中央本線の塩山駅にいつものように青春18きっぷで降り立つと、「上日川峠までは、途中の道路工事により入れない」とタクシーが言う。「でもその手前の仙石茶屋までなら行けます」と説明され、最初から予定が狂った。想定外でも1時間30分位なら大丈夫だろうと乗り込み、仙石茶屋まで運んでもらうことにした。

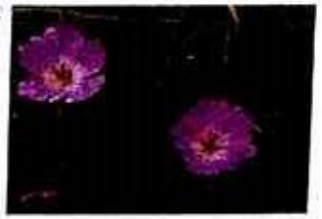
上日川峠までの道はよく踏まれており迷うことはない。展望台で塩山市を見下ろしながらひと息いれた後、水がとうとうと流れるロッジ長兵衛に到着した。夏場はこの水場がうれしい。小屋前のベンチで休憩をとり、石丸峠を目指す。

少し行くと思わぬ急登が待っており、それにも増して肩の荷が堪えるのか、メンバーの足がばらついてくる。「きょうは泊まるだけだから」と言い聞かせ、足をゆるめる。

それでも何とか地図通りの1時間30分でササ原の石丸峠に到着できた。咲き残っているお花たちを見ながら昼食にする。あたりにはウメバチソウ・ヤマシロギク・ヤマハハコ・カイフウロ・ハナイカリ・リンドウなどが、ササ原のなかに可愛らしい。

牛ノ寝通りを左に分け、天狗棚山の小さなピークから大菩薩方向の熊沢山への縦面もササ原が美しい。いよいよササ原の浅い海が始まるとすぐに狼平である。あたりはササばかりで背丈のある樹林はない。時間が許せばこの付近でゆっくり遊びたい誘惑にかられる。もっともこのあたりまでは秩父多摩国立公園の範囲内のため幕営はできない。地図では「ササヤブ」とのことだった

小金沢連嶺から南大菩薩付近図



カイフウロ

が、低いササのなかに踏跡は大丈夫だ。

徐々に登りにかかると針葉樹の倒木が出てきて、行く手を阻んでいる。倒木累々の道をくぐったり跨いだり、そして捲きながらの行軍となった。ようやく最高峰の小金沢山（別名雨沢ノ頭）に登頂。石丸峠から1時間30分であった。高みといっても2014㍍であり、それほど体力は要しなかったのだが……。

頂上には山梨百名山、大月市の定めた秀麗富嶽十二景2番、三等三角点などの標識等があり、小広い頂上は賑やかである。この一帯にはシャクナゲが多く見られるようだ。満開の時季に踏み入ることは夢となるのではなかろうか。

山頂からの富士を期待していたのであるが、今回の山行は終始天候に恵まれず、富士見は最後まで泣くことになったことを断っておこう。

今回のルートは基本的には南下しながら標高を下げるので楽だと計算していた。しかし、思うほどに楽ではなく、繰り返し現れる小さなコブがアッパーブローとなった。

次のピークは牛奥ノ雁ヶ腹摺山（1985㍍）で二つ程のコブを越えて行った。もちろんここでも富士や南アルプスの展望良しの場所だが仕方がない。ここまでも樹林帯のなかに倒木が多くあり、しっかりアルバイトさせられた。

ここの山名はおもしろい。雁が隊列を組んで長大な尾根の腹を擦るように飛来したことからの由来らしいが定かでない。この牛奥と本家の雁ヶ腹摺山と南にある笹子雁ヶ腹摺山の三座あり、いずれも私は頂上を踏んだことになる。またいずれも秀麗富嶽十二景の1番、2番、4番と入っており、富士展望の山として人気もあるようだ。

これより南の蛯ノ河原へくだると、これまでの暗い樹林帯の登りとはうって変わって明るいササ原が一面に広がっており、すばらしい場所である。水場へ往復30分とあり、いつかはここで幕営してみたいなとの思いが湧いてきた。

すぐに登りになるとこれがまたきつい登り返しで、このコースでいちばんしんどかった。読みにくい漢字が並ぶ標識には「川胡桃沢ノ頭」とあり、博学の彼女から「カワクルミサワノアタマ」とすかさず声が出た。

続く稜線ピークは遠目にも黒っぽく見える黒岳が、一等三角点を用意して待ってくれている。その手前で大峠への東の分岐を見送ることになるが、この分岐を左折して大峠にくだって少し登れば旧五百円札に描かれた富士山で有名な雁ヶ腹摺山の本家があるのだ。この山もきょうの男性3人は登頂済みである。ここから往復すれば4時間弱を要するため、直進して黒岳へ進む。

立派な一等点埋まる黒岳（1987・5㍍）だが、展望はきかない。すぐに辞してくだると雰囲気のよいブナ林があり、ヘラシダが着生してツルアジサイが咲き残っていた。黒岳原生林の森の林床にはカニコウモリ・コウモリソウ・キオン・ヤマノコギリソウ・ウスユキソウ・ノアザミ・トリカブトなどが咲いていた。また葉の枯れたバイケイソウも見られた。

この森からわずかに登り返すと白谷丸の標識があり、南面一帯はまさにお花畑状態である。ヤマハハコ・ヤハズハハコ・ヨメナ・ウスユキソウ・ウメバチソウ・アキノキリンソウ・ワレモコウ・ツリフネソウ・シオガマ、リンドウにマツムシソウまでもが風に揺れている。

ところがこの下あたりから踏跡がいろいろあって、縦走路が不鮮明となった。何とか崩壊地沿いをくだって身の丈以上もあるササを漕ぎ、足元の滑りやすい道を不安に感じながら下りて行くと、湯ノ沢峠の指導標の前に飛び出して眉目を開くことができた。

道標通り、湯ノ沢峠避難小屋へは2分であった。幸いにも我らの貸切でテントも使うことなく6人でゆったりと使うことができた。それもそうだろう、「こんな小雨まで降る日にここへくる人はいないだろう」とみんなで自嘲気味に笑いあった。16時40分、8時間を超えるのんびり歩きの一日が終わった。

さっそく水場に向かい、全員の水を確保して夕食となった。布団毛布あり、電気も点るなど至れり尽くせりの避難小屋。大満足してしっかりと熟睡させてもらった。

大蔵高丸

人気商品紹介
◆テクリ・エル◆

オリジナルザック & 登山用品専門店
神戸ザック
http://www.h2.dion.ne.jp/~kobezac

従来のテクリの大型です。
タウンコースからフィールドに小ぶりなディザック。
しっかりした二本縫めの設計。底部も強いケミカルラバーを使用しています。雨蓋が大きくなり、山登りの本格仕様になりました。

☆20ℓ☆
•カラー　レッド×チャコール　・マゼンタ×チャコール
パープル×チャコール　・ライム×チャコール
ブルー×チャコール
•重量　700g
•素材　高密度ナイロン
•価格　¥8,000＋消費税

イモック山遊行くらぶ
春夏秋冬、季節を気にせず、里山・低山・名山を訪ねます。お気軽にご参加下さい。

OUTDOOR SPORTS SHOP
IMOCK.
KOBE
〒653-0039 神戸市長田区日吉町3丁目1番30号
カナゾノビル2F
TEL（078）621－5851
FAX（078）621－3528
営業時間／10:00～20:00　年日曜日不定休

朝になってもじっとりと小雨が残っている。雨具はいずれにしても深いササやぶ漕ぎのために必要だ。ゆるやかに登ると大蔵高丸（1781㍍）だが、湯ノ沢峠のお花畑の標示があるように、もう少し時期が早ければ花が楽しめたことだろう。下り道は滑りやすい箇所にカヤトが続いた。近距離のハマイバ丸では樹林のなかに三等点があり、不似合いなほどの立派な標識があるものの展望は苦しい。わずかにくだると破魔射場丸は岩場っぽい地に松の木が目立ち、ササとカヤトのコントラストの景観をつくっている。

さらに滑りやすい下りのカヤトから草原の花が見られる所で一本立てる。お花好きなYさんから「この蕾は何でしょうか」との声、よく見ると蔔に似ているがどうも見覚えがない。茎葉に著しい翼があり、根生葉にはっきりとした鋸歯と長い葉柄があって、茎には白く長い毛が目立っている。考えても答えが出ず、後日の調べでキク科トウヒレン属のセイタカトウヒレンと判明した。関東から中部地方に分布し、どうやら山梨県には多く見られるようだ。

その後はダケカンバ・ミズナラが立ち、少しくだるとズミやノイバラなどの間の道を進み、天下石を右折してその先の米背負峠でひと息いれた。この鞍部は立派なハウチワカエデの原生林であった。近くに往復20分で水場もあるようだが確認していない。

ここからブナ自然林が続く急登だったが、疲れた身には20分程でもこたえる。何とか押し上げて大谷ヶ丸（1644㍍）の狭い頂上に。ここもほとんど見通しがなくわずかに西側の南アルプスが見られるとあるが、きょうは無理だった。

頂上から直進するしっかりした踏跡に騙され道を迷いやすいとの情報が頭にあったため、2分程北へ戻って右に廻り込み、カラマツ林をどんどんくだってゆく。最後のピークである滝子山のどっしりとした姿を見ながら歩くと、次第にササやぶになった。背丈を超える状態がまたも出てくるが足元はよく踏まれていて所どころに赤布もあり不安はない。

大谷ヶ丸から1時間弱でゆるく登り返すと鎮西ヶ池下の三叉路に着き、ここで昼食とした。その後はザックをデポして富士が隠れた滝子山を往復してから、薄暗くなったすみ沢をくだって道証地蔵からJR笹子駅まで歩いた。

今回の縦走では富士山が終始ご機嫌斜めも、思わぬ花巡りとなって、それなりに満足の小原泊縦走となった。

（平成21年9月2日～3日歩く）

《コースタイム》

（1日目）JR塩山駅（タクシー・30分）千石茶屋（1時間30分）ロッジ長兵衛（1時間50分）石丸峠（1時間20分）小金沢山（50分）牛奥ノ雁腹摺山（1時間10分）黒岳（40分）湯ノ沢峠避難小屋（泊）

（2日目）小屋（30分）大蔵高丸（30分）ハマイバ丸（1時間10分）大谷ヶ丸（1時間10分）滝子山（1時間50分）道証地蔵（1時間10分）JR笹子駅

《地図》昭文社『大菩薩嶺』

紀行

三角点を訪ねて ㊻

丹波美山の奥山、

連載

地蔵杉へ

礒部 純

京都北山

頭巾山から南の長老ヶ岳へ向けて、標高800㍍前後の長大な尾根が連なっている。地蔵杉はこの尾根の真ん中あたりに位置し、美山町豊郷の西川へ注ぐ神谷、そして洞谷川左俣である吉谷の源頭に当たる山である。この山系の北に天狗畑、西に中津灰山、東南には念仏があるが、いずれの山も登山路がなく自然が保たれている。

地蔵杉へは16年前、長い奈良井谷林道を歩き、標高点713㍍から地蔵杉へピストンしている。山頂手前のCa870㍍への急斜面の強烈なササやぶが心に焼きついているだけで、山頂付近の記憶は全くない。この山へ二度と訪れることはないと思っていたが、別のルートから訪ねる山行があると知り、参加することにした。

地蔵杉 三角点

7時30分に京都四条大宮へ集合。男性5人と新ハイの女性2人が二台の車に分乗し、京都縦貫道を園部へ向かう。前日の好天とうって変わって空には雲が広がっている。園部インターで左へ曲がり、神楽坂トンネルを抜けて美山町静原へ出て、国道167号を北上し、鶴ヶ岡農協でストップ。ここで美山の住人と合流した。ここから車三台は西北へ走り、神谷口から神谷沿いの道を西へ入り、谷分岐横の集落最奥にある

家に断って空地へ駐車させてもらう。ここがこの日の出発点である。

計画では、地形図の谷分岐の中間尾根に印されている破線路を登ることにしているので、西の取付点を見に行ったが、道は消えてない。そこで、最初から尾根を登ることにして、9時20分出発となった。

橋を渡り、右手の杉林へ入って尾根へ取り付くと、すぐに雑木の尾根に変わる。最初から細くて急な尾根だったが、予想に反して尾根には地形図にはない古い道跡がジグザグに刻まれていた。尾根は細く両側は急勾配の斜面で濃い林に遮られて展望は全くない。両側からくる地形図の破線路の道を探しながら登ってゆくが、全く道跡らしいものを見つけることができない。今さらながら、自分の経験を信じて最初から尾根を登ったのが正解だったようだ。その時、突然「ケ～ン」という鹿の鳴き声。「あの鳴き声は、鹿の警戒の呼び掛け」と美山の住人が教えてくれた。さすが元猟師だけあって、よく知っている。

登るにつれて、雑木の林に赤松が混じってくる。松茸でも出そうな林だったが、「最近松茸は出なくなった」と美山の住人が言うように、松の回りを探してもキノコのかけらすら見ることはできない。そのかわり、道には幾つもの鹿やカモシカの糞が残されていた。次第に尾根が広くなり、右手に杉林が現れると目の前には雑木の疎林の急斜面が立ちはだかる。左手の谷はいつしか消え、正面から左手へ廻り込む尾根斜面には、びっしりとイワウチワが群生していた。

急斜面をあえぎあえぎ登って尾根にのる。尾根を西へ向かうと、これまで見なかったキノコがアチコチに姿を見せる。ボールから刺が出たような形をしたタマシロオニタケや、傘を開いたシロオニタケなどのテングタケ科のキノコやベニタケで、いずれも食べられないキノコばかり。

再び道跡の残っている急尾根を登ると右手からの尾根が合い、尾根へのると次第に広くなり、落ち葉が敷きつめられた情緒ある疎林の斜面となる。まさに絵になるような風景が目の前に広がってきた。北山にもまだこんな情緒ある疎林が残っていたとは、感慨を覚えずにはいられない。

広くゆるい尾根を登って、方向を左に振るとコナラの多い疎林。再び現れた破線の道跡をたどって、急斜面を登って右手へゆるく登ると平坦な尾根分岐ピークに着き、ここで休憩となった。ピークにはあたり一面に栗のイガが落ちている。休むのは二の次にして、まずは栗の実探しに精をだす。山へ登ったら何か持って帰らないと気がすまない女性2人も、同じように実を拾っていた。

ひと息入れて斜面を登ると標高点742㍍のピーク。山頂のすぐ南斜面には杉林があり、これまで情緒ある林のムードに浸っていたのに、いっぺんに気分を壊されてしまった。尾根を西へ向かうと、尾根左は雑木林に変わったが、尾根の右に杉林が現れた。ゆるく尾根を登って行くと、地蔵杉の前衛峰であるCa870㍍が、木の間から右手上方に見えている。尾根の傾斜が急になると、目の前のピークが標高点793㍍。美山の彼だけは右裾を捲いて西の鞍部へ向かったが、他の7人は生真面目にピークを踏む。

西の鞍部へくだると、どこからきたのか左手から林道が現れた。16年前に地蔵杉へ登った時にこの鞍部を通ったが、こんな林道に出合った記憶はない。林道をたどって北西へ登ると、林道は、Ca870㍍から南へのびる尾根に出合うと終点になってしまう。

ここから、右手の尾根へ取り付き、左にベニバラボロギクが一面に群生している伐採斜面、右手は雑木林の中間尾根を登る。境界には鹿除けのネットがあったが、ほとんど倒れていて用をなしていない。斜面は見上げるような壁で、何年か前、大岩山から地蔵杉を見た時、天を突くような姿に見えたのも頷けた。記憶に残っている16年前のササやぶの急斜面の登りは、おそらくこの斜面の登りだったのだろう。今ではササが枯れていて登る苦労は幾分なりとも軽減されているようにも思えたが、しっかり踏みしめて登らないと滑り落ちそうな急な登りだった。

急斜面を登ったピークがCa870㍍。南方が伐採斜面で、この日いちばんの大展望が開けた。西南方向の目の届きそうな所に、船形をした長老ヶ岳が横たわり、その左手に、ピークに送電線が立つ大岩山のある中央分水嶺の尾根が連なっている。東南にあるはずの念仏は、林に遮られて見ることができない。遠くに霞んでいるのは愛宕山の連峰だろうか。

しばし、展望を楽しんだ後、山頂へ向かう。ササ枯れの斜面を西へくだり、登り始めると、ブナの疎林の尾根となる。右手の洞谷左俣吉谷源頭にはシダが生え広がり、太いトチの大木が偉容

山頂手前のCa870㍍

最後の疎林の登り

項に「地蔵杉ト称スル大樹木ヲ標トスヘシ」とあるというから、山中に大杉があったのであろう。今では大杉は見当たらず、通常の高さのブナ・コナラ・リョウブの疎林があるだけ。16年前に撮った山頂の写真を見ると、三角点のまわりにもビッシリとササが生えていて周囲は細いブナ林だったが、今ではササはなくなり、スッキリしたすばらしいブナ林の山頂へと変貌している。まわりの木々も、年を感じさせる太さまで成長している。

地蔵杉三角点は、太いブナの間の小さな広場に立っている。点名は「地蔵杉」、三等三角点である。標高は898・9㍍あり、京都府の三角点峰で11番目に高い山である。標石は欠けた所もなくきれいで、顔は東向き。東から北へ10度振っている。

朝方よりも雲が厚くなり、雨の心配もあって35分の昼食時間で下山となる。Ca870㍍のピークまで戻り、ルートを変えて北東へくだる。始めは快適に進むことのできた尾根も勾配が急になり、尾根幅が狭くなると各所で倒木が塞ぐ。尾根の両斜面は急で廻り込むことができず、跨いだりくぐったりの連続だった。予想以上に時間がかかり、足への負担も大きい。急尾根をくだって倒木をくぐり、コブを越えると標高点771㍍へ向かう尾根の分岐。できるなら、高く見えている標高点771㍍、その奥の標高点686㍍を踏んで尾根を歩きたかったが、目の前のピークがあまりに高く見え、その先のいくつもの小ピークを越えることを思うと意気消沈。このコブから神谷へくだることに決定。

細くて急な尾根を進む。尾根の両側は切り立つような急斜面で足を滑らせるとどこまで落ちるかわからない。地形図では直線的に読める尾根でも微妙なうねりがあり、100㍍もくだらないうちに先頭は右の尾根へ導かれてゆく。その尾根でも神谷へくだることには違いないが、傾斜が急なので、左へ振って傾斜のゆるい尾根をくだるように修正する。上の尾根と違って倒木は無くなったが、地形図で見る以上に狭く傾斜はゆるくならない。ふと見ると、尾根の真ん中に残っている熊の糞が不気味。そういえば、これまで何ヶ所かで熊剥ぎの樹や爪跡を見ており、今さらながら、里が近くても自然が残されていることを実感する。

三角点を前に記念写真（筆者を除く）

くだるにつれて谷川の水音は高くなってきたが、いっこうに傾斜はゆるくならない。本当に目標の尾根をくだっているのかと迷いが生じてきた時、左下に谷床が見えてきた。

まっすぐ尾根をくだれば谷分岐に下り立つのに、楽そうに見えた左の斜面をくだったのが間違い。谷床へ下りると、本谷の出合には5㍍程の滝があって谷分岐へはくだれずに、北の杉斜面へ登り返さなくてはならなかった。杉林の斜面を20㍍もくだると神谷本谷へ下り、右岸に付けられた林道へ出た。時間は14時25分。

ここから林道を帰るだけ。杉林の林道をミカエリソウやアケボノソウを見ながら30分も歩くと、車を置いた谷分岐へ戻る。林道を歩き出した時にポツリポツリと降り出していた雨は、車に着いた途端に本降りになった。駐車のお礼を民家の奥さんに伝えると、「以前、犬を連れた人が、地蔵杉へ登ると林道を奥へ入ったんですが、帰って来なかったんですよ、きょうも雨が降ってきたので、娘と心配していたんです」と話してくれた。

犬を連れた人は別のルートをくだったと思われるが、年に何回かはこの谷をつめて地蔵杉へ登る人がいるらしい。朝に駐車をお願いした美山の住人が白髪だったこともあり、我々高齢者の集団が、何か頼りなげに見えていたのかも知れなかった。

（平成20年9月25日歩く）

《コースタイム》

美山町豊郷神谷（40分）標高点742㍍（20分）標高点793㍍（30分）Ca870㍍（10分）地蔵杉（10分）Ca870㍍（45分）支尾根分岐（50分）神谷林道（30分）豊郷神谷

《地形図》2万5千㍐島

研究

旗振り通信の新研究⑮

連載

江戸ルートについて

柴田昭彦

【関東地方の旗振り山はどこに?】

平成21年6月16日、インターネット検索で、曽田博久『千両帯　新三郎武狂帖』(角川春樹事務所、ハルキ文庫、平成17年)の中に「旗振り権現山」という章があることがわかり、すぐ注文して、19日に入手した。

内容を見ると、天保四年(1833)、江戸に住む栢植新三郎を主人公として、米相場にまつわる不正を暴く小説であった。米の先物取引(109頁)や江戸の米会所巡り(166頁)に続いて、「堂島の米相場を江戸の菱巳屋へ速報するための旗振り山の地図」なるものが登場(205頁)して驚かされる。大坂から江戸までの旗振り山の数が「三十個ほど」と紹介されている。

「堂島の相場はおよそ四刻(八時間)で江戸に到着している」(206頁)とあるのは、樋口清之『こめと日本人』(家の光協会、昭和53年)の163~5頁の記事「世界最大の望遠鏡、米相場で活躍」が出典とわかるが、なぜか、巻末(279頁)の参考文献には含まれていない。

「地図の最後の旗振り山は北品川の御殿山にあった」(213頁)とある。その一つ手前の旗振り山は「神奈川宿の権現山」(214頁)とあり、その距離は約五里、さらに一つ前の旗振り山は「鎌倉の円覚寺の裏に聳える六国見山」(216頁)となっている。

続いて、「第五章　旗振り権現山」(218~278頁)が最終章であり、権現山での旗振り通信の受信・送信場面(251~2頁)が出てくる。

さて、この江戸ルート「六国見山~権現山~御殿山」は真実に基づいたものなのであろうか?

6月28日、NHK・BS2『熱中時間』のスタジオ収録の際には、その真偽は不明のままであった。曽田氏が、社団法人日本放送作家協会の会員であることを確認できたので、協会の事務局を経由して、手紙で問い合わせたところ、7月3日に曽田氏からの返信(6月30日付)が届き、「すべて創作」であることが明らかとなった。

曽田氏は、関東地方の旗振り中継地点について調べてみたが、全くわからず、「現在でも六国見山から横浜港が見えること」と「権現山は埋め立てのために幕末に削ったから可能性がある」と考えたこと」から創作したものだということであった。木曾屋、江戸の菱巳屋(206頁)といった旗振り通信を行った業者名も完全な創作で実在しないという。

筆者の今までの調査では、東京都、神奈川県では、江戸時代の旗振り山の痕跡は全く見つかっていないが、今後、何かをきっかけとして発見できることを願っている。

なお、筆者が平成21年7月25日に出演した「熱中時間」は6年間続いてきた番組であったが、平成22年3月で終了となった。タイミングよく出演の機会に恵まれたことは幸いであった。

【愛知県常滑市の旗振り場】

平成21年3月3日、三重県鈴鹿市在住の郷土史家(元小学校教諭)である赤工作久良氏(65歳)から池田裕氏(平成17年11月13日に忍者熱中人として「熱中時間」に出演し、平成21年2月に難者を旗振り山熱中人としてディレクターに推薦)に電話があったので、池田氏が旗振り山について尋ねたところ、愛宕山がそうだったという情報をもらったという。これは、鈴鹿市の愛宕山(標高78㍍)で、インターネットに「旗振り通信は愛宕山でなくて岸岡山でした」とあり、誤報であった(鈴鹿市を語ろう)。

同年4月、赤工氏からメールが届き、ホームページに「今は昔⑩米相場の旗振り山」についてまとめたとのことであった。さっそく4月9日に新規掲載したという記事を閲覧したところ、「米市場の通信」「旗振り山」が掲載され、天神山・登城山・高岡山・岸岡山・本城山・千歳山・その他(大門山・垂坂山)が旗振り山として紹介されていた。

天神山(朝日町大字縄生)について、「ふもとの苗代神社の宮司さんにお会いすることができたので、お話を聞かせていただいた。地域の古老が米相場の旗振り山であったと言っていたそうだ」とある。

登城山(四日市市大字日永)については、「三重県立四日市南高等学校が建つ丘が登城山。登城ヶ丘とも呼ばれて、校舎から見える夜景や伊勢湾は絶景である。四日市博物館の広瀬さんにおたずねしたら、確かな物的根拠が残されているわけではないが、地域の人の言い伝えでここも旗振り山であったと教えていただけた」という。

さらに、岸岡山(鈴鹿市岸岡町)の紹介に続いて、次のような記事が載せられていた。

「常滑へ　愛知県常滑市保示町　標高6・0m　常滑市保示町正住院は常滑八景の龍ヶ丘が地元ではよく知られ、昔は小高い山になっていて見晴らしが良く、この山から常滑の町の写真を撮りにくる人が多かった。歌碑が立てられている。

(前田米穀店)　常滑市保示町2―1　電話でお尋ねすると、年配の方が亡

くなられているので詳しいことは分からなくなっているが、昔、望遠鏡で旗をみて、米相場の情報を得ていたとお返事をいただいた。

前の海、即ち伊勢湾の正面方向を見て、というから岸岡山であろう。

では、どこに望遠鏡を立てたかというと、はっきりしないが、「近くの正住院の高台でしょうね」ということであった。

正住院の西には「龍ヶ丘」という高台があったが現在はけずられて低くなっている。」

2万分の1地形図「常滑」
(明治23年測図、同26年製版)

筆者は、この内容を本誌110号で簡単に紹介したが、裏付けを取る必要があると考え、平成21年12月23日に常滑市を訪れた。すると、米穀店なるものは存在せず、正住院の門前から南へ80㍍の辻、南東角にあるのは「前田商店」であった！

店員に聞くと、ずっと昔から前田商店で、米穀店であったことは一度もないという。さらに、店員の話では、今の主人（壮太郎）は四代目で、一代目か二代目が旗振りをしていたという。奥さんが詳しかったが、この前に亡くなったとのことであった。旗振り地点として聞いているのは前田商店の東方の丘で、龍ヶ丘は違うという。店員は、外に出て、真東の方を指さして教えてくれた。

旗振り場推定地（常滑市山方町）より西を眺望（小丘は龍ヶ丘）

明治時代の地形図を見せながら、店員の話と照合してみた結果、旗振り地点と考えられるのは、商店から真東へ150㍍ほどの標高15～20㍍位の丘の尾根付近であった。正住院からだと東南東250㍍ということになる。現地に行ってみると、駐車場から南へ細い道を上がった場所で、西方の見晴らしも良い。住所は、常滑市山方町（やまがたまち）ということになる。

一方、赤工氏が電話で尋ねた人は、龍ヶ丘が旗振り地点だろうと答えており、前田商店の先々代が旗振りしていた場所の確定が困難になっている。今となっては、旗振り場は、「前田商店の近くの小高い丘」としておくほかはないだろう。

以上をまとめると、伊勢湾を隔てて、岸岡山から米相場情報を、常滑で受信したということになる。また、距離だけを考えれば、四日市や桑名の米取引所から、ダイレクトに常滑で情報を得た可能性もあるだろう。

【愛知県武豊町の旗振り場】

平成22年3月5日に筆者のパソコンが故障してしまい、メールの内容が確認できなくなった。25日に再び受信できるようになったところ、筆者のHP「旗振り通信ものがたり」の記事を読んだ、常滑市新開町3丁目35番地（常滑駅付近のやや西）の常滑つじさんから、次のようなメールが届いていた（3月14日）。

「旗振り通信常滑ルート　常滑へ伝わった旗振りが、どういうルートで半田に伝わったかについてしらべていますが、有力情報はありません。現在書かれている常滑の旗振り場所も、情報を受け取るためなら海岸沿いどこでもいいのですが、半田へ伝えるためには疑問符がつきます。

半田への中継点となりませんが、知多での旗振り山の有力情報がありましたので、お知らせします。それは武豊町の六貫山です。当時、水野利兵衛という人が農業をやっていて、その息子、水野久一郎（哲学者「谷川徹三」の母方の従兄）の娘が、この利兵衛が旗振りをしていたのを見ていたそうです。

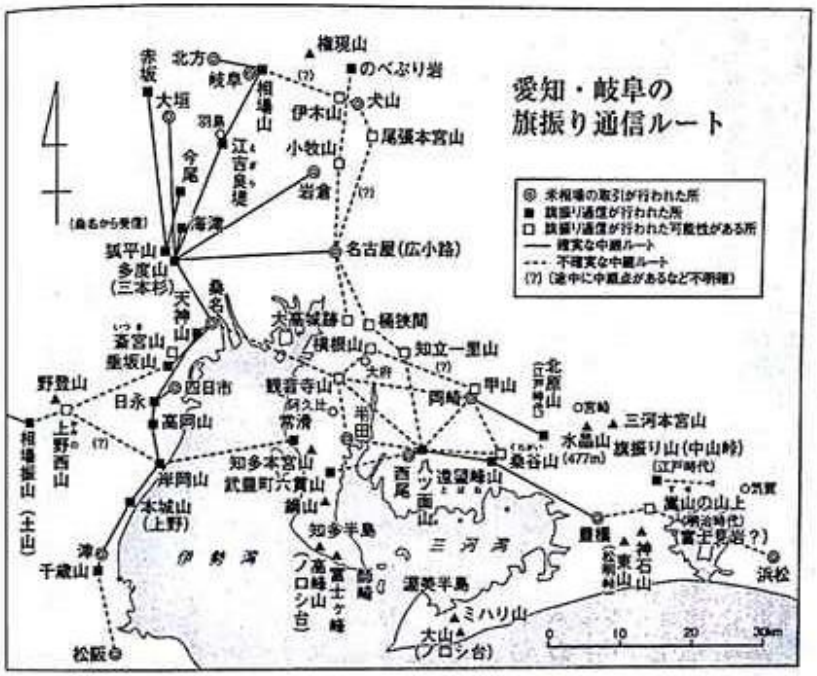
水野利兵衛は、明治10年前後の東京で米相場を手掛け、天下の糸平と渡り合い、糸平が手締めを求めてきたのを断ったため、相場に負けた後に、この武豊の地で、農地の開墾をするようになった人物です。半田から武豊の旗

会員募集

樽火山（タルビ）の会　京都府岳連加盟

安全で楽しい登山をモットーに、日帰り登山からアルプス縦走まで、季節やフィールドを問わない山登りを楽しんでいます。一人で登山されて仲間が欲しいと思っている方など、年齢・性別は問いませんが、例会山行や会の活動に積極的に参加できる方を募集します。詳細はお問い合わせや、HPをご覧下さい。

◆連絡先
〒520－0026
大津市桜野町二丁目四番七－五一四号
☎090－2115－3553
泉田信也まで
E-mail:hilmesayurist@kpe.biglobe.ne.jp
http://www.nexyzbb.ne.jp/~77556rin/



振りはできそうなので、半田→豊橋ルートとは別に、このルートがあったのかも知れません。」

この時点では、受信できていなかったので、つじさんからは、3月19日付けで、同一の再送信があり、次の内容も追加されていた。

「その後、読み直し、八ツ面山ルートを知り、半田の送受信場所（推定では高峰山）でこのルートは完成すると思います（伝聞のみで、証拠品はありませんが）。」

3月25日にようやく受信・返信ができ、筆者の調べたインターネット情報（水野氏関係）を用いた問い合わせ等に対する、次のような返信を同日、つじさんから得た。

「六貫山は山が正しい。ただ現在は開墾されており、明治時代以前には一応山っぽい地形をしていたと思われ、現在でも国土地理院の地図でも小高くなっている。」

「糸平→田中平八」

「話しをきいたのはつい最近で、現在私たちは『谷川徹三を勉強する会』をしており、そこで今月（3／13）私が常滑の旗振り通信の話をしたところ、会長の杉江重剛氏が家に帰り奥さんに話したところ、久一郎氏の娘に聞いたことがあるとの話が出てきたそうです。杉江家はどちらも谷川徹三家とは親戚筋です。水野利兵衛は谷川徹三の母方の祖父。利兵衛が米相場を張っていたのは久一郎の自費出版本があります。」

「インターネットでの水野久一郎が音楽家であったというのは同姓同名で、愛知学芸大学の教授と間違っている。年代も昭和の人物で、中部地方の学校の校歌をたくさん作曲した人です。」

半田の送受信場所（推定では高峰山）がどこなのかについてのつじさんからの返答はなく、多分、亀崎高根町の高根山（幕末の烽火台、標高49㍍）の可能性が考えられる（本誌92号参照）。

田中平八（糸平）については、フリー百科事典のウィキペディアに記事がある。幕末・明治の実業家で、生糸・為替・洋銀・米相場で巨利を得て、「糸屋の平八」「天下の糸平」と呼ばれたという。

つじさんからの3月27日付けのメールには次のようにあった。

「前田商店にも行って話を聞いてきましたが、旗振りの場所は『天沢院の側の丘』か『正住院そばにあった龍ヶ丘』かは現状では判断できませんでした。龍ヶ丘は明治以降、海の埋め立て用土に用いられたため、現在のものは単に史跡として残すためのもので、考えられないくらい小さくなっています。ちなみに瀬木船番所は海の埋め立てのため完全に平地化され、現在、住宅用のビルが建っております。常滑の地形では、ほんの数十メートル西か東かで、半田側の旗振り山での視界が決まるおそれがあります。」

以上をまとめると、明治時代、武豊町の六貫山で、水野利兵衛が旗振りを行い、16㌔離れた八ツ面山と中継することによって、米相場情報を手に入れていた、ということになりそうである。また、半田にあった中継所と連絡した可能性もあるが、半田の中継所は場所がわかっておらず、裏付けをとることは困難である。

なお、武豊町六貫山では、常滑方面や観音寺山方面と中継することはできない立地である。従って、常滑の旗振り場は、終点であった可能性が高い。

【静岡県浜松市の旗振り山】

平成22年4月11日、インターネット検索で発見した、県境の中山峠に近い、浜松市北区三ヶ日町本坂の「旗振り山」（標高392㍍）については、別稿のコースガイド「旗振り山（中山峠）」（本誌72ページ）をご覧いただきたいと思う。

浜松市北区細江町気賀にあったという旗振り場については、4月25日に浜松市北区役所まちづくり推進課生涯学習グループに問い合わせてみた。

5月6日付けの返信（文責、石田潤司）が8日に届いた。それによると、細江文化協会郷土文化部や市学芸員などに確認を取った結果、気賀地域の「旗振り山」の情報は見つからないとのことであった。

しかしながら、埋もれた資料の中に、旗振り場の記述が眠っていたケースが過去に何度もあるので、引き続き、アンテナを張り、調査を継続していきたいと考えている。

（つづく）

（平成22年6月3日成稿）

韓国登山シリーズ⑯

ソウル五岳の一つ

連載

冠岳山

ヨシミスポーツ　吉見英樹

韓国

ソウル近郊、北方にある北漢山・道峰山・水落山などと異なり、珍しく漢江南の新興地区にある。

山容は北方の山のように度肝を抜くような巨大岩壁山塊ではなく、遠方からは穏やかな山に見える。

しかし、尾根稜線に入ると突然、韓国特有の蟻の戸渡りトレッキングがある。とりわけ有名なのは、頂上の危なっかしい狭い岩場に食い込むように建っている参拝所（小さな庫裡）だ。遠方から眺めると、断崖絶壁に危なっかしく乗っている建物が異彩を放っている。

南地区にある、ソウル市民憩いの山でもある。

交通アクセス

ソウル市庁駅より地下鉄で1時間のサダン駅で乗り換え、ソウル大入口駅で下車。そのまま歩くことも可能。

コース

春は名のみの風の寒さ、ソウルの春はさらに風が冷たい。夕方ともなると温度がグンと下がり　路地裏の水溜りは凍っている。

荷物を定宿のホテルに解き、夕食までの腹減らしに、ぶらっと下町に出かけてみた。景福宮付近には昔ながらの家屋、路地が残り、散策するには風情があって時間を忘れるぐらい。

古い区画の一角に有名なサンゲタン専門店の老舗ドソクチョンがある。ご存知の人も多いと思うが、両班の旧宅をそのまま利用しているので、独特の雰囲気がある。濃厚な人参の香りがする特徴あるスープは、ファンが多い。

この日は友人のソン氏とここで待ち合わせ、夕食を共にし、商談する約束をしていた。先に到着し床暖房（オンドルバダク）で、腰を暖めていると、「こんにちは～」と友人が現れた。

歓談しての食後、外に出るとすっかり日は落ち、オレンジ色の街灯が点っていた。古い瓦屋根の町並、ぼこぼこの石畳の路地にはこのオレンジ色の街灯がよく似合う。これによりいっそう郷愁が増すのである。その後、夜の町を散策し、屋台焼酎（チャミスル）で仕上げ、友人と別れた。さて、次の日は山歩きである。

今回は家内と次女（京都の大学生（京大ではない）で登山クラブに入っている）の家族3人で登ることになった。

友人のソン君いわく「ソウル五岳の中ではいちばん簡単。ハイキングに毛の生えた程度」と聞いていたので、はっきり言って甘く考えていた。

私以外の出で立ちは、靴はウォーキング、鞄はショルダーバッグ、ウエアーでまともなものは雨具だけ。私自身も靴底こそビブラムであったが、短靴であった。そのうえ、登山口まで市庁駅から1時間ぐらいと聞いていたので、ホテルを出発するのも、10時頃でよいという、まったくの舐めようであった。

当日の天気は快晴ではないものの、そう寒くはない。のんびりと部屋で朝食をとり、「そろそろ行こかいな」と、ホテルを出たのは10時を回っていた。地下鉄で漢江を渡り、江南カンナム地区（新興地区）へ行くのは、久しぶりだ。

12年前までは、ソウルで行くのはほとんどカンナム地区であった。というのはその頃、私の友人であるチェ社長の工場でヨシミオリジナル大型ザックをつくってもらっていた。

チェ社長の工場では、モンベルのザックを主に下請け委託生産をしていた。私の場合、当時は大学・高校山岳部にも多くの部員が在籍していて、80Lクラスの大型ザックが年間700個弱と飛ぶように売れていた。今ではそのような話をしても、誰も信じない。

私は今も相変わらずの個人商店であるが、このチェ社長は脱サラし、小さな下町工場を皮切りにベトナム・中南米に大型縫製工場を建て、そのうえモンベル韓国を設立し、販売網を事業化した。一方で世界的スポーツバイクの韓国有数の輸入総代理店をつくり上げた、本当にすごい人である。

彼が起業した時の初めてのお客は間違いなくこの私であるというのが、私の自慢である。そんな事業家になった彼は全く威張らず、今でも訪ねて行くと、気軽に食事につきあってくれる。

彼とクライミングをしたり、商談の後、ふたりで居酒屋で飲み、若い娘をからかったのも、つい最近のような気がするが、あれからすでに20年も経ってしまった。

冠岳山付近略図

ソウル大入口駅で地上に出ると、大学方面の反対側は巨大タワーマンションやデパートが林立するニュータウンであった。ソウル大学側の田舎風景とは対照的な光景だ。

早速、大好きなキンパブ（韓国巻き寿司）を買い、登山口までバスに乗ろうとしたが、全くどのバスに乗ったらよいか判断つかない。タクシーに乗ろうともしたが、近すぎて「アンデムニダー（駄目ー）」と断られ、仕方なくバス道を歩く羽目になった。これが意外と長く、30分はテクテクと歩いた。登山口へは大きな駅前ロータリーバス停のすぐ裏から始まっているので、簡単に見つけることができる。行動食・昼食などもコンビニで買える。

登山道は広い広い散策用の道で、最初は平坦な渓流沿いだ。水は澄んでいてきれいである。渓流沿いの道を30分程で登山道風になり、小1時間程で第四野営場という分岐に出る。直進すると山へ向かい、左へとると冠岳山方面だ。冠岳山への道は、散策ではなく岩の多いハイキング道になる。

40分程歩くと、二本の巨大な石積みケルンが結界門のように現れる。ここより勾配がいきなりきつくなり、本格登山道になる。谷は狭く水は濁れ、染みでた水は全て凍っていて道には氷がへばり着いている。やや緊張しながらの歩行となる。

ジグザクに高度を稼ぐと、狭い谷の隙間から頂上付近の鉄塔やレーダードームが見えるが、首が痛くなるほどの傾斜だ。最後のシゴキは岩場に取り付けられた階段道になり、これを登り切ると、いきなり平坦な峠に飛び出る。

こちら側の風景はゆるやかな傾斜地で、広場にはヨンジュ庵という大きなお寺が建っている。峠からは反対側のカチョン市が一望でき、広大な展望に納得がいく。広場で宴会をやっているトレッカーも多く、韓国の登山らしくなってきた。

考えるに、ソウル大学からの道は人が少なく傾斜もきつく、どうも最短コースのようだ。通常は反対側のカチョン市から登るのがよいと思う。

さて、稜線をたどって行くと、この山のメインイベントである蟻の戸渡りコースが現れた。細い岩肌、垂直の鎖場など、地図で確認すると30分は連続するようでワクワクする道だ。しかし、道峰山同様、またもや家内の拒否宣言が発令された。

「こんな危ないのアカン！　他の道ないんか！」と言いだした。娘も「こんなん槍ヶ岳やん！　こんな靴では行かれへんやん！」とふたりとも完全に拒否モードになっている。

冠岳山山頂をバックに

たしかに見た目にはとても危険に見える。近くの韓国人にも、「その靴じゃ駄目だぞ！」と忠告され、泣く泣く安全なお参り道を行くことにした。

こちらは時間が1・5倍かかるが、全く心配なしのメチャメチャ安全道である。お寺広場から頂上のヨンジュ庵への途中に展望所がある。ここからは岩稜と岩に食い込む頂上部のヨンジュ庵、カチョン市が展望できる。ここでひと息入れて、韓国人風にポーズを変えて写真を撮る。頂上部は、だだっ広い岩の広場と、少しくだれば岩に食い込むヨンジュ庵がある。お参りを済ませ、来た道を引き返すことにした。

すでに時間は15時近くになり、もう肌寒くなっていて、知らない下山道をとる自信はなかった。帰路はコース的には安心であるが、硬い岩道や凍った個所もあるので、スニーカーの娘は時々バカ～～ンと転げたりし、時間を食われてしまった。「思ったより遠いやん」と繰り返す娘の声を聞きながら、安全地域分岐点の第四野営場に着いた頃は、とっぷりと夕方になっていた。

ここにはマッコリの酒瓶を担いで行商に来ているおばさんがいる。酒がたっぷり入ったこのデッカイ酒瓶を女手ひとつでここまで運んできているのか？　その根性に感服せずにはいられない。感服ついでに「アジュマ～、ハンジャン、ジュシレヨ～」（おばさん～、一杯くださいな～）てな具合で、喉を潤した。一ここからは平行道なので、多少酔っても大丈夫だ。登山口のソウル大バス停からは、タクシーを拾ってソウル大入口駅に到着し、本日の登山は終了した。教訓、「山は早立ち、早帰りが基本」。

《コースタイム》

ソウル大入口駅（25分）ソウル大バス停登山口（1時間10分）第四野営場（1時間20分）ヨンジュ庵峠（40分）冠岳山ヨンジュ台（2時間20分）バス停

文学歴史探訪ハイク ⑭

適塾と除痘館記念資料室を訪ねて

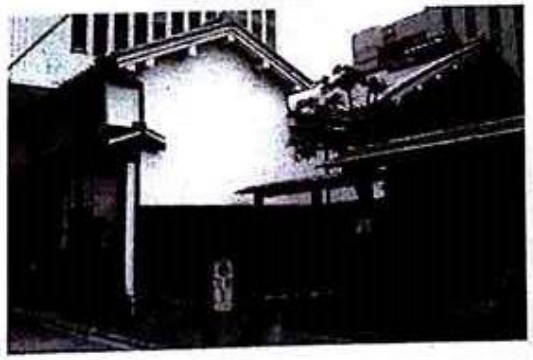
松永恵一

緒方洪庵

洪庵は今から200年前、文化七年（1810）備中国（岡山県）足守藩士佐伯惟因の三男として生まれた。幼名は章。文政八年（1825）、大坂蔵屋敷留守居役となった父と共に大坂に出る。生まれつき体が弱く、病気がちだった洪庵は、思々斎塾の中天遊の神業のような西洋医術を知り、発奮して弟子になり、医療に生きることにした。天遊はわが子以上にかわいがった。天保元年（1830）、「もう教えるものはない。江戸へ行け」と、日本一といわれた蘭医学者坪井信道のところで学ぶことを勧めた。「天遊先生と誠軒先生（坪井信道）の慈恩がなかったら、今の自分はない」と尊敬し感謝している。

江戸での修業を終えて、天遊没後の思々斎塾で教える洪庵を援助したのが、同じ塾で学んでいた名塩（西宮）の億川百記だった。天遊の遺子中耕介と蘭学修業のため長崎へ行かせている。大坂に戻った洪庵は北御堂の傍の瓦町に適々斎塾（適塾）を開き、百記の娘八重（18歳）を妻に迎えた。29歳だった。手狭になったので今に遺る適塾を天王寺屋から住宅ローンを組んで購入した。

天然痘予防のため除痘館を開き奔走すると共に、ドイツの医師フーフェランドの医師の心構えを説いた『扶氏医戒之略』を出版し、「人の為に生活して己のために生活せざるを医業の本体とす」を、適塾の指導の第一義とした。全国から集った塾生にあふれ、談論風発の気風は、わが国の運命に大きく貢献する多くの人材を輩出した。


適塾

洪庵は文久二年（1862）幕府奥医師兼西洋医学所頭取として江戸に招かれ赴任する。翌年突然多量の喀血により54歳の人生を閉じた。

除痘館記念資料室

適塾の一筋南側の洪庵記念会緒方ビルに、「除痘館記念資料室」がある。入口横に除痘館跡の石碑。緒方洪庵のレリーフとともに除痘館の説明が記された「除痘館跡」の銘板がビルの壁に埋め込まれている。

恐ろしい伝染病であった天然痘（痘瘡）根絶は、イギリスのジェンナーによって開発された牛の痘苗による予防接種活動の成果だった。洪庵は牛痘接種を行うための痘苗がわが国へもたらされた嘉永二年（1849）、大和屋喜兵衛の助力を受け、日野葛民等と除痘館を道修町に設立した。世のために新法を広むるものであるから、謝金を得てもめいめいおのれの利とせずさらに仁術を行う資とすることを神前に誓ったという。

一階には手塚治虫の『陽だまりの樹』の緒方洪庵が種痘をおこなっている除痘館のイラストが掲示されている。四階の除痘館記念室には、ジェンナーや、緒方洪庵の資料が展示されている。

愛珠幼稚園

大阪市立愛珠幼稚園は、明治十三年（1880）に創設された日本で三番目に古い幼稚園。周囲とはずいぶん趣を異にする重厚な正門。子供の声が聞こえてくるのが不思議な御殿風の建物。

最古でありながら現役の明治三十四年竣工の園舎は、昭和六年（1931）設置の園庭の廻旋滑り台と共に国の重要文化財に指定されている。

二階建と見まごう高い大きな入母屋は遊戯室の屋根。鬼瓦に「愛」の文字が刻印されている。全体的にガラス戸、ガラス窓が多用され開放感いっぱい。床は二重床でおが屑が詰め込まれている。振動を抑え、防寒の役割を果たしている。天井は桃山様式の格天井。グラウンドと廊下、部屋の高さがフラットで、バリアフリーの概念が取り入れられていた。

「主人花を愛すること、珠を愛するが如し」。幼子が愛されすくすくと伸びることを願った、船場のぼん、いとはん達のセレブな幼稚園だった。

銅座跡

愛珠幼稚園の前に、銅座跡の石碑が立っている。江戸時代、わが国は世界有数の銅産国であり、銅はわが国の重要な輸出品であった。その銅の精錬から売買までを独占的に管理する役所として、明和三年（1766）にこの地に銅座が設けられ、明治維新まで続いていた。

銅座の役割は、別子銅山（愛媛県）等諸国の銅山で産出した荒銅を買上げ、当時大坂で技術を競っていた住友家（泉屋）の住友長堀銅吹所をはじめとする銅吹仲間に精練させ、それを集荷して海路長崎へ回送するものであった。また銅の密売を防ぐため古銅類買上げの精細な規定がつくられ、銅器の破片に至るまで銅座が管理したという。

長崎のオランダ商館長一行の江戸参府の際は、「オランダ屋敷」と呼ばれた銅座に泊まり、銅器物などを注文し注文品は帰路に受け取っていた。オランダ商館医として来日したシーボルトも江戸に行く途中宿泊している。

愛珠幼稚園

コース概観

先の大戦の空襲で壊滅的に破壊された大阪のビジネス街の中心部に奇跡的に残された適塾と愛珠幼稚園。医師で、蘭学者で、優れた教育者であった緒方洪庵が開いた適塾は、幕末から明治維新にかけて活躍した多くの逸材を輩出し、現在の大阪大学や慶應義塾大学の源流のひとつとなった。生誕200年にあたり適塾時代の空間に浸った。

大阪市営地下鉄淀屋橋駅下車。17号出口から徒歩5分。御堂筋と堺筋の間で高層ビルの間に佇む寛政年間に建てられた適塾は、国の重要文化財に指定され、大阪大学が管理している。江戸はどこか遠いところにあると思い込んでいたが、目と鼻の先にあった。緒方洪庵は「適々斎」と号した。「荘子」の「適人之適、而不自適其適者也」(人の適を適として、自ら其の適を適とせざる者なり)「他人の楽しみをわが楽しみとして、(他人に振りまわされ)、われとわが身の本当の楽しみを楽しみとしないものである」によっている。

適塾は間口約六間(約12㍍)奥行き約二十一間(約39㍍)の敷地に建てられた、建坪九十坪あまりの二階屋だった。正面部が大正四年(1915)、道路拡張で1、2㍍ほど切り詰められている。解体修復工事により洪庵時代の建物がほぼよみがえり、当時の雰囲気をよく伝えている。

玄関に入ると、靴を脱いで下駄棚へ置く。教室は並んで二間あるが一間は受付に使われている。福沢諭吉の軸が掛けられている。奥行きの長い町家で、大勢の塾生が切磋琢磨していたと思うと気が引き締まる。中庭を左手に見、廊下を通っていくと書斎に通じる。使用していた薬品調合台が置かれている。客座敷は前栽に続いていて、明るい日ざしがさしこみ、風が通り抜けていく。座敷に座ると静寂が訪れ、適塾時代の空間に浸ることができる。

客座敷の隣の部屋は家族部屋。洪庵夫人の八重の写真、緒方家の系図などが展示されている。緒方洪庵が教育と翻訳、著作に没頭し、天然痘とコレラの万延の防止に貢献した陰には八重の内助の功が大きい。六男、七女の13人の子供を育て、塾生の母代わりとなり個人的な相談にのった。

納屋をへて台所へ。大阪の町医者番付表が貼られている。大関、横綱など大相撲と同じ呼び名でランク付けされている。緒方洪庵は最終的には大関まで昇進している。食事の時にはとても座って食うなんということは出来た話ではない。足でも踏み立てられぬ板敷きだから、みな上ぞうりを履いて立って食う。銘々に茶碗に盛って百鬼立食。と福沢諭吉は記している。

台所からとても急な階段を上る。注意して二階へ上がってすぐのところに、解体修理で外された瓦や和釘が展示されている。手前が女中部屋で、有名な「解体新書」(ターヘル・アナトミア)が展示されている。その先がヅーフ部屋である。オランダ語の辞書「ヅーフ・ハルマ」の置いてあった部屋である。オランダから舶来の原書を塾生達は奪い合って書き写し、熱心に勉強した。その写本をもって毎月六回ぐらい行なわれる会読に参加する。明日が会読という晩は、大抵寝ることはできない。たよるところはただヅーフのみ。ヅーフ部屋に、5人も10人も群をなして無言で字引を引きつつ勉強している。

奥へ進むと塾生大部屋。適塾の中で最も広い部屋で、当時何十人もの塾生が勉強し、寝起きしていた。寄宿生の居住するスペースは畳一畳分。授業はまず輪読、主席者が蘭書を和訳、他の塾生に質問し成績が良ければ日当たりのよい窓の方へ移る。悪ければ窓際から離れた場所に移る。洪庵は最上級の塾生を教え、先輩が後輩を教えた。先輩の指導を受けながら自力で学ぶ。学問勉強ということには当時世の中に緒方塾生の右に出るものはなかろう。日が暮れたからといって寝ようとも思わずしきりに本を読んでいる。読書にくたびれ眠くなってくれれば机の上につっぶして眠るかあるいは床の間に床側を枕にして眠るか、ついで布団をしいて夜具を掛けて枕をして寝るなどということは、ただの一度もしたことがない。と福沢諭吉は記す。塾生大部屋の中央にある柱に刻まれた刀痕は、彼らの血気盛んなさまを今に伝えている。

全国から千人近くの塾生が集まって来た。橋本左内(安政の大獄で斬首)・大村益次郎(陸軍建設の祖)・福沢諭吉(慶応義塾の創立者)・佐野常民(日本赤十字社初代総裁)・長与専斉(日本の衛生行政の確立者)・手塚良仙(手塚治虫の曾祖父)。歴史上の人物が確かにここにいて道路を往来していた。

《コースタイム》

地下鉄淀屋橋駅(5分)適塾・除痘館記念資料室・愛珠幼稚園・銅座跡

《地形図》2万5千=大阪東北部

《費用》

適塾　250円

(問い合わせ先)

適塾　月曜・祝日の翌日休館

☎06(6231)1970

除痘館記念資料室　日・祝休館

☎06(6231)3257

山のレポート

山の地名を歩く 53

羽賀場山

西尾　寿一

栃木県宇都宮市から西北へ古峯神社の参道を行くと、大芦川沿いの広く細長い水田が続く。

引田の小広い盆地状を過ぎると両岸の山が迫ってくる所がある。これが稲田である。

右の枝道に入ると立派な長安寺がある。その裏手の山が羽賀場山（774・5㍍）である。

一等三角点が置かれているので関西からも登る人がまれにあるが、地元では日光連山が立派であるためか、いたってローカルな山である。

羽賀場山の南の対岸には鳴蟲山（725㍍）や石裂山（879㍍）の比較的有名な山があるので、地図に山名記載のない羽賀場山はなおのこと、地元でも知らない人が多い。しかし、栃木県山岳連盟『栃木百名山』（下野新聞社）は一見地味にみえるこの山を採りあげていてさすがである。やぶ山だの、背が低いだのと注文をつける人も多いなかで、山の良さは登ってみなければわからない。周辺に有名な山岳がひしめくなかで、あえて羽賀場山に注目する理由はその山名および山容である。

羽賀場山は明らかに当て字であり、固有名詞ではない。とすると直接的に語るべき何事かを憚り、万葉仮名のままに、一音一字を当てて原意不明の状態にする事情があったことが察せられる。

山名表示では「ハガバ」であるが、おそらく「ハガ・バ」で、「ハガ」をどう解釈するかが問題となる。「バ」は場所で問題はない。

小生の解釈では、多くの類型を考慮してみるとしても、「ハガ」はどうみても「ハガレル」で崖地・崩壊地形である。ハガは羽賀のほかに坪和・芳賀・羽下の異字をつくる村落地名をもつが、みな同義である。

このうち大きいものが宇都宮東方の芳賀郡や芳賀町で、益子焼きの本場である。芳賀は羽賀よりさらに進化した知名で、典型的な「好字化」である。

この付近には「芳賀富士」もあって、歴史学者によると、渡来人が北関東にあって、名物の風害が最も少ないこの土地に真っ先に住みついた。と言っている。こうした土地から鎌倉を支える武士団が生まれてゆくのは歴史の示すところであった。

「古代地名語源辞典」（東京堂出版）では、「ハガは北関東から東北にかけて多い」とし、栃木県芳賀郡などを挙げている。「ハガは剥ぎと通ずる語で、崖地を示す地名」とある。

山の土砂を剥ぎとり岩場を露出させた山はこの地方では常である。地元ではめずらしくもないが、西日本などからみると独得な景観に見える。この傾向は南日光あたりから上州にかけて顕著になる。

強い風と浸食の力学がこの地方に特に強力に作用しているかにみえる。宇都宮西方の山においても特に目立つのが石裂山である。しかし、川の源流部では古峯山や横根山のような高原状の山容となり、中流付近の尾根がやせ細って竜骨状の岩場をつくっている構図は不思議なものに映る。

中流域の土砂が大量に流出した時代があり、その土砂が関東平野へ押し出され、肥沃な農耕地をつくった。そして強風である。上州から日光にかけては山火事の多発地帯であった。この地方の住民は、それらの災害に打ちかって今日の繁栄を築いているのである。

羽賀場山もその例にもれず、主脈尾根は石灰岩の白い露頭が竜骨状になって居座っている。尾根の通路は、この岩場を乗り越えて行くことになる。

「ハガ」に「バ」を加えた遠因には、後世この奇怪な岩場群を墓場の墓石群に見立てた可能性が高いのである。

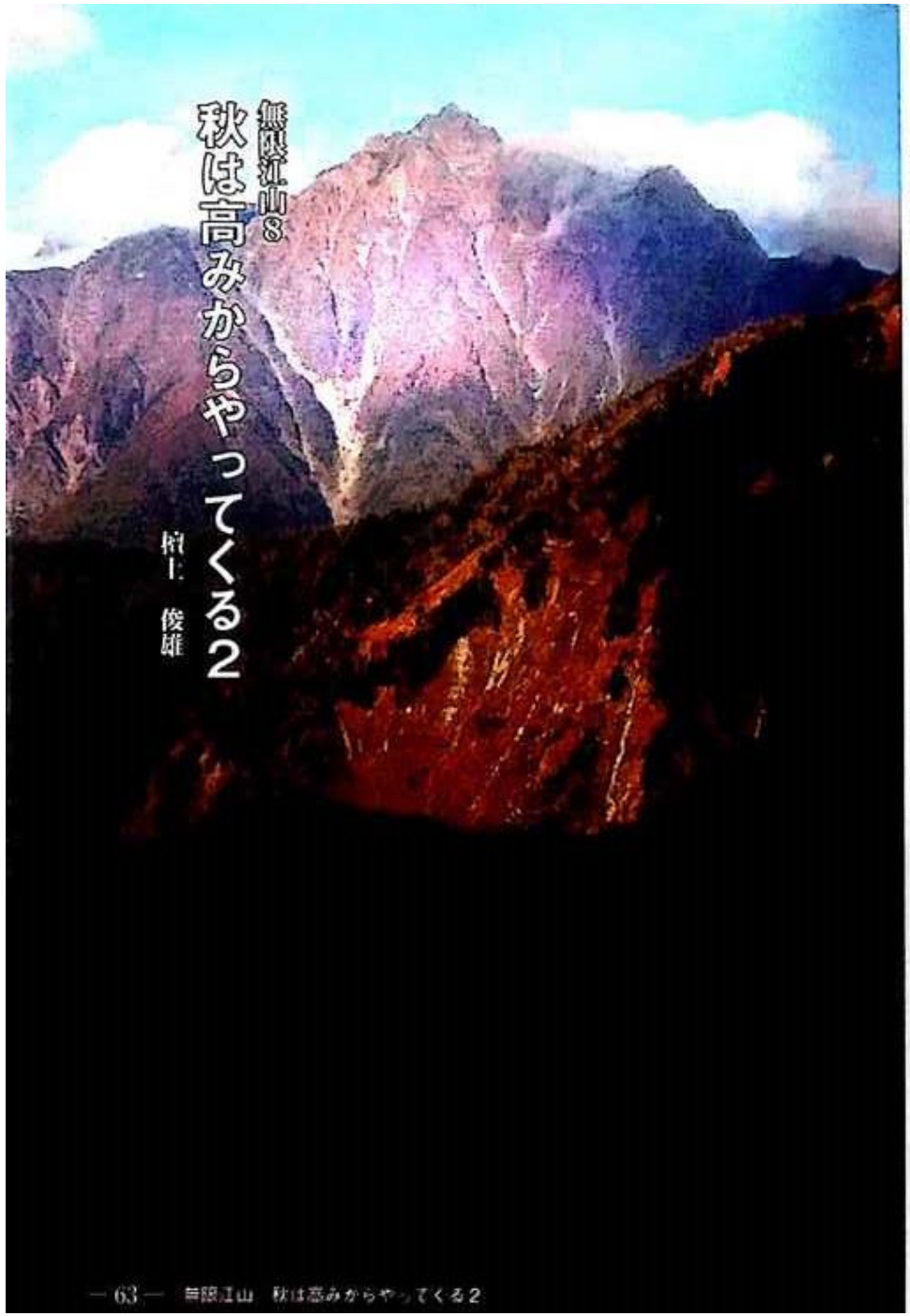
その例は四国の石鎚山の墓場尾根に求めることができる。こうした奇抜な形の尾根には修験者が入りやすいので、もしかしたら羽賀場山もその可能性を探ってみる必要がありそうだ。

それはけっして荒唐無稽で突飛な空想ではないと思う。この地で有力な長安寺の裏山であることも関係すると思うが、今のところ証明するにいたっていない。

関東の「ハガ」に対して関西にも「波賀」の地名があることが判明した。

現在は町村合併で宍粟市となっているが、兵庫県西北部鳥取県境にあって、氷ノ山の南、三ノ丸（1464㍍）を頂点として西に三室山（1358㍍）、東は藤無山（1139㍍）といった有力な山岳地帯に囲まれた急峻で浸食の激しい地域で、元の名は「波賀町」であり、小字に複数の「有賀」地名がみえる。

西国三十三所道中案内地図
（上）（下）（二冊本）　森沢義信 著　B5判　各二五二〇円
いつどこでも／日帰りで身近な札所から！
姉妹編
西国三十三所道中の今と昔
（上）（下）森沢義信 著　A5判　各二三一〇円
写真で見る 京都自然紀行
石田志朗 監修／京都地学教育研究会 編著
A5判オールカラー　二二四頁　一九九五円
京都の自然と人の関わりを写真で
「地学」の目で景観や歴史を見直すと、
魅力がより明らかに。アクセスマップ付
ナカニシヤ出版
京都市左京区一乗寺木ノ本町15
tel 075-723-0111 〒606-8161
www.nakanishiya.co.jp/ 図書館図



無限江山8

秋は高みからやってくる2

椋王　俊雄

昔から播磨から因幡へ抜ける通路として重要だったとみえて、弥生・古墳時代から中世に至る複合集落があることからも類推されるが、昔から砂鉄の産地でカンナ流しが盛んに行われていた記録が残る。

砂鉄は文字通り川底に溜った微量の鉄を集める作業であるが、その砂鉄の元は、山岳の岩石が風化・浸食された鉄鉱石が流出して河床や海底の砂粒状になって堆積したのであるから、人工的な鉱山と大元は同一であるが、自然の力によって浸食という作業が行われるから、砂鉄を産する地方の山岳は、大概激しい浸食によって急峻な地形をつくる。

したがって、兵庫県の波賀も、関東の羽賀・芳賀同様、自然の力によってつくられた地形的特徴をそなえているとみてよい。

兵庫県の波賀にはこのような自然の魅力を多く残し、ふたつの道の駅と観光施設があり、山岳・森・渓谷などを紹介している。

また、最近では『宍粟50名山』なるものを選定して登山道の整備をしているが、それらの中心地はやはり、旧波賀町なのである。

兵庫の波賀もやはり、浸食・崩壊地名なのであった。「羽賀場山」の山名考証の例を知らないが、仮説として一石を投じておきたいと思う。

羽賀場山に登ったのは'07年10月、相棒と1ヶ月の山旅の途中だった。何かの都合で小生ひとりで登ることになり、長安寺まで車で送ってもらい登った。

杉の植林の下のよく踏まれた道は歩きやすいが、何度も分岐点があるので注意がいる。

主脈に出る所は90度左へ曲がり、ついに墓石を思わせる露岩の連続となる。尾根はやせ細り、大量の土石が流出していったことが読みとれる。大きな岩塊を乗り越えるとアップダウンが続き、すぐ一等三角点の山頂となる。

小広い山頂は展望も無いが静かでだれもおらず、どっかと腰をおろして休む。このうえなき安らかな時間である。一等三角点をもつ山にしては、これほど静かなのは奇跡的である。

北西へ続く尾根は、ほぼ同等の高度を保ちながら、独標775mに至るが、この峰は天気山・天強山などと呼ぶらしい。道はなお続いており、相変わらず岩の露出は続く。

尾根の道はなお続くが、途中で引き返すことにした。町へ買い物に行っていた相棒が長安寺で待っているはずで、これがなければ先へ行ってしまいたいほど、先に何があるのか知りたい誘惑を感じた。

知らない所へ行く恐怖と楽しみとを天秤にかけるなら、小生は後者のタイプだから、よく今日まで生きてこられたものと思う。

きっとどこかで支えてくれる人達が苦労していたのだろう。

秋になると必ず思いだす山がある。大日三山だ。これを越えて剱岳へ登り、内蔵助平から黒四ダムへくだったのは、大学3年のときだ。体調を崩してしばらく山から遠ざかっていたが、再起をかけての山行であった。登ってみると以前と変わらず快調そのもの、友はサポート役をかって来てくれたのに「だまされた」と終始憤慨していたことを今でも記憶している。

剱岳の山頂へ登ったあたりのことはほとんど覚えていないのは自分でも不思議だが、称名滝から紅葉の始まった大日平へ抜け出た時の風景はすばらしく、「山へ帰ってきたぞ」と叫びたくなるほどであった。

クラブの仲間と登るのは楽しいが、自分のことは自分で行う単独登山ができるようになって初めて、他人と力を合わせて単独ではできないことを成し遂げるためにパーティが組めるのではないだろうか。登山は危険だからひとりでは行かない、とよく言われるが、ひとりでの限界を知らないで寄り合って行ったとしても、安全とは言えない。ひとりで行ける場所へは積極的にチャレンジして、自分の能力・精神力を養い、かつ限界を知っておくべきなのである。そして、他人に迷惑をかけない範囲では、自己中心に振る舞ってでも心身のベストなコンディションを維持することが何よりも必要であることを、この時しっかりと教えられたような気がする。

さらに剱岳の思い出は続く。大学を卒業したものの、よくある話だが社会意識に欠けたままで進路が定まらず、周囲は皆真面目に就職しており、またも孤立感にさいなまれ、友を誘ってまたこの山を目指した。

今度は頂上から北方稜線を進み、池ノ谷ガリーをくだって楽しみにしていたチンネの下に出た。岩登りに特に興味があったわけではなく、雪や氷でつくられた日本を代表する地形を見てみたかっただけなのだが、荒涼とした風景と落石ばかりを気にして気楽に歩けない道に違和感を覚え、早々に大窓雪渓へ下りて池ノ平へ向かった。

大日岳

日本の山のひとつの頂点として最大規模の越年性残雪を有する剱岳を意識をしていたが、残念ながら私の目指す山ではなかった。今もそうだが、私はもっと自由で広がりのある広大な山岳地帯に憧れる。気になる山に登ってみれば、その先に想像を超えるほどに果

てしなく続く山並があるような場所に。剱岳以上に大日の印象が残るのは、まさにそうした心理によるものだろう。氷河地形では目を見張るものがある槍穂高にも足を運んだが、その北の雲ノ平などの方にどうしても関心が向いてしまう。

大日小屋から剱岳

そして登り方にも体力が許す限りこだわりたいと思っている。登山は自己実現の世界であって、これをシンプルに実践し楽しむことに醍醐味がある。山小屋を使って最短ルートを登るだけではなく、余裕があればテント行で、さらに往路復路コースを選んで自分にふさわしい登り方で行きたいと思う。人の描いたものを鑑賞するのも楽しいものだが、自分で思いのままにキャンバスに絵を描くことができれば、どんなにすばらしいことだろう。

秋山であれば3000㍍の稜線にテントを張るというはリスクが大きいので、2000㍍位で泊まるプランにすれば無理はない。最大限自分の力で登るという前提で登山を考えれば、特別な装備、サポートを受けながらの高所登山は論外として、日本の山であれば自らにハンディを課し、やりとげるという自己実現の登山がもっとあってもいいのではないだろうか。

私は高島に続いて余呉で中央分水嶺トレイルづくりに勤しんでいるが、すでに多くの人に歩いてもらっている高島ではプランをいくつか用意し、それをたたき台にしてもらっている。日帰りであれば全長80㌔九分割を基本とし、12山というのも決めていて1山ずつ歩くのもよし、4泊5日のスルー、春秋の2泊3日のハーフスルー、そして積雪期の12山スノーシュー登山まであり、これによって春夏秋冬、1年を通じて親しんでもらおうとするものだ。道の整備も自然への負荷を最小限にすることから最低限のものであり、読図力も要求される。トレイル歩きに慣れてもらえれば、山の楽しみ方の裾野が大きく広がることはまちがいない。

秋の紅葉は新緑を知るものにより深い感動を与えるが、秋の日暮れは早く、山での行動は特に慎重さが求められる。山と向かい合うということは、山を深く知ることはもちろんのこと、自らの実力を高める努力を怠らず、かつ客観的に現状を正しく評価することであり、そのなかからその人なりの内なる初登山の感動に浸ることができるにちがいない。

コースガイド㊤

南山城

（里山シリーズ58　木津川市）

古のロマンを秘めた小道
山背古道

一般コース（★★）

長宗　清司

京都と奈良とを結ぶ旧街道で、南山城の山裾をゆるやかな起伏を繰り返し、小高い所などを巡る古道である。城陽市寺田から奈良市市坂間約50キロ、木津川が開いた豊かな地域。古墳や古い町並が現存し、少し外れた山手餅には、ひっそりとした社寺が点在している。

今回は、山背古道の南半分を歩くことにして、JR棚倉駅から出発した。まず、駅前に立派な石の鳥居が目に入る。涌出宮（和伎神社）である。祭神は古来より雨を降らせる神と崇められ、清和・宇多天皇も雨乞いの使者を使わされたといわれている。

駅から線路ぎわを南下し、道なりに右折して府道70号（上狛城陽線）に出る。しばらく山手にJR奈良線を、右に広がる田園風景を眺めながら歩く。やがて標識に従って、山手に外れて椿井大塚山古墳に向かう。ガードをくぐってすぐ、右手の小高い丘が古墳である。

三世紀末から四世紀初めに築造されたと考えられる、全長約180メートルの前方後円墳。この古墳から卑弥呼の鏡といわれる三角縁神獣鏡が三十数面出土し、邪馬台国畿内説の根拠になっている。現在は、前方と後円の間をJRが走り抜けている。

山際の道は、ポイントごとに的確な標識があり、次の目的地松尾神社に立ち寄る。正面の道を南下、迷いやすそうな位置にはうまく標識が立てられていてありがたい。家並の間の小道をくねくねと歩く。やがてT点の標識に従って左の道を上りつめると美しい竹林の先に緑の長いガラス張りの建物が目に入る。山門をくぐると、山城町が名勝に指定した霊宝山玉蓋禅寺と狛弁財天社の境内である。春はサクラ、秋は紅葉で人気があり、高台にあるため遠く奈良・生駒の連山が見渡せる。きょういちばんの展望地だ。奈良の都の鬼門の位置に当たるこの弁財天社に皇室も参詣されるという。長らく荒れ寺（廃寺）だったのを、現住職が「ひとりで復興させた」と言う。手入れの行き届いた庭が美しいのに感服する（寺裏の弁天山には三角点がある）。

来た道を少し戻り、再び山背古道に出て左折する。やがて、上狛の交差点から国道24号に合流する地点手前で左の脇道へ折れる。JRの踏切を渡り、農地の中道を東進して、高麗寺趾に立ち寄る。飛鳥時代から平安時代まで存続した寺で、当時、高句麗（朝鮮半島）から渡来した人々の活躍は目覚しく、この地の豪族だった狛氏によって建てられた寺といわれている。現在は跡地に石碑が建てられており、京都府最古の寺院跡のひとつだと知る。

国道163号へ出て木津川沿いに上流へ少し歩き、京都府立山城郷土資料館で昔の道具や南山城地区の考古・民俗・歴史学にわたる豊富な郷土資料を拝見する（中央の大きな石室は圧巻）。

国道163号（伊賀・笠置街道）と24号の交差点（上狛4）まで歩き、木津川右岸沿いに200メートル程行くと玉龍山泉橋寺が見つかる。この寺は、別名橋寺ともいわれ、僧行基が五畿内（山城・大和・摂津・河内・和泉）に造営した四十九院のひとつで、橋を守る目的で建てられたという。境内にある地蔵菩薩石像は鎌倉時代につくられたもので、丸彫りの石仏としては、日本一の大きさで高さ約4・85メートル。ただ、応仁の乱で地蔵堂は戦火で焼かれ、石仏も焼損し、それ以来地蔵石仏は露座のままである。

国道24号に戻り、泉大橋を渡る。渡り切ってすぐ右、土手下に下りて行くと歌人和泉式部の墓がある。反対に左へ国道下のガードをくぐり上流に向かうと、土手と線路際の角地に安福寺がある。境内には平重衡の墓があり、ふたりともこの地で没している。

ここで歴史散策を終え、JR木津駅に出た。

（平成22年1月23日・2月20日歩く）

椿井大塚山古墳跡

《コースタイム》

JR棚倉駅（5分）涌出宮（25分）椿井大塚古墳跡（10分）松尾神社（15分）玉蓋寺・狛弁財天社（40分）高麗寺趾（10分）府立山城郷土資料館（25分）泉橋寺（20分）和泉式部墓（20分）安福寺平重衡墓（15分）JR木津駅

＜地形図＞2万5千＝田辺・奈良

（問い合わせ先）

玉蓋寺　☎0774（86）2880

京都府立山城郷土資料館　☎0774（86）5199

泉橋寺　☎0774（86）2426

コースガイド②

鈴鹿

続・近江側から登る鈴鹿の山々29

芹川谷南尾根

一般コース（★★）

磯部　純

アミダ峠から東へのびる芹川とエチガ谷に挟まれた長大な尾根を歩く人は少ない。

この尾根を岩野さんの例会で初めて歩いたのは平成12年の9月。その後、平成18年6月にも歩いているが、相変わらず人が歩いておらず、自然がそのまま残されていることに驚く。

今回は、向倉から「登り尾」と呼ばれていた古い道跡を登り、杉峠から標高点597㍍までを往復し、向山から桃原越へくだり、「仏ヶ尾」を通って桃原へくだるルートを紹介する。

車を芹川林道の向倉登り口西の広場へ置く。まず橋を渡って、すぐ左の奥50㍍程の所にある鍾乳洞を見に行こう。こんな所にあるとはとうてい思えない場所に、入口が小さな穴で、大人ひとりがくぐり込めるギリギリの鍾乳洞がある。中に入ってみると思った以上に広く、鍾乳石が盗られた跡がある。体型に自信がなく狭所恐怖症気味の人は、中へ入らずに穴の入口を見るだけにしたほうがよい。

車道を30分も登ると向倉へ着く。向倉は江戸時代には142人もの人が住んでいたと記録にあるが、昭和44年に廃村となり、今では廃屋だけである。そんな廃村にも神社だけは残っており、道のどん詰りから右手へ廻り込む斜面を切る小道を行くと、井戸神社が祀られている。

井戸神社のカツラ大木

井戸神社は多賀神社の末社といわれ、天照大神の両親である伊邪那岐命、伊邪那美命を祭神としている。その古ぼけた社殿の前には、幹周11・6㍍、高さ39㍍、樹齢四百年と推定されるカツラの大木が立っていて、一見に値する。

道の奥から尾根に取り付く。尾根には溝状の道が刻まれていたが、歩く人がいなくなったのか荒れている。この道は「登り尾」と呼ばれた道で、古くは向倉から杉集落へ生活物資を搬入した道だといわれている。始めは杉林の尾根で、大石の上にたくましく生きるケヤキの大木を見ると、あたりは雑木林へ変わる。しばし道跡に沿って二次林の斜面を登ると平坦な尾根にのる。

芹川谷南尾根付近図

尾根の中央に道が通り、両側は並木状に木が立ち並び、若葉のトンネルを歩いているようで左手の木の間からは、間近に霊仙山や南霊岳を見ることができた。

尾根の傾斜が増すと、道は山腹を捲いて西へと向かってゆく。このまま進めば向倉越へ行くが、次の尾根にのった所から道と離れて尾根を東へ登る。ジグザグに斜面を登ると、向山の北にある尾根の付け根に太い杉の大木が一本立っていて、根元には小さな地蔵尊が祀られている。杉峠と呼ばれている古い峠である。

尾根を東へと進む。この杉峠から標高点597㍍へとのびる尾根を「芹川谷南尾根」と呼んでいる。以前、腰まであるようなササをかき分けて歩いた記憶があるが、今ではササが消え、美しい二次林が広がっている。

杉峠の大杉（根元に地蔵堂）

杉峠から5分も歩くと標高点627㍍のピーク。カルスト台地を示すゴツゴツした岩があちらこちらに露出している。そこを東へくだり、北側の尾根を歩いて少し登ると、枯れかけたササが残っている広い台地に出る。展望のない広い台地で、方向を見失うとどこへ行くかわからない平坦地だった。

標高点628㍍での昼食風景

東へ進むと、その北はササのないゆるい斜面で、二次林の疎林が広がっている。ウワズミザクラの木があり、この斜面の下にはヤブデマリ・タニウツギもあり、そのそばには池がある。春にここを訪れると、モリアオガエルのオタマジャクシがウジャウジャうごめいている。

池から北へ登ったピークが標高点657㍍。枯れたササをかき分け東へ向かうと、細い尾根をくだる。その鞍部が平成12年に岩野さんの例会で中村集落から登ってきた地点だ。

きょうは、この池から西へゆるく登り返すと疎林の平坦なピークで、石垣に囲まれたような広場がある。昼食に最適の場所だ。

せっかく来たのだから、東にある標高点597㍍まで往復しみてみよう。標高差80㍍をゆるくくだり、30㍍を登ると標高点597㍍。ゴツゴツした岩の平坦なピークで、ここまで人が来た様子は全くない。山頂に広場はなく、そのピークから尾根東端の岩まで行くと尾根は急なくだりとなり、尾根の先端まで来たことがわかる。

引き返し、東側のゆるい斜面を登ると、下りには気づかなかったが、石垣が何段にも組まれていて、鍋尻山の岳の畑と同じで、古い時代にここまで人が通って畑を耕作していたことがうかがえた。

杉峠へ尾根を引き返す。平坦な台地を横切り、往路で通らなかった鞍部へくだると、西の斜面には苔むした岩が散在する庭園を思わすカエデの林。秋には情緒ある林に変わるかもしれない。ここから標高点627㍍をかすめると杉峠へ戻る。この峠から南へ急斜面を登ると向山へ登り着く。この山域ではCa670㍍と目立って高いピークだが、山頂に桧が植えられていて展望は全くなかった。

向山から西南へのびる尾根をくだる。尾根が南へ振る所から、西へのびる支尾根にのらなくてはならないが、わかりにくいので注意が必要だ。分岐がわからない場合には、そのまま尾根をくだり、杉集落へ下りてから向倉への古い峠道を登ればよい。

道は途中で消えてしまうが、そのまま右の谷を登ると鞍部に着く。ここが向倉越である。鞍部の北面には斜面を東へ横切って「登り尾」へ繋がる道跡が残っている。向倉越から西の小ピークを越えるとすぐの鞍部が桃原越。杉から桃原へ越える峠で、先ほどの谷の左俣をつめればここに至る。

この峠からアミダ峰まではわずかな距離で、展望は全くないピークだが、時間があればアミダ峰まで行くのもよい。桃原越と桃原を結ぶ道は、アミダ峰から北へのびる尾根をくだることからか、「仏ヶ尾」と呼ばれていたと聞いている。道が尾根を離れると斜面をジグザグに進み、斜面を横切ると桃原の車道に下りた。

桃原は江戸時代元禄八年には、366人もの人が住んでいたそうだが、今では数戸だけ。昔は茶・薪・炭などで生計を立てていたそうだが、今はどこかへ働きにいかなければ生活できないと聞く。

桃原から車道をくだる。道は消えているが地形図を読める人は、地形図の破線道をくだれば、かなり時間が節約できる。芹川林道へくだれば、車を置いた広場まではすぐ。

（平成18年6月4日歩く）

《コースタイム》

向倉入口広場（40分）向倉（1時間）杉峠（5分）標高点627㍍（25分）池（10分）標高点657㍍（20分）Ca630㍍（10分）標高点597㍍（15分）Ca630㍍（1時間15分）杉峠（10分）向山（30分）桃原越（30分）桃原（1時間10分）広場

＜地形図＞

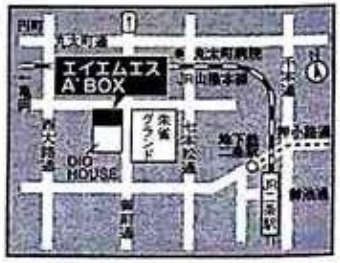
2万5千＝高宮

第9回　京都山の会写真展　―山 その偉大な自然の中で―

日時　平成22年10月15日(金)～20日(水)
9時30分～18時00分

会場　エイエムエス A'BOX ギャラリーII
京都市中京区御前通御池上ル
朱雀グランド前、駐車場50台有
(JR・地下鉄二条駅 西へ徒歩10分)
☎075-841-1470

主催　京都山の会写真クラブ
☎075-888-0363(事務局)



コースガイド③

浜松・豊橋

江戸時代の米相場中継所
旗振り山（中山峠）

一般コース（★★　）

柴田　昭彦

平成22年4月11日、インターネット検索によって、静岡県浜松市北区三ヶ日町に、「旗振り山」が存在することがわかった（思うがままに―山歩き／バイクツーリング、4月6日の「旗振り山、平尾山」の記事）。

今までに確認できた最も東にある米相場の旗振り山は、愛知県岡崎市鵜（とうの）巣（す）町の北原（きたはら）山（標高309㍍）であった。すぐに、浜松市三ヶ日地域自治センターの地域振興課に問合せの手紙を出すと共に、現地を訪れて、情報が本当かどうかを確かめてみることにした。

その旗振り山の報告者は、浜松市北区の平山登山口から登っているが、中津川哲司・小谷哲治『三河・遠州の超スーパー低山ハイキング』（風媒社、2002年）を参考に、アクセスしやすい豊橋側から登ることにする。

平成22年4月18日、新幹線で豊橋駅に到着した。改札を出て右へ長い通路を抜けて、豊鉄バス乗り場へ向かう。左側にバスの案内板がある。左へ階段を降りると、左側に5番乗り場がある。75番系統の豊橋和田辻線・四ッ谷行きに乗る。午前10時05分発に乗ったが、11時40分発でも、帰りのバス（西郷小学校前、16時58分発）には十分間に合うだろう。

40分程乗車して、西郷小学校前バス停で降りる（590円。帰りは同じバス停の反対側でバスを待つ）。北へ歩き、信号を過ぎると左が小学校で、次は右の道に入ると中山自然歩道である。少し歩くと左手が日吉神社で、大きな鳥居が見えた。きょうは祭りのようだ。

豊川用水の大門橋を過ぎると、中山峠付近が見えるようになる。左右は一面、次郎柿の果樹園が広がり、独特の景観が美しい。

道が左に曲がり、左側に「中山自然歩道　中山峠まで約1・6k40分」という道標が出てきてすぐの分岐で、右側の大沢林道に入る。すぐに分岐があり、左の道を上がる。左側に墓地があり、そのあたりで舗装は終わり、砂利道に変わる。

頭上に送電線が見えると同時に、一般車両通行止のゲートが現れる。「台風18号の倒木被害により、中山峠～坊ヶ峰区間通行不可」という豊橋市商業観光課の注意書きがある。

平成21年10月8日の台風で倒木被害が大きく、歩道脇にある国有林の木を伐採するため、国との調整に時間がかかり、未開通になっているようだ。現地では迂回路がつくられ、時間はかかるが、通行できるようになっている。

ゲートから先に進む。次の分岐で大沢林道は右に続くが、左の大沢支線林道に入る。道は左にカーブし、次の分岐で右の大沢第2支線林道を上がる。

やがて、広場に出て、林道は終点となる。谷の左側に続く山道に入る。

ほどなく道は右へ向かい、巨岩の見える谷を横切り、右上にトラバースする。道幅が古道らしさを示し、中山峠から三ヶ日に至る遠州街道の名残を感じることができる。

次の道標で左に折り返す。途中の狭い急登の道は古道らしさが消える。ここは、古道が右に迂回していたのを無理に近道した新道だからであろう。上で再び、歩きやすい道に出合い、左へ向かうと、中山峠に着く。

中山峠は、中山町の集落から東に突き上げる谷の直線と県境との交点にあり、標高は355㍍程である（道標には、350Mとある）。2万5千分1地形図「豊橋」に記載された「中山峠」は、三つの山道の交点の少し北西の稜部を示すつもりで記入したようだが、現地の道標が示す中山峠とは離れている。

中山峠では展望がないので、左の道標にある「平尾山」を目指して、宇利峠方面に向かう。400㍍先というが、600㍍先である。ほどなく、分岐がある。右の境界見出標（東京営林局）のほうのゆるやかな道が旧街道であるが、帰りに利用するので、ここでは、左側の味気ない急坂を登る。インターネット情報では、鉄塔の少し先で、富士山なども見えるという（Wanderl平尾山）。

道標分岐に出て、左へ登って行く。倒木もあるが迂回する。ほどなく鉄塔に出た。北と南西に展望がある。鉄塔の少し先に石灰岩があり、歩きにくい。その手前で赤テープに従い、左側を迂回すると歩きやすい道がある。

途中で、急な下りになり、再び登ると平尾山（標高464㍍）に着く。ここは「豊橋市の最高峰」であるが、展望はほとんどなく、赤ペンキの標石と境界見出標があるだけである。引き返して鉄塔で憩うのがよいだろう。

道標分岐まで戻り、まっすぐに進んで旧中山峠に向かう。ほどなく小ピークに出る。尾根が左右に分かれている。左側のピンクのリボンに誘われると三ヶ日町平山のほうにくだることになる。ここでは、右手に見える尾根を南方向にたどる。道はあやふやだが、やがて、切り通しの道に出合う。切り通しに出る直前で右側に迂回するとよい。ここが、昔の人々が往来した旧中山峠である。標高は375㍍程で、旧街道の最高地点である。こういう深く掘れた道は歴史を刻んだ古道である。

峠の西側（右）の鳥獣保護区看板から、細い踏跡をたどり、尾根の右側をからむように進むと、やがて、小広い山頂に出る。四等三角点「中山峠」の

旗振り山の山頂プレート

標石がある。西側は密生のために遮られているが、東側は樹間から浜松市北区三ヶ日町側の展望がある。

インターネット情報では、ここが旗振り山だというが、それらしい表示が見つからない。ふと、西側あたりの木に目をこらすと、小さな木札が針金で吊るされていることがわかった。

木札には「392・26m　4等　中山峠（旗振り山）2002・6・9」とあった。山頂は小広い平地になっていて、旗振り通信には、ふさわしい立地である。

インターネット情報が裏付けできたことで満足して元の道を引き返し、旧中山峠に戻る。峠から東への道は消えているが、西への道は昔のまま残されているので、帰り道は西（左）へたどることにする。古道は明瞭だが、最近の利用は途絶えているので生え込みがあり、よけながら進む。距離は短いので、ほどなく、境界見出標（東京営林局）の地点に出る。

道標のある中山峠に戻る。残り時間を計算しておいて、豊橋自然歩道本線の本坂峠方面徒歩コースを一部歩いて往復してくるのもよいだろう。大沢国有林にあるモミは自然植生で太く、「とよはしの巨木・名木100選」に選ばれ、峠から20㍍程南にあるものは、幹周285㌢、高さ21・5㍍、推定樹齢百年以上である。

中山峠から中山自然歩道へくだる。林道を経て車道に出て、左側、直線の農道へ入り、突き当たりで右に進むと、村社大蔵神社がある。この神社には豊橋市指定有形文化財の雨乞面四面が収蔵されており、もとは室町頃に田楽などの神事に使用されたという。境内のイチイガシは神社のシンボルで幹周272㌢、高さ24・2㍍、推定樹齢は三百年以上という。

神社の横に菩提寺があり、山側に豊橋市で最も大きいシラカシがあり、幹周353㌢、高さ18・6㍍、推定樹齢三百年以上である。隣にはタブノキの大木がある。

菩提寺を出発して、豊川用水に架かる鷹打橋を過ぎた左手の池が鷹打池で、真正面の山が鷹打砦址（城山）である。そのまま進み、車道に出て、次の分岐で左をとり、辻をそのまま過ぎて、次の分岐で左をとって車道に出て右折すれば、そこが、西郷小学校前バス停である。道路の東側、民家の前で待つ。

豊橋駅前行きのバスは、夕方には16時58分の一本だけなので、オプションコースや休憩などで時間調整するとよいだろう。バスは乗車40分後に豊橋駅前に到着した。

平成22年4月23日、三ヶ日地域自治センター（三ヶ日公民館）の堀尾氏から、筆者の問合せに対する、4月21日付の返信が届いた。

堀尾氏によると、郷土資料を調べた結果、平山小学校PTA文化部／編『郷土史ひなぶ』（平山小学校区地域学習推進協議会、1982年2月）の「第十章　民話・伝説・地名の由来」に次のような記載があることがわかったというのであった（196ページ）。

「旗ふり山　中山峠の少し南に旗ふり山という山がある。徳川時代に四日市でたったお米の相場を江戸に知らせた山だそうである。旗を振って気賀側の方へだんだんと知らせたそうである。そのような山はだいたい三里から四里の間に一つぐらいあったそうである。おばあさんの話によると頂上には平らなところがあるとのことである。」

『郷土史ひなぶ』は、学校の地域学習の一環で、地元の由来等を古老より聞き取ったのをまとめたものである。

旗振り山は、浜松市北区三ヶ日町本坂に所在するが、地形的には三ヶ日町平山に近いので、堀尾氏が平山地区の老人クラブで聞き取りをしたところ、次のとおりであった。

「昔からの言い伝えで、米相場を旗で振って知らせたから『旗ふり山』と云われるようになった。いつの時代なのかはっきりとした資料もないし、詳しいことは知らない。」

また、老人クラブの中の話として、「新聞紙大の旗を振っても三ヶ日の街中には見えない。もし伝えるなら畳一畳ぐらいの大きさでないと無理だろう。平山で旗を振った人がいたとは伝わっていない。中山峠は昔、豊川稲荷（愛知県豊川市）に詣でる道だったので人の往来は結構あった。」

以上のことから、中山峠近くの旗振り山は、間違いなく、江戸時代に米相場を中継した場所であることがわかったのであった。30年程前の聞き取り調査が本にまとめられていなければ、徳川時代、気賀方面ということも忘れ去られるところであった。

豊橋市の嵩山（すやま）の山上に、明治時代の旗振り山があったというが、その具体的な場所は忘れられて久しい（本誌91号）。それに対して、江戸時代の旗振り山である北原山や三ヶ日の旗振り山が地元で伝承されていることは驚くべきことである。

樋口清之『こめと日本人』（家の光協会、1978年）には、文化文政年間（1804～30年）に三井家がつくった旗振り通信ルートが紹介されている。それは、大坂―奈良―伊賀―白子―知多―東海道―三島（飛脚）小田原―江戸である。

江戸ルートの大部分は謎のままであるが、北原山と旗振り山（中山峠）がその中継地点であった可能性は高い。旗振り山（中山峠）から北原山は見えないので、知られざる中継所があったことだろう。気賀の中継所を含めて、今後、解明していきたいと思う。

（平成22年4月18日歩く）

《コースタイム》

西郷小学校前バス停（30分）大沢林道の入口（50分）中山峠（30分）平尾山（40分）旗振り山（15分）中山峠（1時間30分）西郷小学校前バス停

＜地形図＞2万5千＝豊橋・三ヶ日

コースガイド㊹

本坂道の衛星峰を訪ねて大比叡へ
花摘ノ峰・天梯ノ峰・神蔵山

比叡

一般コース（★★）

松尾　一郎

JR比叡山坂本駅で下車。国道161号西大津バイパスを渡って県道を西進し、京阪坂本駅を左に見る。二ノ鳥居が現れ、道幅が広くなり日吉大社前に着く。常夜燈が両側に立つ幅の広い石段道が比叡山本坂道の登り口だ。

比叡山高校の裏手を登って石段が終わると、大宮谷林道とX状に交差し、本坂道はしばらく舗装路となって南善坊の麓に着く。南善坊境内の垢坂の長い五十余段の石段道（注1）を登って行き、上部で迂回してきた本坂道に合流する。しばらくは急坂道をゆっくりと登ってゆくと鉄塔に出合う。

ここからは坂もゆるくなり、右手木の間越しに琵琶湖が見え隠れし、しばらくで左に花摘堂跡への登り口（道標あり）に着く。急な登りがしばらく続き、やや右に廻り込むと段差の狭い石段が現れ、登り切った所が花摘ノ峰（418㍍）だ。

花摘ノ峰（花摘堂跡の石碑）

花摘ノ峰は、はるばると訪ねてきた生母妙徳尼に会うため、最澄がくだってきた峰で、かつてはお堂があったというが、今は石碑が建つのみである。峰よりしばらく水平道を行き、再び本坂道に出合う。ルートは明確だが雨で抉られた溝道を登って行くと、右よ

天梯ノ峰の祠（最高峰は杉巨木の奥）

本坂道・衛星峰付近図

り悲田谷道（道標あり）が登ってくる。ここから道も広くなり、お堂のある亀塔に着く。

天梯ノ峰（614㍍）へはお堂の裏から右へ踏跡をたどる。道の真ん中にある小さな地蔵の祭壇を通り、左斜面の小道を反転気味に登ると、比叡三大魔所の天梯権現の祠に着く。最高峰は

巨木に囲まれる慈覚大師廟

その奥のピークだ。杉・ツガ・ブナなどの巨木がそびえ立つ。

お堂（亀塔）まで戻り、案内石標が立つ幅広い下り道（北方向）が慈覚大師廟へのルートだ。天梯ノ峰の西斜面をトラバース気味に手入れの行き届いた道を快適にゆく。途中で左右に墓地が現れ、ゆるくくだって行くと慈覚大師（円仁）廟の前に着く。

神蔵山へは廟の手前を右脇にくだってゆく踏跡に入る。先ほどまでの参道とはうって変わった悪路だが、ルートはしっかりしており、やがて廟からの尾根と前山との鞍部に着く。明るい黄緑色のササの前山と奥の杉植林の濃緑色の神蔵山が同心円状に見通せ、さらに向こうには、三石岳（675・7㍍）が遠望できる。鞍部から鹿除けネットに覆われた前山の左側をトラバースし、前山と神蔵山との鞍部（注2）に出て、左（北）へ杉植林のなかを登って行くと、神蔵山（約555㍍）山頂に登り着く。樹木に包まれ展望はない。

元のお堂まで戻り、簡易舗装された

急坂の船坂を登れば、東塔の「一隅を照らす会館」前に着く。大比叡へは巳講坂を登って阿弥陀堂前に出て、左へ朱赤の回廊をくぐり、左の木の階段を登れば鎮魂碑の前に出る。さらに舗装階段を登ると比叡山頂への山道（道標あり）に入る。つづら折れの山道を登って行くと、左より坂本ケーブルか

神蔵山山頂

紀貫之墓

らの道（道標なし／石標あり）に出合い、右に曲がる。坂道を登って行くとNTT中継塔を左にかすめ、工事用車道を横切りテレビ中継塔二基と巨大な用水槽が現る。その奥の小高い丘が大比叡（848・3㍍・一等三角点）である。

下山は山道をいったん西へくだり、駐車場からの工事用車道を右にとって、NTT中継塔前まで戻り、今来た山道をくだって行くと先ほどの分岐（石標あり）に着く。ここはまっすぐにくだり、坂がゆるくなると智証大師（円珍）廟の前に着く。ここからは急坂となってドライブウェイまで一気にくだる。僧侶の墓地を左に見やり、ドライブウェイ脇に下り、車道を二本（二つ目の車道は信号あり）渡り、西尊院前（無動寺バス停）に着く。

ここよりつづら折れの木枠の地道を坂本ケーブル延暦寺駅前の広場に下り着く。紀貫之の墓へはケーブル駅南横（道標あり）から蟻ヶ滝道をくだる。トイレの横を通り抜け、ケーブル線路右沿いの急坂をくだって行くと、やがてケーブル袈裟立山駅を左にかすめる。ゆるい坂を上がって右にドイツ人僧侶墓への道（注3）を見送り、尾根に出ると袈裟立山展望台に着く。尾根道を南下し、すぐに左へ蟻ヶ滝道（道標あり）を分け、まっすぐ進むと袈裟立山山頂（約585㍍）の紀貫之の墓前に着く。

墓からいったん尾根道を戻り、蟻ヶ滝道（注4）をくだる。しばらく袈裟立山山腹をトラバースして行くと、やがて尾根道となり、右へ無動寺谷への連絡道（道標あり）を分岐する。連絡道（本来の紀貫之への古道）の状況は良いとはいえないが、くだって行けば「紀貫之卿墳墓従是西北九町」の大きな石標の立つ無動寺坂に下り着く。

無動寺坂のゆるい坂道を行き、地蔵が鎮座する所より急な不動坂となり、木段道から石段道となり、堰堤のある沢の袂に下り着く。林道をゆっくりくだって行けば、舗装路となって庄墓（無動寺坂登り口）に下り着く。

県道を渡って琵琶湖病院の裏を通り抜け、左（北）に曲がると次の突き当たりは右（東）に曲がる。簡易信号のある四差路（庄ノ辻）をまっすぐ渡ると、京阪松ノ馬場駅に着く。

JR湖西線へは先ほどの四差路を左（北）に曲がると、二ノ鳥居のある県道に着く。さらに右（東）へ進み、西大津バイパスをくぐれば比叡山坂本駅だ。

（平成22年4月18日・6月5日歩く）

《コースタイム》

JR比叡山坂本駅（20分）日吉（本坂登り口）（7分）大宮谷林道交差（5分）南善坊下（5分）南善坊上（18分）花摘分岐（6分）花摘ノ峰（4分）本坂道合流（27分）悲田谷道分岐（10分）亀塔（6分）天梯ノ峰（5分）亀塔（10分）慈覚大師廟（3分）前山南鞍部（3分）前山北鞍部（5分）神蔵山（4分）前山北鞍部（7分）慈覚大師廟（12分）亀塔（13分）東塔（30分）大比叡（12分）智証大師廟（13分）西尊院（5分）坂本ケーブル延暦寺駅（15分）袈裟立山展望台（7分）紀貫之墓（5分）蟻ヶ滝道下り口（17分）連絡道分岐（6分）無動寺坂合流（20分）堰堤（15分）庄墓（8分）庄ノ辻（3分）京阪松ノ馬場駅

＜地形図＞

2万5千＝京都東北部（注5）

（注1）石段道中程の南善坊では犬を数匹飼っており、通行する人に必ず吠えてくる。鎖で繋いでおり、噛まれることはないだろうが、犬の嫌いな人は回道を迂回する。

（注2）鞍部を右に登れば前山の手前まで行ける（往復4分）が、藪除けネットがあるので、山頂には行けない。

（注3）戦時中から戦後にかけて比叡山で修行し、権現僧正にまでなったドイツ人僧侶（BRUNO－PETZOLD／1873～1949）の墓が、ツガに囲まれた小高い丘に眠っている。往復6分。

（注4）紀貫之墓から直接無動寺へ下りられる。台風の影響で一部道が崩落しており、無動寺へ確認すること。

＊コース概況：紀貫之墓から南へ急坂をくだると無動寺坂道の遠見岩に下り着く。前方に三角錐状の壺坂山が望見できる。無動寺坂を左へとり、袈裟立山山腹を捲きながらくだると、やがて左上方からくだってくる蟻ヶ滝道からの連絡道が合流する。＜コースタイム＞紀貫之墓（15分）無動寺坂道（遠見岩）（16分）蟻ヶ滝連絡道出合

（注5）地形図の無動寺坂道は、蟻ヶ滝道と混同表示されており、使用時には注意すること。京都市発行の「京都一周トレイル／東山・北山」の表示が正しいので参考となる。

せせらぎ

山に関する最新の情報を随時お寄せください。
1行15字詰め、30行程度です。原稿用紙下部に、ご自分の住所・氏名をお書きください。都合により掲載できないことがあります。

題字　故 小林玻璃三

新緑の山に身を置くだけで、有頂天になってしまう。地元松阪の観音岳（605㍍）に数ある登路のひとつを、1ヶ月の間に四度歩いてみた。すると、歩く度に移り変わっていく草木のさまがおもしろかった。

イチヤクソウは、一度目にすでに蕾が付いていたが、開花までに1ヶ月以上かかることがわかった。

チャルメルソウは、鈴鹿山系では斑染みだったが、近所の山では初めて見た。触手をのばした海洋生物を思わせる花だ。

アマドコロは、小さくて可憐。本当に甘いのか確かめてみたいが、我慢、我慢。

ツクバネウツギは、花の後、たしかに小さな道羽根の姿になっていた。シライトソウ・ツルリンドウ・ツリガネニンジン・リュウノウギクほか、多くの成長も観察できた。

翅を広げて地に留まったイシガケチョウ、樹上ではなく丈低いササの斜面を駆け抜けるリスの姿も見られた。リスも陽春を謳歌しているかのようだった。

（松阪市　藤木伸人）

5月上旬、嵐山（382㍍）へ登った。観光地だが、山は知らなかったので登ってみた。

阪急上荘駅から樹齢五百年の楠の大木、かぐや竹御殿を眺めて谷沿いを進み、松尾林道に到着した。京都一周西山トレイルの道標51があり、土止め階段となった。急登だが竹製手摺があり、トレイルの道標が頻繁にあり心強い。ハイカーも少なく話ができて楽しい。しかし、水平道はあっても激しい急登・急下降の繰り返しである。ジョギングする若者に目を見張らされた。

到着した松尾山展望台で昼食。すぐのT字路で道標33から西山トレイルを離れ、嵐山へのコースに入った。

地元の人に指摘されたY分岐から、見逃しそうな細い上り道を進み、小広場（嵐山城跡）を過ぎ、待望の嵐山頂上へ到着した。樹木に下がった山名板しか見当たらず、三角点はない。樹木に妨げられて展望は望めず、早々に来た道を戻った。

予想外の収穫は嵐山城跡にあった。実にすばらしい展望があった。真下に大堰川（保津川）が見え、渡月橋が架かっている。その向こうにこんもりした緑の丘も眺められる。以前歩いた双ヶ岡だろう。遠くには比叡山が見え、ベンチに腰掛けてこれらを展望した。

来た道を戻って西山トレイルに帰着し、道標33から足をのばして道標34の松尾山（276㍍）へ。三角点が確認できた。

ここで登山を終え、西山トレイル通りに下山して道標26を過ぎ、阪急嵐山駅へ出た。

（枚方市　東谷　宏）

琵琶湖西岸の和邇から和邇川沿いを西へのびる県道が国道367号に交わり、三叉路となる所に「途中」の町名がある。バスの終点であるのに「途中」の名前が珍しがられ、テレビ放送されたこともあったそうだ。なぜ「途中」なのか不思議であった。

国道367号は古くから若狭～京都間の交易路として利用され、鯖街道として知られている。

県道は「途中」付近で北西に向きを変え、「途中トンネル」が出来る前の古い地図では鯖街道へ斜めに突き当たる地形になっている。

地名は地形を表すことが多いから、おそらく「途中」も地形と関係があるのだろう。「途中」の「中」は、「あたり」と読むことができる。これは県道が鯖街道に突き当たっていることを言っている。しかしながら「途」は、カタカナの「ト」の字であろう。実際に県道は鯖街道に「ト」の字の形で突き当たっている。これらを考えると、「途中」とは、道が直角ではなく斜めに「ト」の字の形で突き当たった三叉路の地形を表すと考えられる。

私の想像だが、昔は「途中」の土地では、この三叉路を「とあたり」と呼び、「ト当り」と書いたのではなかろうか。歳月を経て、人々は「ト当り」に「ト中」「途中」の字を当てたのだろう。このように理解して、私は「途中」の地名に自分なりに納得ができた。

全国のどこかに、トの字当たりの交叉点を「とあたり」「とちゅう」と呼ぶ場所があれば、私の推論の裏付けとなるのだが。

（豊中市　丸山敏之）

今まで鏡山山系についていろいろ書いてきたが、ほかにも気になるものがある。

希望ヶ丘文化公園の東口ゲートの手前で、送電線の巡視路を右に下りて沢の横を左に行き、右に曲がると左に小高い丘がある。この丘から左に尾根を行き、右に廻り込んだ丘の斜面に、焼けた地層と土砂に埋まった檜皮葺の庇のような遺跡が突き出ている。童王町や知人にも話しているが、まだ何だかわからない。興味のある方は案内します。

ここの東側に沢があり山道がある。左にゆるく登ると丁字道になり、左から右に登るとモトクロス山となる。脆い花崗岩の瀧水斜面が荒れハゲ山になっていて異様な風景が楽しめる。

T字道を右に行くと沢の源流ですばらしい清流と湿原が続く。この沢の道を下りると左に滝があり、滝不動明王の新しい鳥居がある。この先で左に分かれる道があるが、この道の右の檜の急斜面は岩がゴロゴロあってモトクロスのハードな練習ができるとのことだ。

この山塊は、いろいろ変った野草や植物がある。

（近江八幡市　岩野　明）

5月1日、笈ヶ岳に8回目だが、9人で登った。

2日、300名山の奥医王山に行った。

3日、摂池岳に観察会で行った。ササが枯れていて丸山は近かった。

5日、土蔵岳の下見。8日は天狗山、9日は新ハイ例会でオオダワまで行った。

15日、上越市の春日山城跡へ。高田城跡へのフェリーに乗り遅れたため！　そして佐渡の一等点鵜巣へ行った。

16日、ドンデン山から金北山縦走。ここも花見だった。

17日、金剛山。見事なお花見だった。

22日、高山の見盆山（御墓山）に行った。車から林道をつめたら道はなくなり、尾根から山頂へ。帰りは南に道をくだって登山口へ出た。

29日、大熊山へ。雪渓と尾根のやぶで5時間30分かかった。

30日、大菊山は入れず、中山と尖山に行った。

6月5日、唐塩山に行った。御料局の官境界と三角点、岩の十字境界もあった。

6日、排殿山と三国山へ。

7日、蟻相子嶺、岭には行けなかった。道が不明瞭！

8日、新ハイ例会で伊吹の古道歩き。花が多かった。

12日、井出小路山に行くも時間が遅く、稜線までで撤退した。

13日、新ハイ例会で、寺田小屋山へ。

17日、19・20日が雨模様だから先に貝月山と鳥倉山に行った。

20日、蛭岐阜百山のハシゴ。岳山・御前ヶ岳・雨乞山の三山を廻った。

（藤津市　山田明男）

山行計画
（9・10月）

新ハイキングクラブ関西

山行計画には、「会員に限る」と特記してあるほかは会員外の方でも参加できます。一人ずつ（夫婦は一枚）往復ハガキに記入例によって必ず山行日の7日前までに到着するよう、申込み先を確認のうえ申し込んでください。

電話・FAXでの申し込みはお断りします。

「実費費用」のほかに、本部の「山行運営費」として400円をお支払いください。申し込み後、参加できなくなった場合はすぐ申込み先に連絡してください。体調の悪い方幼児と飛び入りはお断りします。

なお、例会の参加者全員に傷害保険が掛けられています。出発点呼の際、係に保険料日額50円と救援対策費日額50円合計100円（夜行8泊の場合は2日になり200円）を支出していただきます。

傷害保険特約内容は次の通りです。（損害保険ジャパンと契約）

	金額	日額
・死亡・後遺障害保険	1000万円	
・入院保険金		5000円
・通院保険金		3000円

保険の対象は集合時から解散時まで。事故があった場合は解散までに係に申し出てください。この保険に該当しないものは次の通りです。①ピッケル・6本爪以上のアイゼン・ザイル・ハンマー・ワカンを持参することを明記した山行 ②スキー使用の山行 ③沢・岩・氷雪登はんを目的とした山行 ④宿泊場所内の事故 ⑤病死の場合（詳細は本部まで）

（記入例）

（往復ハガキを使用）

> 例会申込み書
>
> 山行名（正確に記入すること）
>
> 期日
>
> 住所〒
>
> 氏名
>
> 会員番号
>
> （会員でない方は会員外と記入）
>
> 血液型
>
> 電話番号・FAX番号
>
> 生年月日
>
> 緊急時の連絡先　TEL
>
> （山行中の連絡先を記入）

返信ハガキの宛名欄には、ご自分の住所・氏名に「様」と必ず記入しておいてください。

9月	地域	対象の山	定員	リーダー	サブリーダー
4(土)	奥播磨	三ノ丸～氷ノ山	24	須磨岡	
4(土)	湖北	伊吹上平寺城跡		村田	
5(日)	鈴鹿	サンヤリ～天狗堂	*	岩野	
8(水)	京都北山	比叡山～大原		仲谷	
9(水)	台高	新道峠～修験葉山	25	西上	
11(土)	伊勢	堀坂山	6	中	
12(日)	東濃	ロクロ天井	10	山田	
12(日)	京都北山	正座峰～白倉岳	25	村田	
15(水)	京都北山	山幸橋から高雄		仲谷	
17(金)夜～20(祝)	北アルプス	立山三山～別山～大日岳	22	村田	
18(土)	湖西	黒河峠～愛発越	25	狩野	
19(日)	鈴鹿	鎧石の丘～日本コバ	*	岩野	
19(日)	奥高野	城ヶ森山～龍神岳	25	西上	
23(祝)	湖北	柳ヶ瀬山～椿井嶽		高島	
23(祝)	湖北	河内山～栃ノ木峠	40	村田	
23(祝)	大峰	不動池（点名）	25	西上	
25(土)	湖西	武奈ヶ嶽～水坂峠	25	狩野	
27(月)	湖北	伊吹山古道	10	山田	
28(火)	北摂	最勝ヶ峰～笑面		仲谷	
30(水)	若狭	ろくろ山～三十三間山	22	寺井	
30(水)	大峰	栃尾山～天和山	25	西上	

＊＝マイカー山行

山行計画の実施と申し込みについて

① 山行例会は、前もって保険を掛け、登山届を提出しますので、必ず実施日の7日前までに、「往復はがき」で申し込んでください。人数によっては事前にバスやタクシーをチャーターする必要があります。また、山ではいかなる事態が発生するかもしれません。緊急時の連絡先、および生年月日など必ずご記入ください。

② 返信の山行案内は、実施日の10日前頃にします。直前にならないと参加人数がはっきりせず、交通機関への手配等、費用もはっきりしないからです。また、早くから返信すると、コースの状況等、何か変更になった場合に再連絡するのが大変だからです。早くから申し込まれた方はそれまでお待ちください。

③ 定員制の計画は先着順に受け付けます。すでに定員に達し、キャンセル待ちの場合はその旨をすぐに返信します。お断りが無い場合は、定員枠に入っているものと判断ください。

④ 山行のグレードは、次の5ランクに決めています。

（初級向き）初心者でも安全に歩けるコース（3～4時間コース）

（一般向き）日頃山歩きしておられる方なら誰でも歩ける標準コース。あまり危険のない山（5時間コース）

（中級向き）かなり経験を要するコース。危険な所はないが距離が長いコース（6～7時間コース）

（やや健脚向き）距離は中級だが危険な所があり、登り・下りが長く続くコース（6～7時間コース）

（健脚向き）距離が長く、つらい急な登り、危険な岩場、谷の渡渉、やぶ漕ぎの連続など、ハードなコース（7時間以上）

⑤ 雨天中止・決行の判断は、前夜（17時発表）に当地の気象情報を確認し、返信案内の判断基準の降水確率を見て各自で判断ください（係から連絡はしません）。降雨山行の嫌いな方は、雨天・小雨決行の計画には申し込まれないようにお願いします。

10月	地域	対象の山	定員	リーダー	サブリーダー
2(土)	播磨	七種山	6	中	
2(土)	湖南	笹間ヶ岳～釜山		村田	
3(日)	鈴鹿	イブネ～ダイジョウ	*	岩野	
6(水)	京都北山	山幸橋～戸寺		仲谷	
9(土)	朽木	水坂峠～横谷峠	25	狩野	
9(土)～11(祝)	上越	火打山～妙高山	22	村田	
10(日)	奥美濃	烏帽子山	10	山田	
10(日)	大峰	石仏山	25	西上	
11(祝)	湖北	伊吹山古道	10	山田	
13(水)	京都西山	清滝～西芳寺		仲谷	
14(木)	大峰	大天井ヶ岳～岩屋峰	25	西上	
16(土)	台高	迷岳	25	村田	
17(日)	鈴鹿	ヒノキ～旭山～東山	*	岩野	
17(日)	播州	明神山	18	古賀	
21(木)	台高	黒石岳～キワダズコ	25	西上	
23(土)	丹波	三岳～小金ヶ岳	6	中	
23(土)	湖北	椿井嶽～河内山		高島	
23(土)	鈴鹿	日枠山～日枠岳	*	樋垣	
24(日)	湖北	栃ノ木峠～音波山	40	村田	
26(火)	北摂	歌垣山～小和田山	40	仲谷	
28(木)	台高	大熊谷の頭	25	西上	
30(土)	湖西	滝谷山～大谷山	25	狩野	
30(土)	奥美濃	蟻帷子道	20	鷲見	
30(土)	飯南	臣司峠～局ヶ岳	25	村田	
10/17～22	台湾	南湖大山	16	狩野	
11/1～4	韓国	谷離山～伽郷山	15	村田	

＊各計画の概要は次ページ以降に紹介している。

史緊50名山を登る⑥
奥播磨・三ノ丸から氷ノ山
（一般向き）

9月4日(土)　日帰り　貸切バス
集合　JR姫路駅南口バスターミナル9時15分
行程　姫路駅（バス）殿下コース登山口―三ノ丸―氷ノ山―大段口（バス）温泉（バス）姫路駅（解散17時30分）
費用　2500円（バス・弁当・入浴代）
地図　2万5千＝戸倉峠・氷ノ山
係　◎須磨岡　輯
申込　〒671―1262　姫路市余部区上余部50の2の11　須磨岡　輯まで
＊定員24名
三ノ丸から広大な氷ノ山へ登る。小雨決行

金曜里山ハイキング31
湖北・伊吹上平寺城跡
（一般向き）

9月4日(土)　日帰り
集合　JR近江長岡駅9時45分
行程　近江長岡駅（タクシー）上平寺―伊吹神社―上平寺城跡―P839㍍―弥高寺跡―弥高―ジョイ伊吹（入浴・バス）近江長岡駅（解散16時頃）
費用　交通費各自
地図　2万5千＝関ケ原
係　◎村田智俊
申込　〒610―0121　城陽市寺田大畔10の10　村田智俊まで
伊吹山麓の上平寺城跡・弥高寺跡を訪ね、秋の花々を観察する。雨天中止

鈴鹿を歩く339
サンヤリ・天狗堂
（中級向き）

9月5日(日)　日帰り　マイカー
集合　君ヶ畑バス停広場8時30分
行程　君ヶ畑（車）御池林道―瀬川谷林道―P931㍍―サンヤリ―天狗堂―宮坂峠―君ヶ畑（解散）
費用　交通費各自
地図　昭文社＝「御在所・霊仙・伊吹」
係　◎岩野　明○後藤康幸
申込　〒610―0121　城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで
君ヶ畑の北にそびえる鋭鋒天狗堂へ瀬川谷林道から登ります。雨天中止

ゆっくり歩こう8
北山トレイル東部1
比叡山から大原
（初級向き）

9月8日(水)　日帰り
集合　京阪坂本駅前大津市観光案内所9時30分
行程　坂本駅―坂本ケーブル駅（ケーブル）延暦寺駅―釈迦堂―横高山―水井山―仰木峠―大原バス停（解散15時頃）
費用　交通費各自
地図　京都一周トレイル＝「北山東部」
係　◎仲谷礼司○沖　伸
申込　〒610―0121　城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで
5月雨天中止になったぶんです。比叡山への登りはケーブルを利用して、比叡尾根道をゆっくり歩きます。雨天中止

台高・新道峠から修験葉山
（中級向き）

9月9日(水)　日帰り　貸切バス
集合　近鉄榛原神宮前駅中央口8時05分
行程　榛原神宮前駅（バス）月出の里登山口―ワサビ峠―新道峠―三峰山―平倉峰―洞谷山―黒岩山―修験葉山―栗の木岳分岐―若宮八幡神社（バス）榛原神宮前駅（解散18時）
費用　約3000円（バス代）
地図　2万5千＝菅野・宮前
係　◎西上利和○下都正年
申込　〒610―0121　城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで
＊定員25名
昨年は蒲取峠から新道峠まで歩きました。今回は三重県側から新道峠に入り、ロングコースの縦走。一部ササやぶもあります。小雨決行

伊勢・堀坂山（はっさか）
（一般向き）

9月11日(土)　日帰り
集合　JR石山駅7時30分
行程　石山駅（車）松阪森林公園登山口―堀坂山―堀坂峠―観音岳―森林公園（車）石山駅（解散）
費用　交通費各自（車代ワリカン）
地図　2万5千＝大河内
係　◎中　照行
申込　〒610―0121　城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで
＊定員6名（禁煙者に限る）
伊勢富士といわれる堀坂山、周遊コースからの眺望は抜群。雨天中止

展望の山72
東濃・ロクロ天井
（徒歩向き）

9月12日(日)　日帰り
集合　JR勝川駅7時00分
行程　勝川駅（車）阿木川―林道―ロクロ天井―（往路）―阿木川（車）勝川駅（解散）
費用　交通費各自（車代2500円）
地図　2万5千＝中津川
係　◎山田明男
申込　〒503―0535　海津市南濃町松山624の19　山田明男まで
＊定員10名程度
焼山隣のロクロ天井へ。やぶですが道は？　雨天中止

京都北山歩き140
正座峰から白倉岳
（中級向き）

9月12日(日)　日帰り　貸切バス
集合　JR京都駅八条口7時40分
行程　京都駅（バス）南桑原―叫越―正座峰―叫越―P795㍍―烏帽子岳―烏帽子峰―白倉岳―中岳―南岳―栃生（バス）京都駅（解散18時頃）
費用　約3000円（バス代）
地図　昭文社＝「京都北山」
係　◎村田智俊
申込　〒610―0121　城陽市寺田大畔10の10　村田智俊まで
＊定員25名
正座峰から南東尾根を白倉岳へたどり、中岳の台杉を鑑賞する。雨天中止

ゆっくり歩こう9
北山トレイル西部2
山幸橋から高雄
（初級向き）

9月15日(水)　日帰り
集合　山幸橋バス停8時45分
行程　山幸橋―氷室―京見茶屋―上ノ水峠―沢ノ池―高雄（解散14時50分頃）
費用　交通費各自
地図　京都一周トレイル＝

「北山西部」
係　◎仲谷礼司○沖　伸
申込　〒610―0121
城陽市寺田大畔10の10
新ハイキング関西まで
このコースは松茸山で10月には通れないので9月に実施。距離が少し長いが、ゆっくりペースで完歩します。
雨天中止

北アルプス　立山三山から別山・大日岳
（徒歩向き）

9月17日(金)夜～20日(祝)
前夜発2泊3日　貸切バス
集合　(17日)JR京都駅八条口22時00分
行程　(17日)京都駅(夜行バス)
(18日)(バス)立山駅(ケーブル)美女平(バス)室堂―一ノ越―雄山―大汝山―富士ノ折立―真砂岳―別山―別山乗越「剱御前小屋」(泊)
(19日)小屋―新室堂乗越―大日岳―中大日岳―大日小屋―大日岳(往復)―大日小屋(泊)
(20日)小屋―(往路)―新室堂乗越―雷鳥沢―室堂(バス・ケーブル)立山駅(バス)立山温泉(入浴・バス)京都駅(解散19時頃)
費用　約35000円(バス・宿泊・入浴代等)
地図　昭文社＝「剱・立山」
係　◎村田智俊○安倉正勝
申込　〒610―0121
城陽市寺田大畔10の10
村田智俊まで
＊定員22名(会員に限る)
立山三山から別山・大日岳へと縦走し、初秋の立山連山を見ながら歩く。牛ノ首から称名滝は崩壊しており、室堂へくだる。雨天決行

週末ハイク111　高島トレイル①コース　湖西・黒河峠(くろこ)から髪(かみ)発越
（一般向き）

9月18日(土)　日帰り　貸切バス
集合　JR京都駅八条口7時40分
行程　京都駅(バス)黒河峠―猿ヶ馬場―芦原岳―電波塔―乗鞍岳―乗鞍岳北尾根―国境スキー場(バス)京都駅(解散18時頃)
費用　約3000円(バス代)
地図　昭文社＝「比良山系」2万5千＝駄口
係　◎狩野東彦
申込　〒610―0121
城陽市寺田大畔10の10
新ハイキング関西まで
＊定員25名
3月の雪道とは逆コースをとり、ブナ林を通り抜けて乗鞍岳の稜線を歩きます。
雨天中止

鈴鹿を歩く340　盤石の丘・日本コバ
（中級向き）

9月19日(日)　日帰り　マイカー
集合　国道307号道の駅「マーガレットステーション」8時00分
行程　道の駅(車)角井峠―衣掛林道入口―盤石の丘―衣掛山―湿原―日本コバ―P897(ピー)―明神岩―大萩(解散)
交通費各自
地図　昭文社＝「御在所・霊仙・伊吹」
係　◎岩野　明○後藤康幸
申込　〒610―0121
城陽市寺田大畔10の10
新ハイキング関西まで
湖東の名刹百済寺の行者達が日本コバ周辺で修行していたいにしえのルート盤石の丘・明神岩等、日本コバの北東斜面を歩きます(66号72ページ参照)。雨天中止

奥高野　城ヶ森山から龍神岳
（一般向き）

9月19日(日)　日帰り　貸切バス
集合　近鉄橿原神宮前駅中央口8時05分
行程　橿原神宮前駅(バス)林道白馬線レーダ雨量施設ゲート前登山口―P1261(ピー)峰―城ヶ森山―P1234(ピー)峰―レーダ雨量施設ゲート前(バス)護摩スカイタワー―護摩壇山―龍神岳―護摩スカイタワー(バス)橿原神宮前駅(解散17時)
費用　約3000円(バス代)
地図　2万5千＝護摩壇山
係　◎西上利和○下部正年
申込　〒610―0121
城陽市寺田大畔10の10
新ハイキング関西まで
＊定員25名
護摩壇山の西南に位置する山は、県下三番目に高い一等三角点で、平成21年3月3日に城ヶ森山と命名された。和歌山県の最高峰龍神岳にも登ります。小雨決行

余呉トレイル　湖北　柳ヶ瀬山から椿井嶺
（一般向き）

9月23日(祝)　日帰り
集合　JR木之本駅8時40分
行程　木之本駅(車)柳ヶ瀬―柳ヶ瀬山―椿井嶺―椿坂峠(車)木之本駅(解散)
費用　交通費各自
地図　2万5千＝中河内
係　◎高島伸浩
申込　〒610―0121
城陽市寺田大畔10の10
新ハイキング関西まで
湖北の静かな尾根歩き。椿坂峠に置車しますので車のご協力お願いします。＊車か電車か明記ください。雨天決行

湖北　河内山から栃ノ木峠
（一般向き）

9月23日(祝)　日帰り　貸切バス
集合　JR京都駅八条口7時40分
行程　京都駅(バス)中河内―網谷川林道終点―黄金清水―河内山―鉄塔尾根―電波塔展望台―初ヶ岳(点恋谷)―余呉高原スキー場―栃ノ木峠(バス)京都駅(解散18時)
費用　約3000円(バス代)
地図　2万5千＝中河内・板取
係　◎村田智俊
申込　〒610―0121
城陽市寺田大畔10の10
村田智俊まで
＊定員40名
中央分水嶺の県境尾根を河内山からさらに北上し、栃ノ木峠までたどる。雨天中止

大峰・不動池（点名）
（中級向き）

9月23日(祝)　日帰り　貸切バス
集合　近鉄橿原神宮前駅中央口8時05分
行程　橿原神宮前駅(バス)奥吉野発電所―尾根出合―不動池―尾根出合―迫辻―P1192(ピー)峰―林道栗平線入口―奥吉野発電所(バス)橿原神宮前駅(解散17時30分)
費用　約3000円(バス代)
地図　2万5千＝辻堂
係　◎西上利和○下部正年
申込　〒610―0121
城陽市寺田大畔10の10
新ハイキング関西まで
＊定員25名
釈迦ヶ岳の峠の登山口から西南に派生する尾根で、山頂は展望に恵まれていないが比較的歩きやすい。ブナやミズナラの自然林がすばらしい。小雨決行

週末ハイク112
高島トレイル⑤コース
湖西・武奈ケ嶽から水坂峠
（一般向き）

9月25日(土)　日帰り　貸切バス
集合　JR京都駅八条口7時40分
行程　京都駅（バス）石田川ダム―武奈ケ嶽登山口―武奈ケ嶽北尾根―武奈ケ嶽―赤岩山西峰―水坂峠（バス）京都駅（解散18時頃）
費用　約3000円（バス代）
地図　2万5千＝熊川・饗庭野
係　◎狩野東彦
申込　〒610―0121　城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで
＊定員25名
前回キャンセル待ちが多かったので、再度同じコースを歩きます。雨天中止

平日お花見山行7
湖北・伊吹山古道歩き
（一般向き）

9月27日(月)　日帰り
集合　JR関ヶ原駅8時30分
行程　関ヶ原駅（車）弥高―弥高古道―五合目三角点―（往路）―弥高（車）関ヶ原駅（解散）
費用　交通費各自（車代500円）
地図　2万5千＝関ヶ原
係　◎山田明男
申込　〒503―0535　海津市南濃町松山624の19　山田明男まで
＊定員10名程度
伊吹山の弥高尾根を三角点目指して歩きます。雨天中止

火曜ハイク73
北摂・最勝ケ峰から箕面
（一般向き）

9月28日(火)　日帰り
集合　泉原バス停9時30分（阪急バス・茨木駅から忍頂寺行き乗車）
行程　泉原バス停―登山口―北摂霊園―最勝ケ峰―東海自然歩道西起点―阪急箕面駅（解散15時30分頃）
費用　交通費各自
地図　昭文社＝「北摂・京都西山」
係　◎仲谷礼司○沖　伸
申込　〒610―0121　城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで
東海自然歩道の起点部分です。忍頂寺からでは道が長いので割愛しました。
雨天中止

若狭
ろくろ山から三十三間山
（一般向き）

9月30日(木)　日帰り　貸切バス
集合　JR京都駅八条口7時40分
行程　京都駅（バス）ハス谷林道倉見登山口―P369m―ろくろ山―三十三間山―倉見登山口（バス）京都駅（解散18時）
費用　約3000円（バス代）
地図　2万5千＝熊川
係　◎寺井恒夫
申込　〒610―0121　城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで
＊定員22名
ろくろ山から三十三間山の南尾根から三方五湖や若狭の海が望めます。ススキもきれいでしょう。雨天中止

大峰・栃尾山から天和山
（一般向き）

9月30日(木)　日帰り　貸切バス
集合　近鉄橿原神宮前駅中央口8時05分
行程　橿原神宮前駅（バス）坪の内谷線尾根出合登山口―栃尾辻―栃尾山―P1287m峰―天和山―川瀬峠―P1183m峰―和田発電所（バス）橿原神宮前駅（解散17時）
費用　約3000円（バス代）
地図　2万5千＝南日裏
係　◎西上利和○下郡正年
申込　〒610―0121　城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで
＊定員25名
栃尾山と天和山をつなぐ尾根は訪れる人もまれで、雑木林の静かな尾根歩きが楽しめます。八経ケ岳や釈迦ケ岳の大峰主峰が望めます。小雨決行

播磨・七種山（なくさ）
（一般向き）

10月2日(土)　日帰り
集合　JR石山駅7時00分
行程　石山駅（車）福崎野外センター―七種山―七種槍―野外活動センター（付近の温泉入浴・車）石山駅（解散）
費用　交通費各自（車代ワリカン）
地図　2万5千＝寺前・龍野・山崎
係　◎中　照行
申込　〒610―0121　城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで
＊定員6名（禁煙者に限る）
鋭鋒七種山へ登り、七種槍コースを周回する。雨天中止

金曜里山ハイキング32
湖南アルプス
笹間ケ岳から堂山
（一般向き）

10月2日(土)　日帰り
集合　JR石山駅9時30分
行程　石山駅（バス）上関バス停―笹間ヶ岳―大谷河原―御仏河原―天神川林道―迎不動―鎧ダム―堂山―天神川河原―アルプス登山口（バス）石山駅（解散17時30分）
費用　交通費各自
地図　2万5千＝瀬田・朝宮
係　◎村田智俊
申込　〒610―0121　城陽市寺田大畔10の10　村田智俊まで
山頂の八畳岩からの展望がすばらしい笹間ヶ岳から堂山へ廻り、湖南アルプスの景観を楽しむ。雨天中止

鈴鹿を歩く341
イブネ・ダイジョウ
（やや健脚向き）

10月3日(日)　日帰り　マイカー
集合　藤切谷旧林道入口8時00分
行程　旧林道入口―杉峠―佐目峠―イブネ―佐目峠―ダイジョウ―ダイジョウ池―藤切谷―旧林道入口（解散）
費用　交通費各自
地図　昭文社＝「御在所・雲仙・伊吹」
係　◎岩野　明○後藤康幸
申込　〒610―0121　城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで
千種越の道を杉峠に登り、広大なイブネ山頂を散策。ダイジョウから池を巡り、藤切谷に下ります。雨天中止

ゆっくり歩こう10
北山トレイル東部2
山幸橋から戸寺（初級向き）

10月6日(水)　日帰り
集合　山幸橋バス停8時45分
行程　山幸橋―向山―夜泣峠―二ノ瀬―薬王坂―静原神社―江文峠―戸寺バス停（解散14時30分頃）
費用　交通費各自
地図　京都一周トレイル＝「北山東部・西部」
係　◎仲谷礼司○沖　伸
申込　〒610―0121　城陽市寺田大畔10の10

新ハイキング関西まで向山までは急登ですが、後半は平地歩きが主です。バスの都合で逆コースを計画。ゆっくりペースで歩きます。
雨天中止

週末ハイク113
高島トレイル⑥コース
朽木・水坂峠から横谷峠
（一般向き）

10月9日(土)　日帰り　貸切バス
集合　JR京都駅八条口7時40分
行程　京都駅（バス）水坂峠—二の谷山—桜峠—椋川—行者山登山口—行者山—横谷峠（バス）京都駅（解散18時頃）
費用　約3000円（バス代）
地図　2万5千＝愛宕山
係　◎狩野東彦
申込　〒610—0121　城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで
＊定員25名

前回キャンセル待ちが多かったので、今回は逆コースを案内します。雨天中止

上越・火打山と妙高山
（中級向き）

10月9日(土)～11日(祝)　2泊3日　貸切バス
集合　（9日）JR京都駅八条口7時40分
行程　（9日）京都駅（バス）戸隠高原（散策・バス）妙高池ノ平（泊）
（10日）池ノ平（バス）笹ヶ峰—黒沢出合—十二曲り—富士見平—高谷池ヒュッテ—天狗の庭—火打山—茶臼山—黒沢池ヒュッテ（泊）
（11日）ヒュッテ—大倉乗越—燕新道出合—妙高山—鎮場—天狗平—大谷ヒュッテ—赤倉温泉（入浴・バス）京都駅（解散20時頃）
費用　約35000円（バス・宿泊・入浴代等）
地図　昭文社＝「妙高・戸隠」
係　◎村田智俊○安倉正勝
申込　〒610—0121　城陽市寺田大畔10の10　村田智俊まで
＊定員22名（会員に限る）
紅葉の日本百名山二山に登る。温泉も楽しみです。鎮場は整備されている。雨天決行

展望の山73
奥美濃・烏帽子山
（健脚向き）

10月10日(日)　日帰り
集合　JR大垣駅7時00分
行程　大垣駅（車）池の又林道—椀戸谷—烏帽子岳—（往路）—池の又林道（車）大垣駅（解散）
費用　交通費各自（車代2000円）
地図　2万5千＝冠山
係　◎山田明男
申込　〒503—0535　海津市南濃町松山624の19　山田明男まで
＊定員10名程度
やぶ山で2年前は敗退。今回は行きたい！　雨天中止

大峰・石仏山
（一般向き）

10月10日(日)　日帰り　貸切バス
集合　近鉄榛原神宮前駅中央口8時05分
行程　榛原神宮前駅（バス）滝谷橋登山口—尾根出合—石仏山北峰—石仏山南峰—（往路）—滝谷橋登山口（バス）榛原神宮前駅（解散18時）
費用　約3000円（バス代）
地図　2万5千＝風屋
係　◎西上利和○下部正年
申込　〒610—0121　城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで
＊定員25名
3月雨で中止になりました。今度は晴れるのを祈りながらリベンジ山行します。

小雨決行

平日お花見山行8
湖北・伊吹山古道歩き
（一般向き）

10月11日(月)　日帰り
集合　JR関ヶ原駅8時30分
行程　関ヶ原駅（車）七合目—古道—山頂遊歩道周回—七合目（車）関ヶ原駅（解散）
費用　交通費各自（車代1000円）
地図　2万5千＝関ヶ原
係　◎山田明男
申込　〒503—0535　海津市南濃町松山624の19　山田明男まで
＊定員10名程度
伊吹山の紅葉はどうでしょうか？　秋の花は？
雨天中止

ゆっくり歩こう11
西山トレイル
清滝から西芳寺（初級向き）

10月13日(水)　日帰り
集合　清滝バス停9時20分
行程　清滝—落合—六丁峠—鳥居本—亀山公園—松尾山—苔寺谷林道—松尾駅（解散14時40分頃）
費用　交通費各自
地図　京都一周トレイル＝「西山」
係　◎仲谷礼司○沖　伸
申込　〒610—0121　城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで
京都一周トレイルの最後は観光地がメイン。ゆっくりペースで歩きます。雨天中止

大峰
大天井ヶ岳から岩屋峰
（一般向き）

10月14日(木)　日帰り　貸切バス
集合　近鉄榛原神宮前駅中央口8時05分
行程　榛原神宮前駅（バス）五番関—女人結界門—大天井ヶ岳—P1328ピーク—岩屋峰—大原山—かりがね橋—龍泉寺（バス）榛原神宮前駅（解散16時30分）
費用　約3000円（バス代）
地図　2万5千＝洞川
係　◎西上利和○下部正年
申込　〒610—0121　城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで
＊定員25名
ブナ自然林が続く紅葉の尾根をゆっくりと楽しみながら山頂を目指し、岩屋峰へとくだります。小雨決行

台高支脈・迷岳（中級向き）

10月16日(土)　日帰り　貸切バス
集合　近鉄榛原駅8時30分
行程　榛原駅（バス）迷ダム登山口—山ノ神—布引滝上—迷岳—桃ノ木平—口迷岳—唐谷—林道
終点（バス）スメール（入浴・バス）榛原駅（解散19時頃）
費用　約3000円（バス代）
地図　2万5千＝七日市
係　◎村田智俊
申込　〒610—0121　城陽市寺田大畔10の10　村田智俊まで
＊定員25名
迷ダムから布引滝の上部をかすめ、迷岳へ直登する。帰路、スメールで入浴してゆっくり帰る。雨天中止

鈴鹿を歩く342
ヒキノ・旭山・東山
（中級向き）

10月17日(日)　日帰り　マイカー
集合　永源寺町役場8時00分
行程　役場（車）御池林道小又谷林道手前広場—巡視路—稜線—ヒキノ—旭山—東山—政所（解散）

費用　交通費各自
地図　昭文社＝「御在所・霊仙・伊吹」
係　◎岩野　明○後藤康幸
申込　〒610―0121
城陽市寺田大畔10の10
新ハイキング関西まで

ヒキノから旭山、東山と続く深い樹林。大パノラマの稜線を歩きます。雨天中止

播州・明神山（健脚向き）

10月17日(日)　日帰り　貸切バス
集合　JR加古川駅北ロータリー8時00分
行程　加古川駅（バス）明神湖―千枚岩―明神山―かじかの里―夢やかた（バス）加古川駅（解散19時頃）
費用　約4000円（バス代）
地図　2万5千＝前之庄
係　◎古賀慶二
申込　〒675―0112
加古川市平岡町山の上684―33　17A403
古賀慶二まで
＊定員18名

明神山、この山の逸った一面を歩いてみましょう。コース変更あり。＊定員に満たない場合は、中止する場合があります。雨天中止

台高　黒石岳からキワダズコ（初級向き）

10月21日(木)　日帰り　貸切バス
集合　近鉄榛原神宮前駅中央口8時05分
行程　榛原神宮前駅（バス）大台ヶ原ドライブウェイ黒石岳登山口―P1 361岩峰―黒石岳―黒石岳登山口―キワダズコ―（往路）―黒石岳登山口（バス）入之波温泉（山塊湯入浴・バス）榛原神宮前駅（解散17時）
費用　約3000円（バス代）
地図　2万5千＝大台ヶ原
係　◎西上利和○下部正年
申込　〒610―0121
城陽市寺田大畔10の10
新ハイキング関西まで
＊定員25名

秀麗な山容で定評のある黒石岳は登山口から1時間程で登れます。同じ登山口から原生林の紅葉が美しいキワダズコを往復します。山行後は源泉にこだわる山塊湯で汗を流す。小雨決行

丹波・三岳と小金ヶ岳（一般向き）

10月23日(土)　日帰り
集合　JR石山駅7時30分
行程　石山駅（車）火打岩―三岳―火打岩―小金ヶ岳―火打岩（付近の温泉入浴・車）石山駅（解散）
費用　交通費各自（車代ワリカン）
地図　2万5千＝村雲・宮田
係　◎中　照行
申込　〒610―0121
城陽市寺田大畔10の10
新ハイキング関西まで
＊定員6名（禁煙者に限る）

三岳と小金ヶ岳へそれぞれの尾根を往復する。雨天中止

余呉トレイル　湖北・椿井嶺から河内山（一般向き）

10月23日(土)　日帰り
集合　JR木之本駅8時40分
行程　木之本駅（車）椿坂峠―椿井嶺―長野尾峠―河内山―長野尾峠―中河内（車）木之本駅（解散）
費用　交通費各自
地図　2万5千＝中河内
係　◎高島伸浩
申込　〒610―0121
城陽市寺田大畔10の10
新ハイキング関西まで

余呉トレイルを北へのぼります。中河内に駐車しますので車の御協力お願いします。＊車か電車か明記ください。雨天決行

三重の山109　鈴鹿　臼杵山・臼杵ヶ岳（中級向き）

10月23日(土)　日帰り　マイカー
集合　手前「望仙荘」9時00分
行程　望仙荘（車）石水渓キャンプ場（車）船石林道入口―臼杵岩―臼杵山―臼杵ヶ岳―カモシカ高原―安楽峠―船石林道入口（車）望仙荘（解散15時30分頃）
費用　交通費各自
地図　2万5千＝伊船
係　◎桶垣逸夫
申込　〒519―0311
鈴鹿市大久保町206―5　桶垣逸夫まで

展望良。紅葉もよし。雨天決行

湖北　栃ノ木峠から音波山（一般向き）

10月24日(日)　日帰り　貸切バス
集合　JR京都駅八条口7時40分
行程　京都駅（バス）栃ノ木峠―点「栃ノ木」―巡視路分岐―音波山―下谷山―（往路）―栃ノ木峠（バス）京都駅（解散18時30分）
費用　約3000円（バス代）
地図　2万5千＝板取
係　◎村田智俊
申込　〒610―0121
城陽市寺田大畔10の10
村田智俊まで
＊定員40名

栃ノ木峠から音波山へ。さらに下谷山まで足をのばし、ブナ原生林の尾根を往復する。雨天中止

火曜ハイク74　北抓　歌垣山から小和田山（一般向き）

10月26日(火)　日帰り　貸切バス
集合　JR京都駅八条口8時00分
行程　京都駅（バス）堀越峠―歌垣山―七面口―七面山―釈迦ヶ岳―小和田山―岩石峠（バス）京都駅（解散17時頃）
費用　約3000円（バス代）
地図　昭文社＝「北抓・京都西山」
係　◎仲谷礼司○沖　伸
申込　〒610―0121
城陽市寺田大畔10の10
新ハイキング関西まで
＊定員40名

北抓の静かな山をいくつか廻ります。雨天中止

台高・大熊谷の頭（やや健脚向き）

10月28日(木)　日帰り　貸切バス
集合　近鉄榛原神宮前駅中央口8時05分
行程　榛原神宮前駅（バス）江馬小屋谷出合―尾根取付―庵の谷林道終点―庵ノ谷高―大熊谷ノ頭―庵ノ谷高―庵の谷林道終点―庵の谷林道入口（バス）榛原神宮前駅（解散17時30分）
費用　約3000円（バス代）
地図　2万5千＝七日市
係　◎西上利和○下部正年
申込　〒610―0121
城陽市寺田大畔10の10
新ハイキング関西まで
＊定員25名

台高の深まりゆく秋を求めてあまり歩かれていない静寂なルートから登ります。江馬小屋谷を渡渉して登山口に取り付きます。小雨決行

週末ハイク114
高島トレイル③コース
湖西・滝谷山から大谷山
（一般向き）

10月30日(土)　日帰り　貸切バス
集合　JR京都駅八条口7時40分
行程　京都駅（バス）滝谷山登山口―滝谷山―近江坂―抜土―大谷山―寒風―マキノスキー場（バス）京都駅（解散19時頃）
費用　約3000円（バス代）
地図　2万5千＝熊川・海津
係　◎狩野東彦
申込　〒610―0121　城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで
＊定員25名
前回キャンセル待ちが多かったコース。今回ルートを変更して歩きます。雨天中止

自然観察山行281
奥美濃・蝶帽子嶺
（一般向き）

10月30日(土)　日帰り　貸切バス
集合　JR岐阜駅7時30分
行程　岐阜駅（バス）コワタビ谷出合―蝶帽子嶺―蝶帽子峠―コワタビ谷出合（バス）岐阜駅（解散）＊根尾西谷川の渡渉あり
費用　約4500円（岐阜駅からバス代等）
地図　2万5千＝能郷白山
係　◎鷲見守康
申込　〒504―0828　各務原市蘇原村南町1の19の5　鷲見守康まで
＊定員20名（申込状況により減員あり）
水戸天狗党ゆかりの道とやすらぎのブナ林を歩きます。小雨決行（コース変更あり）

飯南・庄司峠から局ヶ岳
（一般向き）

10月30日(土)　日帰り　貸切バス
集合　近鉄榛原駅8時30分
行程　榛原駅（バス）登山口―庄司峠―P921㍍―P942㍍―局ヶ岳―小峠―新登山口（バス）道の駅「飯高」（いいたかの湯入浴・バス）榛原駅（解散19時頃）
費用　約3000円（バス代）
地図　2万5千＝宮前
係　◎村田智俊
申込　〒610―0121　城陽市寺田大畔10の10　村田智俊まで
＊定員25名
庄司峠から尾根道を局ヶ岳へたどる。帰路、温泉に入りゆっくりと帰る。雨天中止

特別企画
台湾の山
南湖大山
（一般向き）

10月17日(日)～22日(金)
6日間
集合　（17日）関西空港9時20分
行程　（17日）関西空港（飛行機）台北（専用バス）樓蘭（ホテル泊）
（18日）樓蘭（バス）思源―新雲稜山荘（泊）
（19日）新雲稜山荘―南湖北山―南湖北峰―南湖山荘（泊）
（20日）南湖山荘―南湖大山―新雲稜山荘（泊）
（21日）新雲稜山荘―思源（バス）台北（泊）
（22日）台北（飛行機）関西空港
費用　約17万円
係　◎狩野東彦
＊定員16名（残席少々）
＊8月29日締切り

（問い合わせ）狩野まで（☎090―4302―0186）
玉山山行時のガイドがイチオシのカール状山容が美しい、台湾第四の高峰「南湖大山（3740㍍）」へ遠征します。ツアー会社の企画がほとんどないコースです。

特別企画
韓国の山旅シリーズ④
俗離山・伽倻山
（中級向き）

11月1日(月)～4日(木)
4日間
集合　（1日）関西空港9時50分
行程　（1日）関西空港（飛行機）釜山（バス）登山口（泊）
（2日）登山口―俗離山―法性寺（バス）大邱市（ホテル泊）
（3日）大邱市（バス）白雲洞―伽倻山―海印寺（バス）慶州市（ホテル泊）
（4日）慶州市（バス）釜山（飛行機）関西空港（解散13時）
費用　約12万円（決定後送金）
地図　申込者に配布
係　◎村田智俊
申込　〒610―0121　城陽市寺田大畔10の10　村田智俊まで
＊定員10名～15名
＊9月末まで
手配　アルバインツアーサービス㈱大阪支店
今回は、韓国中部の二山に登ります。標高は低いが、韓国人ハイカーに人気の高い山です。4日間共専用バスで移動。日本語が話せる現地ガイドが案内します。＊参加者には詳細を連絡。雨天決行

新ハイキング関西　◎9・10月実施山行係（リーダー）紹介　平成22年（2010）7月現在・五十音順

氏名	例会名	〒	住所	電話（FAX共）	申し込み
稲垣逸夫	三重の山	519－0311	鈴鹿市大久保町2065	0593－71－0246	本人
岩野　明	鈴鹿を歩く	523－0041	近江八幡市中小森町666－15	0748－33－7215	関西本部
狩野東彦	週末ハイク	617－0006	向日市上植野町番堀9－9	075－933－1458	関西本部
古賀慶二	兵庫周辺の山	675－0112	加古川市平岡町上之山684－33　17A－403	0794－26－1890	本人
須磨岡輯	兵庫周辺の山	671－1262	姫路市余部区上余部50－2－11	0792－73－3037	本人
鷲見守康	自然観察山行	504－0828	各務原市蘇原村南町1－19－5	0583－83－3978	本人
高島伸浩	若狭周辺の山	914－0076	敦賀市元町14－29	0770－23－2443	関西本部
寺井恒夫	平日ふれあいハイク	604－8874	中京区壬生天池町30	075－811－5231	関西本部
中　照行	関西の名山	520－2134	大津市瀬田3－33－6	0775－45－7017	関西本部
仲谷礼司	火曜ハイクほか	617－0817	長岡京市滝ノ町1－6－4	075－952－1577	関西本部
西上利和	奈良周辺の山	586－0043	河内長野市清見台4－19－1－409	0721－63－7196（0721－63－5988）	関西本部
村田智俊	金曜ハイクほか	610－0121	城陽市寺田大畔10－10	0774－53－2754	本人
山田明男	展望の山ほか	503－0535	海津市南濃町松山624－19	0584－56－1466	本人

新ハイキング社の書籍

第30巻 関東周辺のやさしい雪山登山コース　植手崇文　著

A5判196頁／定価1680円　尾瀬、高峯、美ヶ原、白馬、甲斐駒など57コースを掲載
新たに雪山に入る手助けに、厳冬期の山は山小屋が営業し夢の入山する山に限り、一段と難度の高い山は、天候が安定し、雪崩の危険がほとんどなくなるゴールデンウィーク前後を選んで紹介。

高木文一　初登攀の軌跡　岡部紀正　著

四六判・184頁／定価1890円　われ、谷川岳にアルピニズムの濫觴を見ゆ
慶応大出身アルピニストの谷川岳・一ノ倉沢奥壁初登攀など輝かしい業績を、山岳部後輩の著者が熱情溢れる筆致で詳述。

第29巻 日本300名山スケッチ登頂　深谷健雄　画・文

B5判208頁／定価2200円　スケッチ山旅の画文集
50年をかけて達成した、日本300名山のスケッチ集。800葉のスケッチに丁寧な説明文を添えるとともに、300山を簡潔に紹介。

第28巻 バリエーションルートを楽しむ　松浦隆康　著

A5判304頁／定価1680円　花・巨樹・滝・眺望など魅力の100コース
好評の「静かなる尾根歩き」著者による第2弾。奥多摩・奥武蔵／高尾山・扇山付近／丹沢・箱根／道志・御坂／大菩薩付近など全100コースに略図付き。

第26巻 静かなる尾根歩き　松浦隆康　著

A5判288頁／定価1680円　奥多摩から八ヶ岳まで日帰り100コース
今までむずかしいと思っていたコースへの道を開くガイド書。コースにグレード区分をつけ、最新の踏査にもとづき全て分かりやすい略図入りガイド。

第24巻 山岳巡礼　佐藤光雄　著

B6判362頁／定価1680円　山に魅せられた一登山家の珠玉の紀行集
春の穂高、夏の大雪、秋の剱岳北方稜線、冬の御嶽、ひとり拓く山の世界。
本格的に山に取り組む人への良き案内書。

歩き遍路の独り言　後藤典重　著

A5判176頁／定価1200円　あなたも歩ける四国遍路みち　1200キロ
歩いた遍路旅の喜怒哀楽など数多い思い出を日記風にまとめた書。歩くための参考になる四国遍路の歴史、コースタイム（距離・時間・歩数等）・宿泊先など、必要な資料を掲載。

●本誌添付の振込用紙でのご注文は、送料当社負担

新ハイキング社
〒114-0023 東京都北区滝野川7-5-5　Tel/Fax 03-3915-8110

山行報告
（5・6月号）
新ハイキングクラブ関西

英彦・北山

（自然観察山行2278）

5月1日(土)　晴れ

（集合）JR岐阜駅7・30（車）林道駐車地9・26—登山口9・30—鉄塔78—鉄塔79—北山11・45（昼食）12・40—（往路）—駐車地14・30（車）岐阜駅16・30（解散）

西洞集落跡は駐車禁止のため、林道の路肩に駐車。沢を離れると自然林がいい。三角点のある山頂からさらに最高標高点へと歩いた。岩がゴロゴロしており、ホンツゲが密生していた。自然林の斜面ではミスミソウの葉を見た。カタクリは一枚葉の株が多かった。

（参加者）伊藤　直　荻野美紀恵　堀田輝子　◎鷲見守康　（計4名）

霊仙山・谷山

（鈴鹿を歩く332）

5月2日(日)　晴れ

（集合）風穴手前寺院広場8・25（車）権現谷白谷林道—岩ノ峰取付広場9・30—岩ノ峰10・40—霊仙山最高峰10・50—経塚山11・05—谷山11・50（昼食）12・40—P796（14・13・35—P746（14・10—五僧16・10—白谷出合16・35—あけん原広場18・00（解散）

芹川、権現谷、白谷は若葉のコントに着替えし、朝の光にきらきらと輝いていた。約1時間で山頂に登ると、大展望のなかにニリンソウ・アマナ・ミツバツチグリなどの花々。谷山からの長尾のロングコースもすばらしい尾根道にシャクナゲの花、権現谷ではイチリンソウ・ヤマルリソウ・ヤマブキソウの花々も楽しんだ。

（参加者）湯口靖孝　武村千鶴　熾部　純　栗本敏夫　貴堂雅路　高橋舜治　稲津謙治　永戸鉄治　澤崎　實　一芝義雄　一芝美知子　滝川　登　上嶌秀夫　奥野太一郎　池田隆一　谷　守　吉岡うた子　池田繁美　木下朝子　石田眞由美　大西倍郎　金谷　昭　居原田幸弘　神野孝允　小林　修　○後藤康幸　○山田景三　◎岩野　明（計23名）

大峰・銚山

5月3日(祝)　晴れ

（集合）近鉄橿原神宮前駅8・05—10（バス）大川口登山口10・00—ザンゲ平11・50—鉄山12・15—ザンゲ平12・45（昼食）13・20—大川口登山口14・50（バス）橿原神宮前駅17・00（解散）

山頂直下の鎖場も支柱が抜けて足場の悪いなか、補助ロープを使って無事ザンゲ平に下りることができ、広々としたザンゲ平でのんびりと視界抜群の展望を楽しんだ。

（参加者）川田位子　松上美代子　多賀周二　多賀久子　久保田玲子　川俣　勲　高橋静雄　西谷眞実子　岩村春子　池田繁子　島田　廣　狩野東彦　川戸せつ　池田　茂　竹内正子　岡本正明　湯口靖孝　高橋舜治　辻垣洞子　山野志保江　辻中　貢　三野　旭　杉本多美雄　沖　伸　渡部和美　○下郡正年　◎西上利和　（計27名）

高島トレイル④コース
湖西・大御影山から三重嶽

（週末ハイク105）

5月8日(土)　晴れ

（集合）JR京都駅7・40（バス）ピラデスト今津9・40～45—近江坂バイパス分岐10・15～20—滝谷山分岐10・55～11・00—河内谷林道出合11・25～35—大御影山12・20（昼食）13・00—大日尾根P858（14・00—P889（14・15～20—P887（14・40—P943（14・55—三重嶽15・15～30—P855（15・50—水谷分れ16・05—P674（16・35—武奈ヶ嶽北尾根16・55～17・05—ワサ谷橋登山口18・00—石田川ダム18・10～25（バス）京都駅20・20

日差しは強いが爽やかな風が吹いて暑さを感じなかった。名残のイワウチワ、寒年で数が少ないシャクナゲ、開花したイワカガミ・カタクリなどの花を見ながら大御影山に到着。予定の時間で歩けたのでゆっくり昼食をとり、残り3分の2を落伍者もなく踏破し、予定時刻に下山できた。

〔参加者〕三上仲夫　塚本忠次　岡崎知子　蓮井洋子　大平　漸　岩村春子　宮野哲郎　久保田玲子　木村　豊　後藤純子　前田喜久子　西村文男　朝倉松雄　加納由紀子　山根弘美　長沢佑美　小川富士雄　和田純子　渡部和美　大園加代子　須藤浩子　沖　仲　西谷真実子　木村朝恵　浅野　剛　松上美代子　高橋舜治　松村雅子　武部美美子　下山　登　岩城豊子　佐々木輝子　竹内正子　林　正義　船本裕巳子　下都正年　三野　旭　林　久美子　内田康夫　林　義朗　氷見真砂子　上田裕子　森井　潔　森井順子　稲津謙治　岩田育士　○仲谷礼司　○狩野東彦　（計48名）

丹波・半国山

（金曜里山ハイキング28）

5月8日(土)　晴れ

（集合）JR関部駅9・40～45（タクシー）赤熊バス停9・55～10・05—林道終点10・20～25—音羽の滝10・40—分岐10・55～11・05—峠11・35～45—半国山12・05（昼食）12・50—宮川分岐13・00—千ヶ畑分岐13・10—赤熊分岐13・30～35—杉の沢登山口14・00—るり渓歩道入口14・20～30—通天湖15・20—るり渓温泉15・30（入浴）16・30（タクシー）関部駅16・50（解散）

緑したたる音羽渓谷の水量は多い。眺望の半国山でゆっくりし、るり渓別荘地にくだった。美しいるり渓を見ながら遊歩道をたどり、温泉で汗を流した。通天湖のミツバツツジが満開できれいだった。

〔参加者〕河内正治　村岡雄志郎　岡本正明　大槻一夫　木内範文　菱子衣代　小田潤子　神谷恵美子　大井隆嗣　林　信男　久馬麻登珂　高島春美　君塚節子　牧　和夫　巻田　晃　○村田智俊　（計16名）

湖北・土蔵岳（オオダワ）

（展望の山68）

5月9日(日)　晴れ

（集合）JR関ケ原駅8・30（車）夜叉姫神社9・15～25—アンテナ跡10・15—オオダワ12・10（昼食）12・40—三角点13・00—オオダワ13・30—アンテナ跡15・10—夜叉姫神社15・40～55（車）大垣駅16・00（解散）

残雪期の土蔵岳ですが、オオダワの三角点を見にオオダワへのルートで登る。2時間ばかりやぶだったが、ワラビもあり、コシアブラも採取できた。クマの手形が印象的で、ピンクのミヤマカタバミもきれいだった。

〔参加者〕小林一世　中澤美香子　荻野輝子　松村雅子　石井照雄　高原芳彦　沖　仲　砂原恵美子　山縣勝美　平塚明美　磯部　純　後藤康幸　○山田明男　（計13名）

鈴鹿・高室山

（近江の山シリーズ33）

5月9日(日)　晴れ

（集合）JR京都駅7・40（バス）佐目9・15～22—休憩10・20—林道10・53—高室山11・15（昼食）12・15—林道12・31—林道分岐12・38—丸山分岐12・45—丸山12・52～13・03—鉄塔13・20～30—雨後谷14・10～30（バス）京都駅16・30（解散）

神社の裏から尾根伝いに登り高室山に着いた。三角点の有無など問題にしない360度の展望。帰路は、時間があるので丸山を経由した。丸山にはヤマシャクヤクが咲いていた。雨後谷までバスが入ったので、助かった。

〔参加者〕三輪直文　長沢佑美　岩佐　修　金森節子　呉比裕美　今泉　勲　小池一郎　村田はる江　吉野榮子　大嶋　勉　神谷恵美子　井上浩子　小林　桂　吉岡うた子　稲津謙治　○森脇貞義　（計16名）

愛宕山シリーズ22

八丁山・首無地蔵からつつじ尾根

（火曜ハイク70）

5月11日(火)　雨

（集合）清滝バス停9・20—小泉橋10・00—八丁山11・10—高雄林道12・10（昼食）12・55—首無地蔵13・10—谷道—地蔵峠14・00—社務所14・15～40—水尾分れ15・00—つつじ尾根—JR保津峡駅16・40（解散）

朝から小雨が降ったり止んだり、幻想的な雰囲気の山道となったが、クリンソウの大群落に大満足して下山する。

〔参加者〕蓮井洋子　塚本忠次　林　正義　浅野　剛　木内範文　大林　進　川上久堅　西村静子　鮫田二郎　小林　桂　加納由紀子　後藤純子　小松志信　守田光太郎　本間　隆　青木一雄　武部美美子　谷　守　岩城豊子　船本裕巳子　加藤國計　川村信子　○沖　仲　○仲谷礼司　（計24名）

湖北・伊吹山

（平日お花見山行③）

5月11日(火)　○山田明男

＊雨天のため中止しました。

南勢・三条山

5月13日(木)　○西上利和

＊バス定員未満で中止しました。

若狭

インディアン平原・岩籠山

5月15日(土)　晴れ

（集合）JR京都駅7・40（バス）駐口「レストラン篠原」9・50～10・00—点「奥野」10・32～40—大岩10・50—ブナ林ピーク手前11・20～30—ガレ場11・45—インディアン平原12・10（昼食）13・00—岩籠山13・10～15—市橋コース分岐13・35～45—夕暮山13・55—山集落16・00～15（バス）京都駅19・40（解散）

自然林からブナ林へと続く駐口コースを登る。天候に恵まれ、山頂からは湖北の山々、青い日本海が広く眺望できた。山への下山路も快適な道で十分歩きを楽しんだ。

〔参加者〕塚本忠次　久保田玲子　岡崎知子　渡部和美　大園加代子　長沢佑美　後藤純子　岩佐　修　竹内正子　安良陽子　氷見真砂子　小石浩子　林　義朗　中嶋日出男　吉野榮子　大槻一夫　林　久美子　狩野東彦　高橋舜治　佐々木輝子　林　正義　三野　旭　山崎みよ子　堤　良男　盛谷節枝　大嶋　勉　後藤智之　里見祥生　白鳥悦子　岩村春子　須藤浩子　安田文美江　森井　潔　森井順子　西谷真実子　中西和子　佐藤和子　橋本紀代子　川田洋子　山本軍司　和田直樹　遠藤　聿　○宮野哲郎　○村田智俊　（計44名）

打見山から夫婦滝・長池

（比良を歩く83）

5月16日(日)　晴れ

（集合）JR志賀駅9・02（バス）びわ湖バレイ前9・17（ロープウェイ）打見山9・30～10・00—汁谷10・10—シャクナゲ原生林10・22～32—夫婦滝10・55～11・13—オトワ池11・35—長池11・55（昼食）12・40—汁谷13・55～14・05—木戸峠14・10—クロトノハゲ14・35～43—天狗杉15・05～10—林道分岐15・43～48—志賀駅16・20（解散）

今年はシャクナゲの開花が遅く目当ての原生林もまだ満開には至らなかったが、それでもあでやかな彩りで十分にわれわれの目を楽しませてくれた。長池から汁谷へは巡視路をたどったが、アップダウンの繰り返しが続き、けっこう疲れた。

〔参加者〕福本愛子　田辺弘子　大川直澄　平塚明美　柴田麦一郎　大和　紘　妹尾公代　船本裕巳子　岩城豊子　○本間　隆　○桑　康夫　（計11名）

リョウシ・権現谷北尾根

（鈴鹿を歩く333）

5月16日(日)　晴れ

（集合）あけん原広場8・20（車）白谷出合8・40—リョウシ坂峠9・55—リョウシ岩峰10・55—滝谷出合11・40—東谷出合11・50（昼食）12・50—横道13・00—ナガサコP598に13・30—P712に14・30—行者の森15・00—あけん原16・00—広場16・30（解散）

新緑の鈴鹿の秘境リョウシも山笑う頃となった。落石に気をつけて登ると、岩峰からは緑のじゅうたんを広げたように鈴尻・霊仙が見える。道々で摘んだサンショウの芽が匂い立ち、華麗な花々が春の最終を彩る。一度滝谷にくだったのち、またナガサコへと登り返す。行者の森では思わず深呼吸したくなる。下山後のメンバーの顔を見ると、みな五歳ほど若返っていた。

（美香子）

〔参加者〕磯部　純　小川富士雄　高橋舜治　杉本和子　奥野太一郎　原　幸子　小松志信　石井ひろ美　貴堂雅路　永戸鉄治　加納由紀子　坂口裕彦　大西猪郎　白木やす子　池田繁美　高原芳彦　石田流由美　栗本敏夫　柴田明美　吉岡うた子　粟岡克子　中澤與司博　木下朝子

滝川　登　金谷　昭　中澤美香子
○後藤康幸　○山田景三
◎岩野　明　（計29名）

朽木・地蔵峠から三国岳

5月17日(月)　晴れ　（平日ふれあいハイク74）

（集合）JR京都駅7・20（バス）生杉ゲート9・30―地蔵峠10・00―岩谷峠へ1・9㎞道標11・05―カベヨシ11・12―岩谷峠へ0・6㎞道標11・43―岩谷峠12・00（昼食）12・55―三国岳13・40～55―お茶屋跡14・50―桑原橋15・40（バス）京都駅17・45（解散）

（参加者）長沢佑美　渡部和美　妹尾一正　中川光郎　加藤浩二　福島　昭　島田　廣　山嵜加奈子　西島芳洋　木内範文　林　久美子　後藤智之　井上恭子　池田美恵子　岡本正明　岡本和子　和田直樹　角江朝子　冨田雅也　名加恵美子　田中　明　掛谷　逸　（計23名）
◎寺井恒夫

北山トレイル東部1　比叡山から大原　（ゆっくり歩こう5）

5月19日水　◎仲谷礼司
＊雨天のために中止しました。

大峰・大普賢岳

5月20日(木)　くもり時々雨

（集合）近鉄橿原神宮前駅8・05～15（バス）和佐又小屋9・40―笙の窟10・50―日本岳のコル―大普賢岳12・15（昼食）12・45―国見岳13・30―七曜岳14・25―無双洞15・30―水太林道出合16・10（バス）橿原神宮前駅18・20（解散）

登山口から雨がぱらついてきたので急いで合羽を着た。合羽を着けると晴れるというジンクスを信じて歩き始めたが、やはり暑さには勝てず上着を脱ぎ山頂に向かった。ガスに包まれ、眺望には恵まれなかったが、自然豊かな大峰の尾根歩きを十分楽しんだ。

（参加者）川俣　勲　神谷恵美子　別所　癸　多田　徳　村田はる江　池田繁子　上田裕子　中江南海雄　今泉　勲　狩野東彦　島田　廣　林　正義　三野　旭　濱本美和恵　中山　賢　梶原恭彦　守田光太郎　森藤哲良　浅野　剛　横山真由美　新　照子　○下部正年
○竹田勝英　◎西上利和　（計24名）

鈴鹿・水晶岳

5月22日(土)　◎中　照行
＊リーダーの都合で中止しました。

山菜狩りハイク　但馬・鉢伏山と瀞川山

5月22日(土)～23日(日)　1泊2日

（22日　晴れ）（集合）JR新大阪駅8・00（車）ハチ北高原「ひさ家」11・30～50（車）兎和野高原12・10（昼食）12・30（山菜採り）14・10（車）鉢伏高原15・30～40（車）「ひさ家」16・20（泊）

（23日　雨）宿9・00（車）福知山温泉11・30（入浴）13・00（車）京都駅16・00（解散）

兎和野高原での山菜採り。ワラビ・フキ・ノビル等が2時間で袋いっぱい採れた。宿で山菜料理を楽しんだ。翌日は雨、福知山温泉に立ち寄ってのんびりと帰った。

（参加者）武田和巳　藤本紀子　木村祖恵　近藤泰子　白木やす子　杉船敏子　中谷嘉多　（計8名）
◎村田智俊

紀伊・果無山脈縦走　（週末ハイク106）

5月22日(土)～23日(日)　1泊2日

（22日　晴れ）（集合）JR新大阪駅7・40（バス）安堵山登山口11・35（昼食）12・20―安堵山12・45～50―P1150m13・15―和田ノ森14・15～20―果無山脈登山口15・15―丹生ヤマセミ温泉館15・30（入浴）16・35（バス）御神温泉17・05（泊）

（23日　雨）龍神温泉8・10（バス）大阪駅11・50（解散）

爽やかな風に吹かれ、少々のアップダウンを繰り返しながら林道沿いの尾根道を快適に歩き、縦走路の登山口へ下山。美肌の湯で汗を流して宿に到着した。2日目は、風雨共に強まり、登山を中止して帰路についた。

（参加者）大平　漸　松上美代子　岩村春子　高橋静雄　松原眞由美　呉北裕美　岡崎知子　岩佐　修　入江　勲　下部正年　高橋舜治

西上利和　小池一郎　石川　毅　植村信子　岩鶴健司　川村信子　加藤浩二　小林　桂　池田美恵子　岩田育士　竹内正子　北川さゆり　○仲谷礼司　◎狩野東彦　（計25名）

大峰・武士ヶ峰から乗鞍岳

5月27日(木)　くもり

（集合）近鉄橿原神宮前駅8・05～15（バス）西の谷林道の峠10・00―武士ヶ峰（北峰）10・30―矢ハズ峰11・15―P1007m峰（点名塩野）11・50―P989m峰12・20（昼食）12・50―乗鞍岳14・10―温泉「きすみ館」14・40（入浴・バス）橿原神宮前駅16・50（解散）

尾根に取り付いた付近からワラビが群生していて、展望もゆっくり楽しむ暇もくワラビ採りに夢中になった。山の恵みをいただき、自然を満喫した後の温泉も心地好い疲れを癒してくれ、贅沢な山歩きだった。

（参加者）川上久堅　佐藤優美子　長沢佑美　川俣　勲　金森節子　三井紘一　狩野東彦　今泉　勲　真田明子　荒木光雄　中江南海雄　渡辺いく　中辻勝子　前川和佳子　岡本正明　下山　登　下山誠公　西嶋芳洋　竹村英樹　小林　正　井上玉子　夏山春子　近藤恵美子　○下部正年　◎西上利和　（計25名）

飛騨・御前山　（自然観察山行279）

5月29日(土)　晴れ

（集合）JR岐阜駅7・30（車）広域林道登山入口駐車場9・45～50―桜洞林道終点登山口10・10―屏風岩11・30～35―御前山12・30（昼食）13・10―屏風岩14・05―桜洞林道終点登山口15・05―広域林道登山入口駐車場15・30～35（車）美輝の里16・45（入浴）17・30（車）岐阜駅20・30（解散）

晴れてはいても雲が多く、御嶽山を遥拝することはできなかったが、トチノキやサワグルミなどの渓谷林に、アスナロやサワラの大木が混じる清流の桜谷はすがすがしかった。岩にはツルネコノメソウやコチャルメルソウが群落をつくり、アサノハカエデが多かった。七合目付近の屏風岩は圧巻である。

（参加者）石井照雄　杉本和子
◎鷲見守康　（計3名）

湖北の山　余呉湖一周の山

5月29日(土)　晴れ

（集合）JR余呉駅10・15―川並10・40―林道出合11・00―大平良山11・45（昼食）12・45―アチラ坂13・25―賤ヶ岳13・50～14・10―三角点大沢14・40―余呉駅15・35（解散）

賤ヶ岳合戦の足跡を辿る山旅でもあった。川並から大平良山・アチラ坂にかけては訪れる人が少ない静かなルート。10日ぶりの晴天に恵まれた。

（参加者）西田俊治　山崎みよ子　稲津謙治　朽名生石　森川英郎　平塚明美　相澤浩美　森実喜美子　神野孝允　石原君子　磯部　純　谷　守　岩本彩子　木下朝子　栗國克子　◎高島伸浩　（計16名）

徳島・高丸山

5月30日(日)　◎古賀慶二
＊バス定員未満で中止しました。

高島トレイル⑨コース　朽木・地蔵峠からおにゅう峠　（週末ハイク107）

6月5日(土)　晴れ

（集合）JR京都駅7・40（バス）生杉休憩舎9・45～55―地蔵峠10・20・25―三国峠11・35～40―ナベクボ峠12・00―ブナ林広場12・20（昼食）13・10―P803m13・50～14・10―オクスゲノ池14・20―P659m14・50―P697m15・20―おにゅう峠15・55～16・05（バス）京都駅18・40（解散）

地蔵峠までの林道では暑かったが、山道に入ると新緑の木陰に乾いた風が吹いていた。春の花のシーズンが終わり、タニウツギのピンクやホウの白い花が目立った。

（参加者）和田純子　西村文男　岡崎知子　山根弘美　呉北裕美　木村　豊　宮野哲郎　大園加代子　川戸せつ　入江　勲　小川富士雄　島田　廣　高橋舜治　船本裕巳子　上田裕子　小石浩子　武部美美子　竹内正子　福島　昭　松原眞由美　三野　旭　遠井洋子　佐々木輝子　内田康夫　大嶋　勉　林　正義

森井　潔　森井順子　川上久堅
川田洋子　加藤浩二　相生村京子
中　照行　三輪直文　名加恵美子
石川　敏　後藤純子　鈴木恒男
木村　登　○仲谷礼司
◎狩野東彦　（計41名）

奥山・三国岳

（鈴鹿を歩く334）

6月6日(日)　晴れ
（集合）国道306号百々女鬼橋広場8・25―巡視路尾根鉄塔9・35―奥山10・20―縦走路11・30―三国岳最高点12・20（昼食）13・10―ダイラノ頭14・10―三角点14・45―鳴谷林道15・40―広場16・25（解散）

汗をかく季節、大君ヶ畑の百々女鬼橋西からナナカマドの花咲く巡視路をたどり、三国岳へ登る。奥山付近はシャクナゲが道を塞いでいる。ヤマツツジの淡い朱がシロモジの深い緑に点在している。最高点で昼食をとり、ダイラノ頭まで足をのばして三角点から鳴谷林道へ。ヤマビルがアチコチで首をのばしていた。（美香子）

（参加者）武村千鶴　奥野太一郎　礒部　純　杉本和子　吉岡うた子
湯口靖孝　宮村信夫　萩野稲子
永戸鉄治　木下朝子　中澤奥司博
粟岡克子　岩本彩子　中澤美香子
滝川　登　栗本敏夫　白木やす子
谷　守　池田隆一　石田眞由美
小林　修　一芝義雄　一芝美知子
北村正美　○山田景三
◎岩野　明　（計26名）

湖北・伊吹山

（早目お花見山行4）

6月8日(火)　くもり一時雨
（集合）JR関ケ原駅8・30（車）伊吹山ドライブウェイ七合目駐車場9・00―山頂周回路11・05―伊吹山駐車場11・30（昼食）12・00―西周回路から伊吹山12・45―七合目14・30（車）関ケ原駅15・10（解散）

伊吹古道を計画したが、4月は入れず六合目へ歩く。5月は雨中止で今回が最初だった。木々の葉が濃くなり、一部ガスで見難かったが何とかひと歩きできた。初見クサタチバナも多く見られ、たくさんの花が見られた。

（参加者）竹田勝英　宮路ちへ子
若松朝子　堀江房磨　栗栖崇吉
金森節子　市川光郎
◎山田明男　（計8名）

京都北山
バンバケ谷から金毘羅山

（火曜ハイク71）

6月8日(火)　くもり
（集合）戸寺バス停9・45～10・10―バンバケ谷取付点10・50―金毘羅山三角点11・40～50―金毘羅大権現12・00（昼食）12・50―聚流山13・20～35―寂光院14・30―大原バス停14・50（解散）

JRに事故があり出発が遅れる。バンバケ谷からの登りは、踏跡のない植林の急登道が続き、尾根筋に上がると涼風も出て小休止。歩き慣れた金毘羅山の違う一面を楽しんだ。

（参加者）狩野東彦　山本軍司
中山　治　加藤浩二
志水明美　小栗大直　渡部和美
和田直樹　本間　隆　妹尾一正
安良陽子　塚本忠次　水木加津榮
堀家洋子　後藤純子　守田光太郎
夏山春子　別所　癸　船本裕巳子
竹田善英　○青木一雄
◎仲谷礼司　（計23名）

台高・白屋岳から武木峠

6月10日(木)　◎西上利和
＊バス定員未満で中止しました。

オークラノ尾（大倉谷山）

（京都北山歩き138）

6月12日(土)　晴れ
（集合）JR京都駅7・40（バス）江和9・40―民ヶ谷林道入口9・50～10・00―林道終点10・20～30―Ca710m11・30～40―P790m12・00～05―ブナ林広場12・10（昼食）12・50―オークラノ尾13・15～30―南尾根中間点広場14・05～15―小野倉谷出合14・50～15・00―白石16・00～20（バス）京都駅18・45（解散）

急登をこなすが790mピークで12時を回った。西側すぐのブナ林で昼食をとり、オークラノ尾への稜線をたどった。三等三角点名田歌の山頂は狭く展望もない樹林のなか。下山は南尾根を忠実にたどって小野倉谷へ。上部はやぶが混んでいたが、下部は広い尾根となった。谷への下降ではロープを

出して下りた。

（参加者）渡部和美　後藤純子
塚本忠次　木村　登　岡崎知子
小池一郎　西田俊治　武部美美子
後藤智之　大川直澄　和田直樹
森井　潔　福本愛子　松上美代子
山本軍司　浅野　剛　相生村京子
冨田満子　沼田照美　木村組恵
妹尾一正　若林文夫　青木一雄
夏山春子　中川光郎　○梅原良彦
◎村田智俊　（計27名）

湖北・虎子山

（近江の山シリーズ34）

6月13日(日)　◎森脇貞義
＊雨天のため中止しました。

東濃・寺田小屋山（展望の山69）

6月13日(日)　くもり
（集合）JR勝川駅7・00（車）乗鈴林道車止9・00―登山口9・30―尾根10・20―寺田小屋山10・30―登山口11・15―車止11・45（昼食）12・15（車）勝川駅15・10（解散）

午後から雨の予報でひとり不参加。雨は帰りの車で14時半に降ってきた。遠望はなかったが、花も少しあり、簡単に岐阜百山の山に行けた。

（参加者）杉本和子　中澤美香子
小林一世　◎山田明男　（計4名）

大峰・行者還岳

6月13日(日)　◎西上利和
＊雨天のため中止しました。

京都北山
愛宕コメカイ道から小倉山

6月16日(水)　◎仲谷礼司
＊雨天のため中止しました。

大峰・観音峰山

6月17日(木)　◎西上利和
＊バス定員未満で中止しました。

鈴鹿・綿向山

6月19日(土)　◎中　照行
＊リーダーの都合で中止しました。

高島トレイル⑧コース
朽木
おにゅう峠から駒ヶ岳西尾根

（週末ハイク108）

6月19日(土)　くもり
（集合）JR京都駅7・40～45（バス）おにゅう峠10・15～25―根来坂10・40―白石山10・50―百里ヶ岳11・40（昼食）12・20―P711m12・55―木地山峠13・10～15―桜谷山13・40～50―P765m14・15―与助谷山14・30～40―駒ヶ岳西尾根15・15～20―焼尾東谷出合16・15―木地山バス停16・25～40（バス）京都駅18・30（解散）

おにゅう峠までバスで入ったのでブナ林の尾根歩きとなった。雨上がりでギンリョウソウがあちこちに目につき、ヤマボウシ・サワフタギ・ホウの木の白い花が新緑のなかで目立っていた。早朝6時までの降水確率を見て勝手に判断されたのか？　無断欠席が5～6人もあった。

（参加者）沖　伸　山根弘美
小栗大直　西村文男　岡崎知子
長比裕美　志水明美　船本裕巳子
木村　豊　浅野　剛　武部美美子
高橋舜治　大槻一夫　佐々木輝子
小石浩子　竹内正子　村岡雄志郎
宮野哲郎　福島　昭　馬渕晶子
武村千鶴　上田裕子　大園加代子
三野　旭　西島芳洋　山崎みよ子
堤　良男　木内乾文　中尾美智子
稲津謙治　川田洋子　氷見真紗子
島田　廣　岡本正明　○仲谷礼司
◎狩野東彦　（計36名）

三池岳・仙香山

（鈴鹿を歩く335）

6月20日(日)　くもり時々雨
（集合）神崎川橋広場8・30（車）石榑峠9・05―三池岳11・30（昼食）12・25―八風峠12・35―仙香池13・00―仙香山13・10―八風谷林道14・40―八風谷取付15・45（車）回収16・25（解散）

石榑峠のトンネル開通を今や遅しと待ちわびる。梅雨の中休みを狙っての登山だったが山の天気は変わりやすい。雷が鳴り、シャワーのように雨を浴びたが、三池岳・中峠の好展望にため息が出る。仙香山からわずかな踏跡を頼りに谷に下り、林道へ。（美香子）

（参加者）服部　亮　中澤奥司博
粟岡克子　宮村信夫　中澤美香子
栗本敏夫　木下朝子　奥野太一郎
西村敏夫　加藤國計　白木やす子
岩本彩子　北村正美　石田眞由美

谷　守　一芝義雄　一芝英知子
吉岡うた子　○山田泉三
○岩野　明　（計20名）

湖南の山・武奈ケ嶽
6月26日(土)　○高島伸浩
＊雨天のため中止しました。

丹波・長老ケ岳
6月27日(日)　くもり
（集合）JR京都駅7・40（バス）上乙見9・20～40―林道終点10・00―尾根取付点10・40―尾根11・00～15―長老ケ岳11・40（昼食）12・30―785ピ東尾13・00（道迷い）13・30―展望休憩舎13・40―壊れた展望台13・50―森林公園管理棟駐車場14・00～15（バス）権現谷入口14・25―七色の木14・30―権現谷入口14・40（バス）あまごの里「かじか荘」14・45（休憩・あまご塩焼き）16・00（バス）京都駅18・00（解散）
「あまごの里」が仏主にあるので逆コースの上乙見から登り、仏主に下山した。林道終点から谷道を渡渉してつめ、谷を離れてから急な山斜面をジグザグに登った。くもり空で山頂からの展望は無いが涼しい風に癒された。ブナなどの自然林に包まれた森林ふれあいロードをくだった。あまごの里ではビールを飲み、ひとり二尾のあまごの塩焼きを味わった。
（参加者）岩村春子　和田純子　渡部和美　下山　登　下山誠公　石田里美　大槻一夫　里見綜生　三野　旭　梶原泰彦　武部芙美子　田辺弘子　平塚明美　山崎みよ子　岸本紀子　森井　謙　森井順子　葉子衣代　遠藤　寒　久保田玲子　志水明美　小松志信　名加恵美子　木村絹恵　夏山春子　○妹尾一正　○村田智俊　（計27名）

台高・小処温泉から笠ノ峰
6月27日(日)　くもり時々晴れ
（集合）近鉄榁原神宮前駅8・05～10（バス）小処温泉10・00―イチクボ分岐11・20―笠ノ峰12・35（昼食）13・25―イチクボ分岐―小処温泉15・00（バス）上北山村温泉15・10（入浴）16・10（バス）榁原神宮前駅18・00（解散）
登山口からイチクボの分岐に取り付くまで蒸し暑く厳しかった。尾根道から爽やかな涼風と新緑や小鳥の囀りを聞きながら、台高の登山を満喫した。小処温泉は秋まで休館らしく上北山村温泉で汗を流した。
（参加者）川俣　勲　松原眞由美　宮野哲郎　繁田広美　槙村信子　上田裕子　岩鶴健司　今泉　勲　狩野東彦　中辻　資　入江　勲　岩田育士　福津雄治　浅井良三　池田繁子　吉田俊治　川戸せつ　竹村英樹　川村信子　松村雅子　○下部正年　○西上利和　（計22名）

特別企画
智異山
（韓国の山旅シリーズ③）
6月1日(火)～4日(金)　3泊4日
（1日　晴れ）（集合）関西空港10・50～12・50（飛行機）釜山金海空港14・10～30（バス）晋州市ホテル17・00（泊）
（2日　晴れ）ホテル8・00（バス）内大理登山口9・30～50―小屋まで3.5中間点11・40（昼食）12・10―展望所13・20～30―細石山荘14・25～40―1652ピ峠15・30～40―細石山荘16・00（泊）
（3日　晴れ）小屋6・30―チョッテ峰6・55～7・10―1607ピ峠8・20～30―塩基頂山荘8・50～9・00―通天門9・50―智異山天王峰10・10～40―法界寺12・10～20―中山里14・10（昼食）14・50（バス）温泉15・20（入浴）17・00（バス）釜山海鮮料理店20・00（夕食）21・30（バス）ホテル22・00（泊）
（4日　晴れ）ホテル8・30（バス）金海空港9・30～10・50（飛行機）関西空港13・00（解散）
今回も4日間快晴に恵まれ、韓国第二の高峰に登った。ピンクのツツジが満開、稜線上にはカタクリが咲き誇っていた。内大理からゆるやかに細石山荘に登り、山頂から法界寺を過って中山里への急坂をくだった。ルートの樹林のなかは涼しく、快適な道だった。
（参加者）村井寿和　狩野東彦　小林　桂　田辺弘子　大西婚郎　竹田勝英　金谷　昭　前田喜久子　白鳥忠子　○村田智俊　（計10名）

（5・6月の参加者　延628名）

会員募集

当会は雑誌「新ハイキング関西の山」（隔月刊・年6号発行）の定期購読者を中心にしたハイキングの集いです。山の知識を深め、健康な身体をつくり、自然のなかを歩く喜びをともに広めましょう。

「新ハイキングクラブ」は昭和21年発足以来、関東を中心に60年間余、好評のうちに活動しています。関西は平成3年秋発足で19年目に入りますが、すでに数千名の会員で活動しています。

会員は当会のイベントに優先して参加できます。多くの仲間達とハイキングを楽しみましょう。

会員には「新ハイキング関西の山」を毎号お届けします。

係（リーダー）はすべて無償の奉仕で、各自で切符を買い茶代を払い、宿泊料もすべてワリカンです。会員が例会に参加されるときは、山行運営費として400円を実出していただきます。

四季の自然に触れながらの山歩きから、ウォーキングまで、若々しい心と健康をいつまでも持続するのはすばらしいことです。これから始めてみたい方、すでにベテランの方もみなさんご入会いただけます。

入会金　500円（ワッペン共）
年会費　3300円（送料共）

入会の申し込み（随時）は、この雑誌に挿入の振替用紙をご利用ください。郵何号からの送本かを忘れずにご記入ください。

なお、定期購読をご希望される方も会員になっていただきますと毎号確実にお手元に届けます。

お友達の住所・氏名をハガキで紹介くだされば、「新ハイキング関西の山」最新号を見本誌として無料で送ります。

○山行係（リーダー）募集

係は2ケ月に一～二回程度山行例会を実施していただきます。

経験のある方、やってみたいと思われる方は、新ハイキング関西までご連絡ください。

「新ハイ関西リーダー必携」をご参考にお送りします。

○新入会員（定期購読者）紹介

新しいお仲間のみなさんです。会員番号5553番から5563番まで（敬称略）。

【福井】田中和英
【滋賀】澤崎絹子
【京都】河村順子　山本幸子　安井昇太
【大阪】吉見和夫　丸山敏之　石橋光正　相生村京子　地石豊治
【兵庫】山野　啓　（11名）

訂正とお詫び・左記の通り訂正します

○112号（初夏）
＊14ページ表題「中級コース」→「中級コース」
＊22ページ下段13行「伝馬」ルビ「てんま」→「てんま」
＊29ページ付近図「行者還岳」→「行者還岳」
＊37ページ下段1行「壱伎」のルビ「いちの」→「いきの」
＊44ページ中段23行「マイズルソウ」→「マイヅルソウ」
＊47ページ中段1～4行「ショウモンカズラ」→「ラショウモンカズラ」、「ニヨイスミレ」→「ニヨイスミレ」、「ムラサキケマン」→「ムラサキケマン」
＊61ページ下段3行「徒下り」→「歩下り」
＊70ページ中段2行「返って」→「却って」
＊85ページ二段16行「丹羽長秀」→「丹羽長秀」

○113号（盛夏）
＊3ページ下写真の説明「シモツケソウとメタカシコウ」→「シモツケソウとメタカラコウ」
＊11ページ目次8行「草生温原」→「草毛温原」
＊32ページ三段2行「ジガバチソウ」→「ジガバチソウ」
＊34ページ上段4行「白玉昼草」のルビ「シロタマ」→「シラタマ」
＊81ページ付近図上「御岳山」→「神岳山」、「山中山」→「山中上」
＊84ページ一段5行「奥老寺川」→「奥光寺川」

書店でお求めになりたい方へ

前もって振号ほしいと「購読予約」をされますと、どこの書店でもお買い求めいただけます。「関西の山」は偶数月の20日頃（隔月刊）の発売